

令和5年度
年 報



独立行政法人

国立病院機構
National Hospital Organization

関門医療センター

〒752-8510 山口県下関市長府外浦町1番1号
TEL:083-241-1199(代表)/FAX:083-241-1301

<https://kanmon.hosp.go.jp>

巻頭言

関門医療センターの令和5年度の年報をお届けします。私は、昨年4月に当センターの病院長を拝命しましたので、今回の年報は私の病院長としての初年度の年報ということになります。私の就任前の前々回は3年分、前回は2年分をまとめたの発刊でしたが、今回は院内各部署の方々の多大なる協力により、1年分単年度で発行することが出来ました。

当センターの年報は平成26年度から発刊していますが、平成30年度からは内容を充実させ、施設概要、診療実績統計、顔写真入りの部門紹介(診療科ならびに各診療部門)と研究実績、さらには毎月発行している広報誌「海峡」も巻末に付けた内容になっています。今回も同様に、顔写真入りの職員紹介を含めた診療実績報告など充実した年報になりました。

令和5年度は新型コロナウイルス感染症が2類から5類となり、3年以上続いたコロナ禍から少しずつ解放され始めた時期でしたが、それでも病院経営は大変厳しいものでした。令和5年度の延べ外来患者数は、12.4万人で令和元年度の15.7万人と比べ21%の減、延べ入院患者数も、令和5年度は10.3万人で令和元年度の11.2万人と比べ8%の減でした。ただし全身麻酔の手術件数が、1685件と令和元年度の1543件より増えており、令和5年度の経常収支は何とか黒字で終わることが出来ました。

この巻頭言を書いている現在、本年6月の保険改定によって急性期病院は非常に厳しい経営を強いられているところであり、来年度に発刊する年報がどのような内容になるか今から戦々恐々としているところです。しかしこの難局をどうにかして乗り越えていかなければなりません。どうか当センターへの温かいご支援をお願い申し上げて巻頭の挨拶とさせていただきます。

なお、今回発刊した年報は当センターのホームページ(当センターの紹介>病院実績)に掲載し、誰でも閲覧することが出来るようにしてありますので、是非こちらの方でもじっくりとご覧いただきたいと思います。



令和6年11月吉日

独立行政法人国立病院機構関門医療センター

院長 吉野 茂文

目次

巻頭言	1
-----	---

Section 1 施設概要

施設概要	6
施設基準	7
指定医療	11
学会施設認定等	12
組織図	14
職員数	16
幹部名簿	17

Section 2 統計

患者数、診療点数等	20
紹介率・逆紹介率	
ビーンズ訪問看護ステーション 訪問看護利用件数	22
手術件数(手術室実施分)	23
コ・メディカルデータ	24
「病院情報の公表」	26

Section 3 部門紹介

糖尿病・血液内科	34
総合診療	36
精神科	38
脳神経内科	40
消化器内科	42
循環器内科	44
小児科	46
外科	48
心臓血管外科	50
整形外科	52
脳神経外科	54

泌尿器科	56
産婦人科	58
眼科	60
耳鼻咽喉科	62
放射線診断科	64
放射線治療科	66
病理診断科	68
救急科	70
麻酔科・ペインクリニック	72
歯科口腔外科	74
女性総合外来	76
薬剤部	78
診療放射線科	80
臨床検査科	82
栄養管理室	84
リハビリテーション科	86
医療機器管理室	88
心理療法	90
地域医療連携室	92
看護部	94
事務部(管理課・企画課)	102
診療情報管理室	104

Section 4 研究実績

原著論文、総説、著書(英文)	108
原著論文、総説、著書(和文)	110
国際学会発表	111
国内学会発表	112

Section 5 広報誌「海峡」

海峡244号～海峡255号	119
---------------	-----



 *Section 1*

施設概要

施設概要

R6.4.1

名称	どくりつぎょうせいほうじんこくりつびょういんきこう かんもんいりょうせんたー 独立行政法人国立病院機構 関門医療センター National Hospital Organization Kanmon Medical Center	所在地	〒752-8510 山口県下関市長府外浦町1番1号 Tel 083-241-1199 Fax 083-241-1301
幹部職員	院長 吉野 茂文 副院長 鶴 政俊 臨床研究部長 戒能 聖治	事務部長 中村 一弥 看護部長 小林 奈々 薬剤部長 尾崎 誠一 企画課長 水尻 和夫 管理課長 中村 卓記	
病床数	医療法許可病床 一般 400床(うちICU6床、救命救急センター24床) 運用病床数 328床(急性期一般 267床、ICU 4床、救命救急センター 12床、地域支援病棟 45床)		
診療科目 (34診療科)	内科(総合診療) 糖尿病・血液内科 脳神経内科 消化器内科 呼吸器内科 肝臓内科 循環器内科 腫瘍内科 女性内科(女性総合診療) 精神科 小児科 外科 形成外科 乳腺外科 呼吸器外科 消化器外科 内視鏡外科 心臓血管外科 整形外科 リウマチ科 脳神経外科 皮膚科 泌尿器科 産婦人科 眼科 耳鼻いんこう科 リハビリテーション科 放射線診断科 放射線治療科 臨床検査科 病理診断科 救急科(ER24) 歯科口腔外科 麻酔科		
診療機能	地域医療支援病院(平成26年2月) 第二次救急医療施設(昭和52年10月)・救命救急センター(平成17年5月) エイズ治療拠点病院(平成8年7月)・エイズ治療中核拠点病院(平成19年4月) 災害拠点病院(平成22年11月) 臨床研修指定病院(平成30年3月)		

基本方針

- * 地域の皆様の健康と医療を守る
 - ・地域住民の健康と医療を守り、地域社会に安心・安全をもたらす
 - ・地域住民からの信頼を最大化する
- * 共に働く仲間を信頼し、尊重する
 - ・共に働く仲間が働き甲斐と矜持を持てる職場に！
 - ・チーム医療、多職種連携を推進し”チーム関門”としての連携を強化！

病院理念

国立病院機構の使命を果たす病院として、常に地域の皆さま本位の立場から次の病院理念を推し進める。

- ①あらゆる先駆けとなる医療に果敢に挑戦する。
- ②病気を成り立ちから見つめ、その克服のために最良の道を患者さんとともに歩む。
- ③次の世代をはぐくみ無限の可能性を引き出す。
 - ・キーワードは①「先駆け」 ②「地域」 ③「教育」
 - ・教育標語”3S”…①スピード、②スタンダード&セイフティ、③スマイル

関門医療センターの使命

- 先駆的医療の実施 ○患者さん中心の医療 ○地域活動の支援 ○若い人を育てる

私達の挑戦

- * 関門医療センターは病める人々に最善の医療を提供し、地域社会に安心安全をもたらすことをもっとも大切な使命とこころえています。
- * 私たちは目の前の人を、思いやりと愛情で寄り添い支え、安心と感動をお届けいたします。

施設基準

事 項 (区 分)		算定開始年月日
-	入院時食事療養費 (I)	平成21年4月15日
-	食堂加算	平成21年4月15日
A000	注16医療DX推進体制整備加算	令和6年6月1日
A100	一般病棟入院基本料(7対1)	平成28年4月1日
A100	一般病棟入院基本料(急性期一般入院料1)	平成30年4月1日
A200	総合入院体制加算3	平成28年4月1日
A204-2	臨床研修病院入院診療加算(基幹型)	平成21年4月15日
A205	救急医療管理加算	平成22年4月1日
A205-2	超急性期脳卒中加算	平成21年4月15日
A205-3	妊産婦緊急搬送入院加算	平成22年11月1日
A207	診療録管理体制加算1	平成27年5月1日
A207-2	医師事務作業補助体制加算1(20:1)	平成26年9月1日
A207-3	急性期看護補助体制加算(50対1)	令和2年6月1日
A207-3 注2	夜間100対1急性期看護補助体制加算	令和3年5月1日
A207-3 注3	夜間看護体制加算	令和3年5月1日
A207-3 注4	看護補助体制充実加算	令和3年6月1日
A207-4	看護職員夜間16対1配置加算	令和元年9月1日
A219	療養環境加算	平成21年6月1日
A221	重症者等療養環境特別加算	平成21年4月15日
A224	無菌治療室管理加算2	平成24年4月1日
A230-4	精神科リエゾンチーム加算	令和5年2月1日
A233-2	栄養サポートチーム加算	平成22年4月1日
A234	医療安全対策加算1	平成22年4月1日
A234	医療安全対策加算(医療安全対策地域連携加算1)	平成30年4月1日
A234-2	感染対策向上加算1	平成27年4月1日
A234-2	感染対策向上加算(指導強化加算)	平成27年4月1日
A234-3	患者サポート体制充実加算	平成24年4月1日
A234-4	重症患者初期支援充実加算	令和4年4月1日
A234-5	報告書管理体制加算	令和4年4月1日
A236-2	ハイリスク妊娠管理加算	平成22年11月1日
A242	呼吸ケアチーム加算	平成23年12月1日
A243	後発医薬品使用体制加算1	令和元年9月1日
A244	病棟薬剤業務実施加算1	平成27年11月1日
A244	病棟薬剤業務実施加算2	平成28年4月1日
A245	データ提出加算2(200床以上)	平成26年10月1日
A246	入退院支援加算1	平成28年10月1日
A246	地域連携診療計画加算	平成28年10月1日
A246	入院時支援加算	平成31年1月1日
A247	認知症ケア加算1	平成29年1月1日
A247-2	せん妄ハイリスク患者ケア加算	令和2年4月1日
A252	地域医療体制確保加算	令和2年4月1日
A301	特定集中治療室管理料5	平成27年4月1日
A301	特定集中治療室管理料(早期離床・リハビリテーション加算)	平成30年4月1日
A301	特定集中治療室管理料(早期栄養介入管理加算)	令和2年4月1日
A301-2	ハイケアユニット入院医療管理料2	令和6年6月1日

事 項 (区 分)		算定開始年月日
A301-2	ハイケアユニット入院医療管理料(早期離床・リハビリテーション加算)	令和6年6月1日
A301-2	ハイケアユニット入院医療管理料(早期栄養介入管理加算)	令和6年6月1日
A308-3	地域包括ケア病棟入院料2	平成26年10月1日
A308-3	看護職員配置加算	平成26年10月1日
O000	看護職員処遇改善評価料58	令和6年6月1日
O100	外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)	令和6年6月1日
O102	入院ベースアップ評価料59	令和6年6月1日
	訪問看護ベースアップ評価料(Ⅰ)	令和6年6月1日
	訪問看護ベースアップ評価料(Ⅱ)10	令和6年6月1日
B001-1	ウィルス指導料加算	令和2年4月1日
B001-2	小児科外来診療料	平成21年4月15日
B001-2-5	院内トリアージ実施料	平成25年10月1日
B001-2-7	外来リハビリテーション診療料	平成24年4月1日
B001-2-8	外来放射線照射診療料	平成24年4月2日
B001-2-12	外来腫瘍化学療法診療料1	平成24年4月3日
B001-2-12	外来腫瘍化学療法診療料(連携充実加算)	平成24年4月4日
B001-2-12注8	連携充実加算	令和4年4月1日
B001-2-12注9		令和6年6月1日
B001-16	喘息治療管理料	平成21年4月15日
B001-20	糖尿病合併症管理料	平成21年6月1日
B001-22	がん性疼痛緩和指導加算料	平成23年11月1日
B001-23	がん患者指導管理料イ	平成23年11月1日
B001-23	がん患者指導管理料ロ	平成26年4月1日
B001-24	がん患者指導管理料ハ	令和4年4月1日
B001-25	がん患者指導管理料ニ	令和4年4月1日
B001-30	婦人科特定疾患治療管理料	令和2年4月1日
B001-33	生殖補助医療管理料1	令和4年4月1日
B001-34	二次性骨折予防継続管理料1	令和4年4月1日
B001-34	二次性骨折予防継続管理料3	令和4年4月1日
B008	薬剤管理指導料	平成21年4月15日
B009	検査・画像情報提供加算	平成28年10月1日
B009-2	電磁的診療情報評価料	平成28年10月1日
B011-4	医療機器安全管理料1	平成21年4月14日
B011-4	医療機器安全管理料2	令和4年4月1日
C005	在宅患者訪問看護・指導料	令和元年10月1日
C005-1-2	同一建物居住者訪問看護・指導料	令和元年10月1日
C152-2	持続血糖測定器加算	平成28年2月1日
D006-2	造血管腫瘍遺伝子検査	平成24年10月1日
D006-4	遺伝学的検査	平成29年9月1日
D006-18	BRCA1/2遺伝子検査	令和2年4月1日
D023	HPV核酸同定検査	平成22年4月1日
D023	HPV核酸同定検査(簡易ジェノタイプ判定)	平成22年4月1日
D026	検体検査管理加算(Ⅱ)	平成29年11月1日
D225-4	ヘッドアップティルト試験	平成25年3月1日
D231-2	皮下連続式グルコース測定	平成28年2月1日

事 項 (区 分)		算定開始年月日
D239-3	神経学的検査	平成21年4月15日
D409-2	センチネルリンパ節生検	平成22年4月1日
E -	画像診断管理加算1	平成21年4月15日
E -	画像診断管理加算2	平成22年1月1日
E101-2	ポジトロン断層撮影	平成22年4月1日
E101-3	ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	平成22年4月1日
E200	CT撮影(64列)	平成28年10月1日
E200	冠動脈CT撮影加算	平成22年1月1日
E200	外傷全身CT加算	平成22年4月1日
E200	大腸CT撮影加算	平成24年4月1日
E202	MRI撮影(1.5テスラ以上3テスラ未満)	平成24年4月1日
E202	心臓MRI撮影加算	平成22年1月1日
E202	乳房MRI撮影加算	平成29年6月1日
F100	抗悪性腫瘍剤処方管理加算	平成22年4月1日
G -	外来化学療法加算1	平成21年4月15日
G020	無菌製剤処理料	平成21年4月15日
H -	各リハビリテーション料初期加算	平成24年4月1日
H001	脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	平成21年4月15日
H002	運動器リハビリテーション料(I)	平成22年4月1日
H003	呼吸器リハビリテーション料(I)	平成21年4月15日
H007-2	がん患者リハビリテーション料	平成26年3月1日
J001-10	静脈圧迫処置	令和3年9月1日
J038	人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)	平成30年4月1日
J038	導入期加算1	平成30年4月1日
J038	下肢末梢動脈疾患指導管理加算	平成30年3月1日
K046	緊急整復固定加算	令和4年4月1日
K081	緊急挿入加算	令和4年4月1日
K134-4	椎間板内酵素注入療法	令和2年10月1日
K181	脳刺激装置植込術	平成21年4月1日
K181	脳刺激装置交換術	平成21年4月1日
K190	脊髄刺激装置植込術	平成21年4月1日
K190-2	脊髄刺激装置交換術	平成21年4月1日
K476	乳がんセンチネルリンパ節加算	平成22年4月1日
K546	経皮的冠動脈形成術	平成26年4月1日
K549	経皮的冠動脈ステント留置術	平成26年4月1日
K597 K597-2	ペースメーカー移植術/交換術(電池交換含む)	平成21年4月1日
K600	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	平成21年4月1日
K664	胃瘻造設術(要件を満たす)	平成27年4月1日
K668-2	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	令和4年4月1日
K695-2	腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	平成29年10月1日
K702-2	腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術	平成31年2月1日
K721-4	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	令和3年6月1日
K800-3	膀胱水圧拡張術	令和4年12月1日
K800-4	ハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)	令和4年12月1日

事 項 (区 分)		算定開始年月日
K865-2	腹腔鏡下仙骨脛固定術	令和4年11月1日
K920-2	輸血管理料Ⅱ	平成22年10月1日
K920-2	輸血適正使用加算	平成24年4月1日
K939-3	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	平成24年4月1日
—	医科点数表第2章第10部手術の通則の5及び6に掲げる手術	施設基準を満たしていれば届出不要
L009	麻酔管理料	平成21年4月15日
M000	放射線治療専任加算	平成21年6月1日
M000	外来放射線治療加算	平成21年6月1日
M001	画像誘導放射線治療加算(IGRT)	令和4年7月1日
N006	病理診断管理加算1	平成24年4月1日
N006	悪性腫瘍病理組織標本加算	平成30年5月1日
歯科A000	初診料(歯科)注1に掲げる施設基準	平成30年4月1日
歯科A000-00	歯科外来診療医療安全対策加算1	令和6年6月1日
歯科A002-00		
歯科A000-00	歯科外来診療感染対策加算1	令和6年6月1日
歯科A002-00		
歯科B004-6-2	歯科治療時医療管理料	平成31年1月1日
歯科P100-00	歯科外来・在宅ベースアップ評価料	令和6年6月1日

指定医療

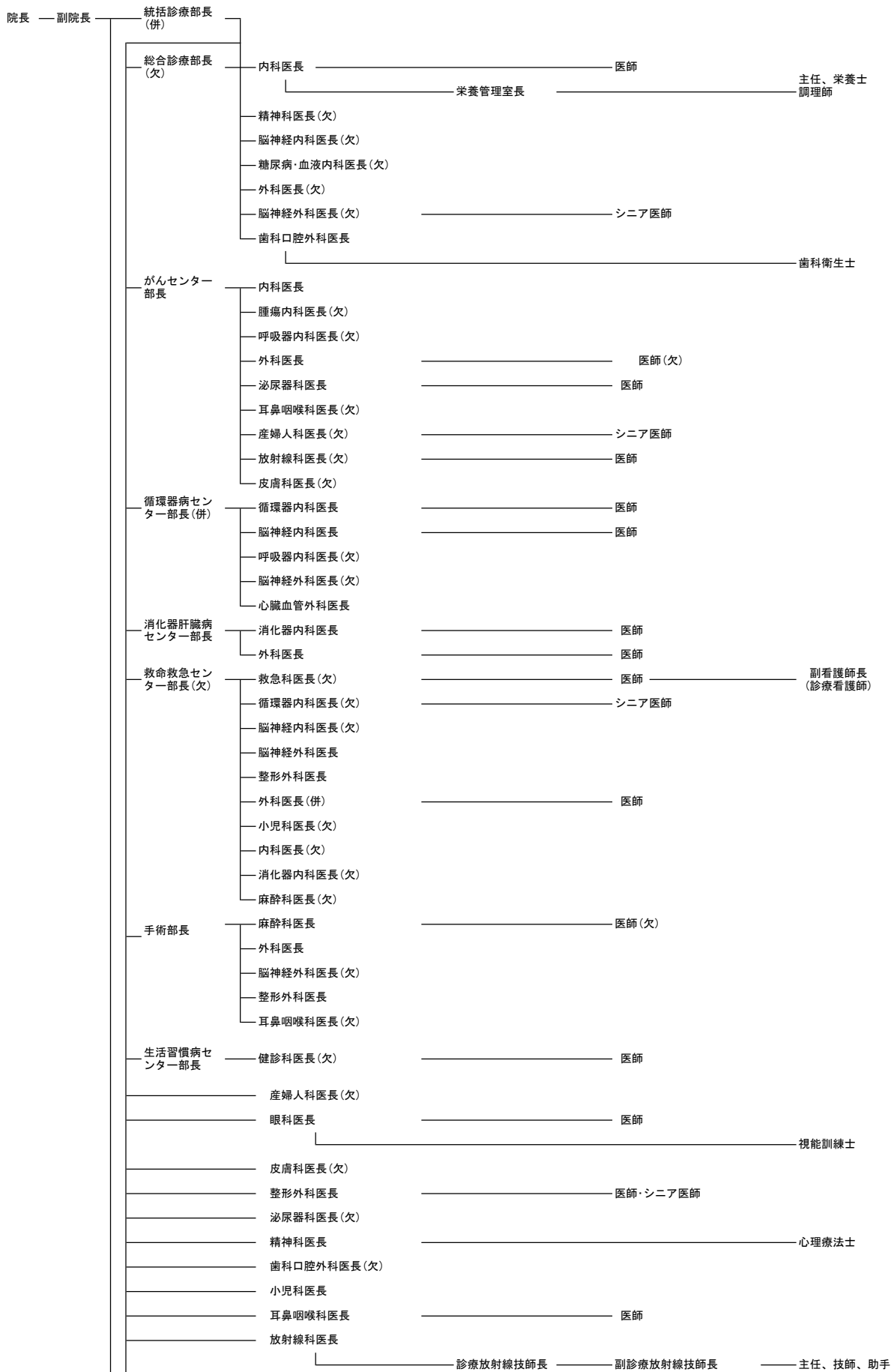
事 項
母子保健法(療育医療)
身体障害者福祉法及び戦傷病者特別援護法(更生医療・・・耳鼻咽喉科、整形外科)
児童福祉法(成育医療)
原子爆弾被爆者医療等に関する法律(認定疾病)
結核予防法
生活保護法
労災保険法
母体保護法
公害健康被害補償法

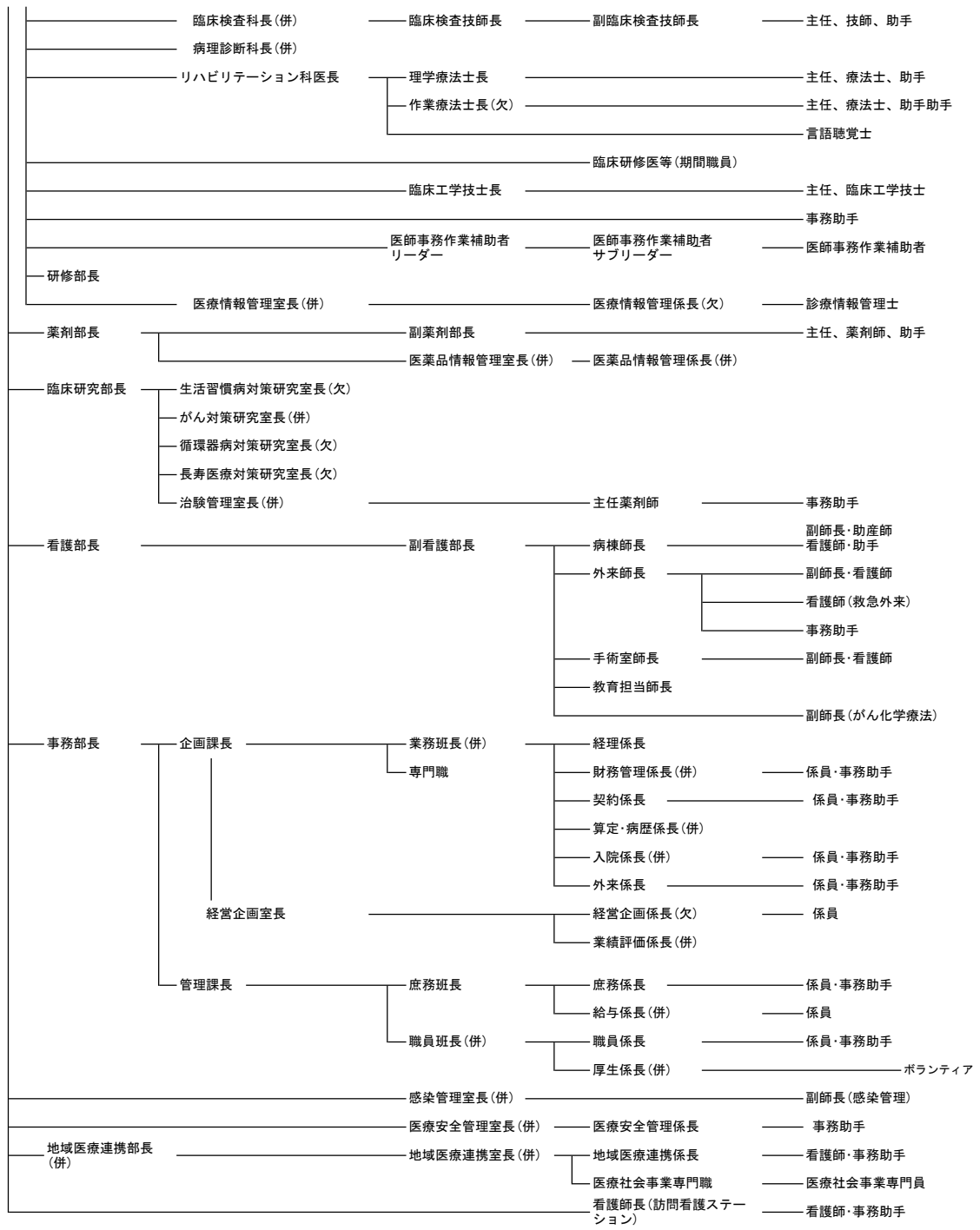
学会施設認定等

項 目	指定日
日本外科学会外科専門医制度修練指定施設	昭和55年10月16日
日本脳神経外科学会 専門医研修プログラム連携施設	昭和56年8月6日
日本整形外科学会専門医研修施設	昭和58年4月11日
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設	昭和59年3月24日
日本麻酔科学会認定病院	昭和59年8月23日
日本内科学会教育関連病院	昭和60年4月1日
日本泌尿器科学会専門医教育施設	昭和61年4月1日
日本産科婦人科学会体外受精・胚移植の臨床実施及びヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録施設	昭和63年4月1日
日本消化器病学会認定・関連施設	平成1年12月1日
日本循環器学会認定研修施設	平成3年4月1日
日本消化器内視鏡学会認定医指導施設	平成5年12月1日
日本消化器外科専門医修練施設	平成7年1月1日
日本脳卒中学会認定研修教育病院	平成11年11月11日
日本がん治療認定医機構認定研修施設	平成19年11月1日
日本消化器外科学会専門医修練施設	平成19年12月11日
日本病理学会研修登録施設	平成22年4月1日
日本手外科学会手外科研修施設	平成22年4月14日
日本医療機能評価機構認定施設	平成22年7月2日
日本精神神経学会精神科専門研修施設	平成23年4月1日
日本眼科学会専門研修施設	平成23年4月1日
麻酔科認定病院	平成23年4月1日
日本診療放射線学会医療被ばく低減施設	平成24年1月1日
日本高血圧学会専門医認定施設	平成24年4月1日
科研費指定研究機関	平成25年3月21日
日本胆道学会指導施設	平成25年7月1日
日本臨床腫瘍学会認定研修施設	平成26年4月1日
日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設	平成26年4月1日
日本リウマチ学会教育施設	平成26年9月1日
マンモグラフィ検診施設画像認定施設	平成27年2月1日
日本静脈経腸栄養学会NST専門療法士認定教育施設	平成27年4月1日
日本集中治療医学会専門医研修施設	平成27年4月1日
日本理学療法士協会臨床指導施設	平成27年5月1日
日本産婦人科学会専門研修連携施設	平成28年8月1日
日本栄養療法推進協議会認定NST稼働施設	平成28年9月1日
日本乳癌学会関連施設	平成28年1月1日
日本神経学会教育関連施設	平成29年4月1日
日本臨床細胞学会施設	平成29年4月1日
HIV感染症薬物療法認定薬剤師養成研修施設	平成30年4月1日
日本食道学会食道外科専門医認定施設	平成31年1月1日
下肢静脈瘤血管内焼灼術実施施設	令和1年6月10日
腹部ステントグラフト実施施設	令和1年7月17日
日本脈管学会認定研修関連施設	令和1年10月9日
日本外科感染症学会認定外科周術期感染管理教育施設	令和1年11月28日
心臓血管外科専門医認定修練施設(関連施設)	令和2年1月1日
浅大腿動脈ステントグラフト実施施設	令和2年7月1日
日本乳癌学会認定施設	令和3年1月1日
画像診断管理認証施設	令和4年4月1日
日本胃癌学会認定施設A	令和5年4月1日

MEMO 

組織図





職 員 数

			常勤		期間職員		非常勤	
			定数	人数	定数	人数	定数	人数
医療職(一)	院 長	1	1					
	副 院 長	1	1					
	部 長	4	4					
	医 師	27	27					
	医 生	17	17	33	29.70			
	計	49	49	33	29.70	0	0	
医療職(二)	薬 劑 部 長	1	1					
	副 薬 劑 部 長	1	1					
	主 任 薬 劑 師	4	4					
	薬 劑 師	12	9					
	小 計	18	15	0	0	0	0	
	診療放射線技師長	1	1					
	副診療放射線技師長	1	1					
	主任診療放射線技師	4	3					
	診療放射線技師	9	9					
	小 計	15	14	0	0	0	0	
	臨床検査技師長	1	1					
	副臨床検査技師長	1	1					
	主任臨床検査技師	4	4					
	臨床検査技師	9	9				0.77	
	小 計	15	15	0	0	0	0.77	
	栄養管理室長	1	1					
	主任栄養士	1	0					
	栄 養 士	3	3					
	小 計	5	4	0	0	0	0	
	理学療法士長	1	1					
	主任理学療法士	2	2					
	理学療法士	13	10					
	小 計	16	13	0	0	0	0	
	作業療法士長	1	0					
	副作業療法士長	0	0					
	主任作業療法士	2	2					
	作業療法士	8	9					
	小 計	11	11	0	0	0	0	
	言語聴覚士	3	2	0	0	0	0	
	臨床工学技士長	1	1					
	主任臨床工学技士	2	1					
	臨床工学技士	4	5					
	小 計	7	7	0	0	0	0	
視能訓練士	1	1			0.77	0		
心理療法士	2	2			0.77	0.77		
歯科衛生士	1	1			0.77	0.77		
計	96	89	0	0	1.54	3.47		
医療職(三)	看護部長	1	1					
	副看護部長	2	2					
	看護師長	14	14					
	副看護師長	25	22					
	看護師	259	277			17.06	20.71	
	計	301	320	0	0	17.06	21.48	
福祉職	医療社会事業専門職	1	1					
	医療社会事業専門員	4	4					
	計	5	5	0	0	0	0	
事務職	事務部長	1	1					
	課長・室長	3	3					
	班長・専門職	4	2					
	係長	8	5					
	一般職員	6	9					
	計	22	20	0	0	47.59	49.68	
診療情報管理職	医療情報管理係長	1	0					
	診療情報管理士	4	5					
	計	5	5	0	0	0	0	
技能職		2	2	0	0	30.1	23.93	
合 計			481	491	30	30	125	97.64

幹部名簿

役職	
院長	吉野 茂文
副院長	佐藤 穰
統括診療部長	鶴 政俊
臨床研究部長	戒能 聖治
手術部長	内本 亮吾
研修部長	大谷 望
看護部長	小林 奈々
副看護部長	川添 由紀子
	服部 有希
薬剤部長	引地 正人
事務部長	難波 和弘
企画課長	水尻 和夫
管理課長	中村 卓記



 *Section 2*

統計

統 計

診療科別 患者数、診療点数等

	外来					延べ患者数	1日平均患者数
	延べ患者数	1日平均患者数	延べ診療点数	1人1日診療点数	初診患者数		
内科	209	0.9	98,352	470.6	30	31	0.1
糖尿病・血液内科	12,362	50.9	43,017,659	3,479.8	154	9,596	26.2
総合診療科	3,466	14.3	10,957,043	3,161.3	1,526	3,103	8.5
女性総合	106	0.4	46,890	442.4	7		
(内科 計)	16,143	66.4	54,119,944	3,352.5	1,717	12,730	34.8
精神科	4,272	17.6	1,531,355	358.5	56	51	0.1
脳神経内科	8,604	35.4	49,600,980	5,764.9	451	12,604	34.4
呼吸器内科	1,920	7.9	2,798,572	1,457.6	25		
消化器内科	10,298	42.4	25,703,654	2,496.0	479	10,466	28.6
循環器内科	6,642	27.3	4,652,849	700.5	60	4,744	13.0
小児科	4,066	16.7	2,965,445	729.3	435	911	2.5
外科	10,442	43	74,537,131	7,138.2	507	15,300	41.8
心臓血管外科	1,122	4.6	840,654	749.2	63	2,699	7.4
整形外科	15,250	62.8	15,147,591	993.3	741	31,337	85.6
脳神経外科	1,713	7.0	2,864,282	1,672.1	54	3,885	10.6
形成外科	776	3.2	336,726	433.9	30		
皮膚科	2,040	8.4	447,341	219.3	18		
泌尿器科	17,292	71.2	35,390,085	2,046.6	161	4,144	11.3
産婦人科	2,714	11.2	2,811,178	1,035.8	181	1,675	4.6
眼科	2,522	10.4	3,072,356	1,218.2	111	85	0.2
耳鼻咽喉科	4,035	16.6	6,353,148	1,574.5	282	1,581	4.3
リハ科	2,815	11.6	165	0.1	0		
放射線診断	1,065	4.4	3,659,779	3,436.4	765		
放射線治療	166	0.7	312,760	1,884.1	0		
救急科	4,926	20.3	9,827,540	1,995.0	2,646	73	0.2
麻酔科	992	4.1	226,406	228.2	6	76	0.2
歯科口腔外科	3,738	15.4	2,221,661	594.3	534	761	2.1
合計	123,553	508.4	299,421,602	2,423.4	9,322	103,122	281.8

病棟別 患者数、診療点数等

	延べ患者数	1日平均患者数	平均在院日数	延べ診療点数	1人1日あたり診療点数	新入院数	退院数
救命救急	3,083	8.4	7.0	53,045,593	17,205.8	741	138
ICU	898	2.5	19.1	37,895,937	42,200.4	67	27
4C	14,256	39.0	15.7	98,218,989	6,889.7	902	912
5B	15,667	42.8	24.4	82,449,359	5,262.6	558	724
6B	14,878	40.7	15.5	78,011,629	5,243.4	915	1,000
6C	16,248	44.4	12.0	124,928,758	7,688.9	1,389	1,326
7B	17,395	47.5	22.0	133,451,697	7,671.8	911	671
急性期病棟 計	78,444	214.3	16.9	517,060,432	6,591.5	4,675	4,633
5C	7,917	21.6	17.2	31,588,861	3,990.0	298	624
7C	12,780	34.9	22.5	52,219,966	4,086.1	387	750
地域包括 計	20,697	56.5	20.1	83,808,827	4,049.3	685	1,374
合計	103,122	281.8	16.7	691,810,789	6,708.7	6,168	6,172

入院					合計 診療点数	
平均 在院日数	延べ 診療点数	1人1日 診療点数	延べ 新入院数	1日当たり 新入院数		
1.0	380,670	12,279.7	31	0.1	479,022	内科
19.7	73,241,184	7,632.5	483	1.3	116,258,843	糖尿病・ 血液内科
28.6	15,167,499	4,888.0	106	0.3	26,124,542	総合診療科
					46,890	女性総合
20.3	88,789,353	6,974.8	620	1.7	142,909,297	(内科 計)
2.4	878,514	17,225.8	21	0.1	2,409,869	精神科
22.5	75,375,086	5,980.3	566	1.5	124,976,066	脳神経内科
					2,798,572	呼吸器内科
12.4	63,323,510	6,050.4	840	2.3	89,027,164	消化器内科
20.8	28,361,040	5,978.3	226	0.6	33,013,889	循環器内科
3.5	5,158,551	5,662.5	263	0.7	8,123,996	小児科
11.3	130,428,897	8,524.8	1,348	3.7	204,966,028	外科
28.1	19,595,922	7,260.4	96	0.3	20,436,576	心臓血管外科
27.2	201,874,167	6,442.0	1,152	3.1	217,021,758	整形外科
26.3	26,023,874	6,698.6	134	0.4	28,888,156	脳神経外科
					336,726	形成外科
					447,341	皮膚科
11.1	26,318,913	6,351.1	371	1.0	61,708,998	泌尿器科
15.1	8,919,054	5,324.8	109	0.3	11,730,232	産婦人科
1.0	1,726,054	20,306.5	85	0.2	4,798,410	眼科
9.1	8,906,599	5,633.5	175	0.5	15,259,747	耳鼻咽喉科
					165	リハ科
					3,659,779	放射線診断
					312,760	放射線治療
1.8	1,695,524	23,226.4	66	0.2	11,523,064	救急科
10.1	426,252	5,608.6	10	0.0	652,658	麻酔科
8.7	4,009,479	5,268.7	86	0.2	6,231,140	歯科口腔外科
16.7	691,810,789	6,708.7	6,168	16.9	991,232,391	合計

病棟名	運営病床数	主な診療科	届出入院基本料
E1病棟	12 床	救命救急センター	救命救急入院料1
E2病棟	4 床	ICU	特定集中治療室管理料3
4C病棟	54 床	産婦人科、新生児、糖尿病・血液内科、眼科、泌尿器科	急性期一般入院料1
5B病棟	52 床	脳神経外科(急性期)、脳神経内科(急性期)、循環器内科(急性期)、総合診療(急性期)	急性期一般入院料1
5C病棟	51 床	総合診療、循環器内科、脳神経外科、脳神経内科	地域包括ケア病棟入院料2
6B病棟	54 床	消化器内科、腫瘍内科、外科、緩和ケア、放射線科、歯科口腔外科	急性期一般入院料1
6C病棟	53 床	外科(周術期)、消化器内科(内視鏡治療)	急性期一般入院料1
7B病棟	54 床	整形外科、耳鼻咽喉科、小児科	急性期一般入院料1
7C病棟	45 床	整形外科、脳神経内科、脳神経外科	地域包括ケア病棟入院料2

🏠 紹介率・逆紹介率

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
A 初診患者数	742	809	770	920	925	764	863	769	741	824	766	773	9,666
B 初診紹介患者数	341	413	376	404	369	370	422	389	363	348	371	399	4,565
C 初診救急搬送	135	186	174	240	235	192	209	153	180	262	177	199	2,342
D 初診休日夜間	115	162	137	205	195	117	117	116	126	123	114	130	1,657
E 逆紹介患者数	489	489	508	502	473	469	548	449	475	406	428	519	5,755
紹介率	69.3%	89.6%	81.9%	85.1%	74.5%	81.3%	78.6%	77.8%	83.4%	79.3%	78.1%	89.9%	80.6%
逆紹介率	99.4%	106.1%	110.7%	105.7%	95.6%	103.1%	102.0%	89.8%	109.2%	92.5%	90.1%	116.9%	101.6%

$$\text{紹介率} = \frac{\text{B 初診紹介患者数}}{\text{A 初診患者数} - \text{C 初診救急搬送} - \text{D 初診休日夜間}}$$

$$\text{逆紹介率} = \frac{\text{E 逆紹介患者数}}{\text{A 初診患者数} - \text{C 初診救急搬送} - \text{D 初診休日夜間}}$$

🏠 ビーンズ訪問看護ステーション

○訪問看護利用件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護保険分	173	165	178	160	184	142	155	149	149	146	137	146	848
医療保険分	57	57	73	95	82	81	70	68	84	65	57	59	2,732
計	230	222	251	255	266	223	225	217	233	211	194	205	3,580

手術件数(手術室実施分)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計	月平均
手術 件数	総件数	170	194	191	163	197	174	189	206	161	197	187	179	2,208	184.0
	外科	50	51	46	36	47	46	44	59	42	48	44	40	553	46.1
	心臓血管外科	6	12	10	8	4	6	5	5	4	9	8	3	80	6.7
	脳神経外科	6	9	15	5	3	5	7	3	9	8	7	2	79	6.6
	整形外科	85	105	85	89	108	90	103	100	79	102	93	100	1,139	94.9
	産婦人科	3	5	3	1	1	2	2	3	3	3	2	3	31	2.6
	泌尿器科	10	9	13	9	12	9	18	17	9	11	13	13	143	11.9
	耳鼻咽喉科	3	3	6	5	6	1	1	5	7	5	6	7	55	4.6
	歯科口腔外科	3	0	3	3	5	6	0	4	1	1	5	3	34	2.8
	眼科	4	0	10	6	10	8	9	9	7	10	8	8	89	7.4
	その他	0	0	0	1	1	1	0	1	0	0	1	0	5	0.4
手術 点数	200～ 2999点	10	7	12	18	22	16	11	10	18	10	15	11	160	13.3
	3000～ 7999点	21	20	22	24	26	20	22	24	14	17	20	34	264	22
	8000点 以上	139	167	157	120	148	136	156	172	129	170	152	134	1,780	148.3
	自費・ 算定不可	0	0	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	4	0.3
(再掲)時間外手術		37	50	53	32	42	35	54	41	27	35	43	38	487	40.6

麻酔 件数	全麻	130	146	133	113	155	130	149	162	118	159	146	144	1,685	140.4
	腰麻	6	8	10	10	12	7	5	11	4	7	6	8	94	7.8
	局麻	15	28	36	35	21	28	28	29	33	28	29	23	333	27.8
	その他	19	12	12	5	9	9	7	4	6	3	6	4	96	8
麻酔 点数	1000点 未満	40	49	54	50	42	44	40	44	44	38	41	35	521	43.4
	1000点 以上	130	145	137	113	155	130	149	162	117	159	146	144	1,687	140.6

コ・メディカルデータ

○薬剤部

	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
薬剤師人数	人	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	12.0
薬剤管理指導 件数	件	432	458	590	508	727	673	598	560	560	460	427	443	6,436
後発医薬品採用 品目数比率	%	64.67%	64.29%	64.84%	63.97%	64.90%	65.81%	65.98%	65.82%	65.26%	65.76%	65.46%	65.41%	64.67%
(購入金額 ベース)	%	(59.88%)	(59.28%)	(61.27%)	(68.21%)	(70.04%)	(72.50%)	(79.66%)	(67.47%)	(78.61%)	(71.91%)	(55.77%)	(55.92%)	(59.88%)
[消費数量 ベース]	%	[92.99%]	[94.63%]	[92.50%]	[93.45%]	[94.95%]	[93.03%]	[96.13%]	[94.37%]	[94.50%]	[95.47%]	[93.72%]	[94.39%]	[92.99%]
調剤件数	件	82,507	78,963	81,284	85,064	90,651	80,250	83,830	73,443	80,432	91,127	83,284	78,634	82,507

○診療放射線科

	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
診療放射線技師 人数	人	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
エックス線診断 ・単純	人	2,149	2,147	2,152	2,348	2,298	2,050	2,226	2,181	2,047	2,199	1,962	2,038	25,797
エックス線診断 ・造影	人	137	147	152	158	148	174	169	159	149	127	192	127	1,839
エックス線診断 ・血管造影	人	14	11	9	21	12	12	23	19	25	24	17	18	205
SPECT	人	90	91	88	77	95	75	78	87	71	74	74	87	987
PET、PET/CT	人	31	27	31	34	37	29	39	16	0	0	21	36	301
CT	人	1,140	1,120	1,113	1,168	1,188	1,153	1,176	1,078	1,070	1,191	1,087	1,190	13,674
MRI	人	373	387	406	402	410	389	413	374	398	377	377	378	4,684
放射線治療	人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	158	164

(1月まで放射線治療装置の入れ替え)

○栄養管理室

	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
栄養食事指導 ・入院	件	89	49	62	65	54	55	41	47	40	43	45	41	631
栄養食事指導 ・外来	件	57	42	32	37	42	31	35	27	33	24	30	22	412
栄養食事指導 ・集団	件	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
栄養食事指導 ・非加算	件	4	2	5	4	7	4	2	2	0	1	7	1	39

○臨床工学技士

	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
透析患者数	人	37	35	36	42	41	40	41	40	36	40	42	44	474
透析実施件数	件	434	449	440	451	452	435	473	437	437	462	420	457	5,347
高気圧酸素治療 実施件数	件	207	172	282	333	257	233	154	95	172	157	166	192	2,420

コ・メディカルデータ

○臨床検査科

		単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
検体検査	一般検査	件	3,616	3,891	4,182	3,933	4,120	4,149	4,397	4,317	4,241	3,980	3,734	3,883	48,443
	血液学的検査	件	12,133	12,338	12,551	13,068	13,282	12,699	12,969	12,704	12,821	13,875	12,820	13,037	154,297
	生化学的検査	件	64,313	64,972	66,579	68,235	70,005	66,217	68,655	65,753	65,806	68,775	65,684	67,334	802,328
	免疫学的検査	件	9,688	10,107	9,559	10,322	10,421	10,023	9,964	9,617	9,978	10,582	9,676	9,305	119,242
	微生物学的検査	件	1,441	1,326	1,270	1,381	1,524	1,311	1,250	1,263	1,259	1,286	1,057	1,162	15,530
生理検査	心電図	件	494	457	557	589	554	512	585	611	515	560	542	473	6,449
	呼吸機能検査	件	74	72	94	98	96	102	100	88	104	104	98	98	1,128
	脳波検査	件	49	64	80	74	69	75	103	52	91	86	67	58	868
	心エコー	件	285	269	313	298	297	285	301	269	265	348	266	269	3,465
	腹部エコー	件	126	147	168	138	207	153	162	172	162	154	138	149	1,876
	体表エコー (甲状腺)	件	74	67	82	65	52	83	73	58	59	78	65	90	846
	血管エコー (頸動脈・下肢動静脈)	件	81	60	79	78	71	65	74	83	61	68	74	57	851
	乳腺エコー	件	35	42	42	43	51	52	42	53	54	33	29	59	535

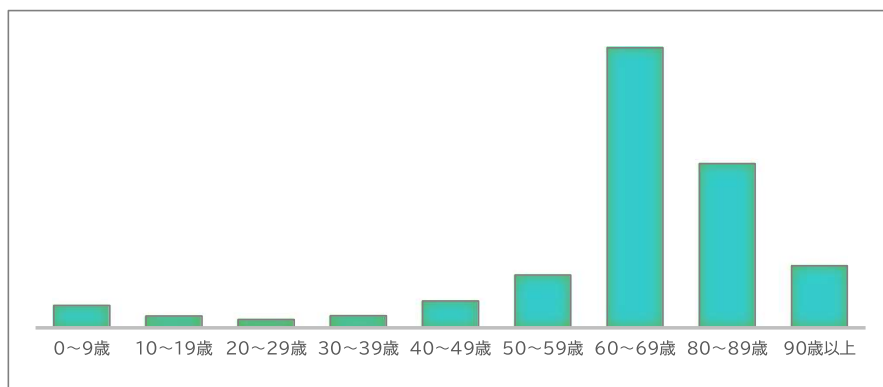
○リハビリテーション科

		単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
理学療法	職員数	人	15.8	15.8	15.8	14.8	14.8	14.8	14.8	13.8	13.8	13.8	13.8	13.0	16
	単位数	単位	3,874	4,071	4,261	4,186	4,326	4,104	3,783	3,460	3,365	3,800	3,605	3,654	46,489
	1人1日当たり 単位数	単位	12.8	14.0	14.7	15.1	15.6	16.6	16.1	15.0	15.1	16.9	17.3	16.0	12.8
作業療法	職員数	人	10	10	10	10	10	10	11	11	11	11	11	11	10
	単位数	単位	2,537	2,879	2,782	2,559	2,852	2,878	2,835	2,921	2,702	2,844	3,232	3,151	34,172
	1人1日当たり 単位数	単位	13.3	15.0	14.9	13.7	16.2	17.3	15.8	16.0	16.3	16.2	17.4	16.9	13.3
言語聴覚	職員数	人	2	2.0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	単位数	単位	368	342	461	498	521	536	572	398	335	510	588	326	5,455
	1人1日当たり 単位数	単位	9.7	10.1	12.5	13.5	16.3	15.3	15.9	10.5	10.2	13.9	16.3	8.4	9.7
退院時リハ	件	0	0	0	1	0	0	0	1	2	3	0	1	0	

「病院情報の公表」

年齢階級別退院患者数

年齢階級	件数
0～9歳	181
10～19歳	95
20～29歳	68
30～39歳	96
40～49歳	217
50～59歳	427
60～79歳	2,280
80～89歳	1,335
90歳以上	505



診断群分類別患者数等(診療科別患者数上位5位まで)

※患者数10件未満を除く

○糖尿病・血液内科

DPCコード	DPC名称	件数	平均在院日数	転院割合	平均年齢
040081xx99x0xx	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等2-なし	24	21.63	54.2%	83.625
130060xx99x4xx	骨髄異形成症候群 手術なし 手術・処置等2-4あり	23	9.696	0.0%	80.174
130030xx99x5xx	非ホジキンリンパ腫 手術なし 手術・処置等2-5あり	22	15.64	0.0%	71.545
110310xx99xxxx	腎臓又は尿路の感染症 手術なし	20	15.5	15.0%	80.80
180030xxxxxx0x	その他の感染症(真菌を除く。) 定義副傷病-なし	16	18.25	12.5%	79.875

○総合診療

DPCコード	DPC名称	件数	平均在院日数	転院割合	平均年齢
180030xxxxxx0x	その他の感染症(真菌を除く。) 定義副傷病-なし	17	21.76	17.7%	83.24
040081xx99x0xx	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等2-なし	16	20.81	43.8%	88.00
180010x0xxx0xx	敗血症(1歳以上) 手術・処置等2-なし	-	-	-	-
161070xxxxx00x	薬物中毒(その他の中毒) 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	-	-	-	-
110310xx99xxxx	腎臓又は尿路の感染症 手術なし	-	-	-	-

○精神科

DPCコード	DPC名称	件数	平均在院日数	転院割合	平均年齢
161070xxxxx00x	薬物中毒(その他の中毒) 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	15	2.87	0.0%	33.20
170020xxxxxx1x	精神作用物質使用による精神及び行動の障害 定義副傷病-あり	-	-	-	-
170020xxxxxx0x	精神作用物質使用による精神及び行動の障害 定義副傷病-なし	-	-	-	-
170040xxxxxxxx	気分[感情]障害	-	-	-	-
161070xxxxx1xx	薬物中毒(その他の中毒) 手術・処置等2-1あり	-	-	-	-

○脳神経内科

DPCコード	DPC名称	件数	平均在院日数	転院割合	平均年齢
010060x2990201	脳梗塞(脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満) 手術なし 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-2あり 定義副傷病-なし	23	16.13	39.1%	76.57
010060x2990401	脳梗塞(脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満) 手術なし 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-4あり 定義副傷病-なし	23	22.61	43.5%	75.26
040081xx99x0xx	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等2-なし	21	27.48	61.9%	83.19
010110xxxxx4xx	免疫介在性・炎症性ニューロパチー 手術・処置等2-4あり	16	46.88	37.5%	56.56
010060x2990211	脳梗塞(脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満) 手術なし 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-2あり 定義副傷病-1あり	14	18.43	57.1%	79.00

○消化器内科

DPCコード	DPC名称	件数	平均在院日数	転院割合	平均年齢
060340xx03x00x	胆管(肝内外)結石、胆管炎 限局性腹腔膿瘍手術等 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	55	11.53	3.6%	76.24
060100xx01xxxx	小腸大腸の良性疾患(良性腫瘍を含む。) 内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術	47	4.57	0.0%	73.36
060020xx04xxxx	胃の悪性腫瘍 内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術	25	8.84	0.0%	76.16
060350xx99x00x	急性膵炎、被包化壊死 手術なし 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	24	18.42	12.5%	61.50
040081xx99x0xx	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等2-なし	22	28.00	59.1%	84.64

○循環器内科

DPCコード	DPC名称	件数	平均在院日数	転院割合	平均年齢
050130xx9900x0	心不全 手術なし 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-なし	59	11.53	35.6%	84.169
040081xx99x0xx	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等2-なし	13	4.574	53.9%	83.385
050210xx97000x	徐脈性不整脈 手術あり 手術・処置等1-なし、1,3あり 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	12	8.84	16.7%	80.5
050130xx9902xx	心不全 手術なし 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-2あり	11	18.42	27.3%	80.545
050130xx9901xx	心不全 手術なし 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-1あり	-	-	-	-

○小児科

DPCコード	DPC名称	件数	平均在院日数	転院割合	平均年齢
040090xxxxxxxx	急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症(その他)	38	4	0.0%	1.8684
060380xxxxx0xx	ウイルス性腸炎 手術・処置等2-なし	19	2.789	0.0%	4.4737
040070xxxxx0xx	インフルエンザ、ウイルス性肺炎 手術・処置等2-なし	17	3.588	0.0%	4
040100xxxxx00x	喘息 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	14	4	0.0%	5
180030xxxxx0x	その他の感染症(真菌を除く。) 定義副傷病-なし	13	3.769	0.0%	4.3077

○外科

DPCコード	DPC名称	件数	平均在院日数	転院割合	平均年齢
090010xx010xxx	乳房の悪性腫瘍 乳腺悪性腫瘍手術 乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴うもの(内視鏡下によるものを含む。))等 手術・処置等1-なし	78	11.65	0.0%	63.846
060160x001xxxx	鼠径ヘルニア(15歳以上) ヘルニア手術 鼠径ヘルニア等	58	6.707	1.7%	73.638
090010xx99x40x	乳房の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2-4あり 定義副傷病-なし	57	2.018	0.0%	58.596
060335xx02000x	胆嚢炎等 腹腔鏡下胆嚢摘出術等 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	44	7.159	2.3%	67.477
060010xx99x5xx	食道の悪性腫瘍(頸部を含む。) 手術なし 手術・処置等2-5あり	40	7.75	0.0%	68.375

○心臓血管外科

DPCコード	DPC名称	件数	平均在院日数	転院割合	平均年齢
050180xx02xxxx	静脈・リンパ管疾患 下肢静脈瘤手術等	20	2.1	0.0%	74.85
100100xx99x0xx	糖尿病足病変 手術なし 手術・処置等2-なし	12	35	8.3%	81.833
050170xx03000x	閉塞性動脈疾患 動脈塞栓除去術 その他のもの(観血的なもの)等 手術・処置等1-なし、1あり 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	10	12.4	0.0%	78.6
100100xx99x1xx	糖尿病足病変 手術なし 手術・処置等2-あり	-	-	-	-
050170xx0320xx	閉塞性動脈疾患 動脈塞栓除去術 その他のもの(観血的なもの)等 手術・処置等1-2あり 手術・処置等2-なし	-	-	-	-

○整形外科

DPCコード	DPC名称	件数	平均在院日数	転院割合	平均年齢
160800xx01xxxx	股関節・大腿近位の骨折 人工骨頭挿入術 肩、股等	196	29.41	82.1%	84.48
160690xx99xxxx	胸椎、腰椎以下骨折損傷(胸・腰椎損傷を含む。) 手術なし	48	25.17	68.8%	79.542
070230xx01xxxx	膝関節症(変形性を含む。) 人工関節再置換術等	44	41.8	2.3%	74.432
070343xx01x0xx	脊柱管狭窄(脊椎症を含む。) 腰部骨盤、不安定椎 脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術(多椎間又は多椎弓の場合を含む。) 前方椎体固定等 手術・処置等2-なし	28	50.75	35.7%	73.071
160690xx01xxxx	胸椎、腰椎以下骨折損傷(胸・腰椎損傷を含む。) 脊椎、骨盤脱臼観血的手術等	25	45.2	52.0%	71.24

○脳神経外科

DPCコード	DPC名称	件数	平均在院日数	転院割合	平均年齢
160100xx97x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 その他の手術あり 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	17	27	35.3%	81.176
010050xx02x00x	非外傷性硬膜下血腫 慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術等 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	14	19.57	42.9%	80.5
010040x199x0xx	非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)(JCS10以上) 手術なし 手術・処置等2-なし	13	27.38	92.3%	78.385
160100xx99x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 手術なし 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	11	16.36	45.5%	77.818
010200xx01x00x	水頭症 水頭症手術 脳室穿破術(神経内視鏡手術によるもの)等 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	-	-	-	-

○泌尿器科

DPCコード	DPC名称	件数	平均在院日数	転院割合	平均年齢
110080xx991xxx	前立腺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1-あり	39	2	0.0%	71.333
110070xx02xxxx	膀胱腫瘍 膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術+術中血管等描出撮影加算	36	7.889	0.0%	77.028
110200xx02xxxx	前立腺肥大症等 経尿道的前立腺手術等	25	9.76	0.0%	75.48
110310xx01xxxx	腎臓又は尿路の感染症 経尿道的尿管ステント留置術	16	18.88	18.8%	76.188
110070xx03x0xx	膀胱腫瘍 膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 手術・処置等2-なし	15	12.67	13.3%	82.333

○産婦人科

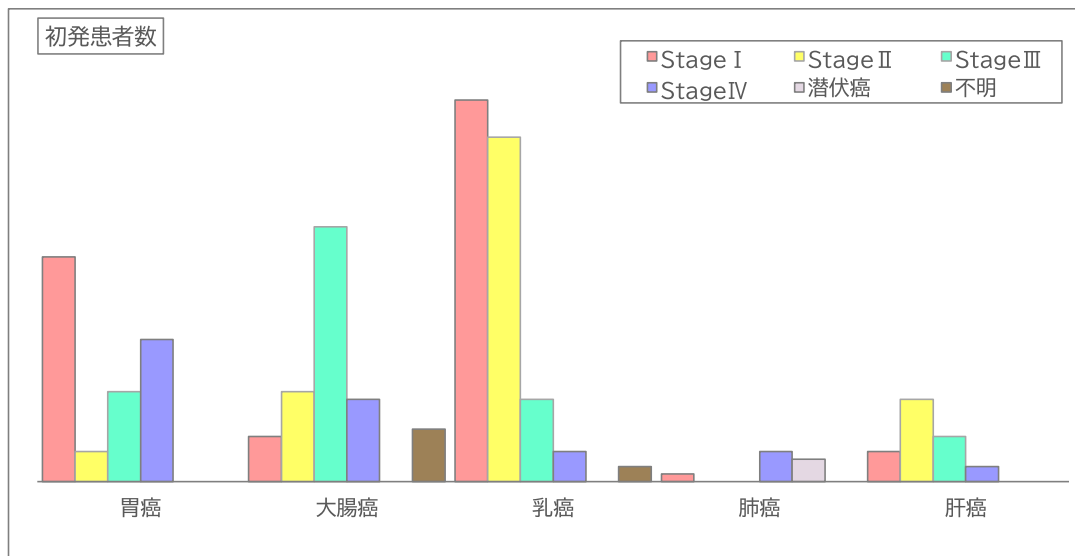
DPCコード	DPC名称	件数	平均在院日数	転院割合	平均年齢
120010xx99x50x	卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2-5あり 定義副傷病-なし	13	16.23	0.0%	67.308
12002xxx99x40x	子宮頸・体部の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2-4あり 定義副傷病-なし	12	9.167	8.3%	62.583
060030xx99x30x	小腸の悪性腫瘍、腹膜の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2-3あり 定義副傷病-なし	-	-	-	-
120060xx01xxxx	子宮の良性腫瘍 子宮全摘術等	-	-	-	-
120180xx01xxxx	胎児及び胎児付属物の異常 子宮全摘術等	-	-	-	-

○耳鼻咽喉科

DPCコード	DPC名称	件数	平均在院日数	転院割合	平均年齢
030428xxxxxxxx	突発性難聴	21	10.57	0.0%	57.952
030400xx99xxxx	前庭機能障害 手術なし	18	5.944	0.0%	72.778
030250xx970xxx	睡眠時無呼吸 手術あり 手術・処置等1-なし	16	11	0.0%	5.3125
03001xxx97x0xx	頭頸部悪性腫瘍 その他の手術あり 手術・処置等2-なし	-	-	-	-
030430xx97xxxx	滲出性中耳炎、耳管炎、耳管閉塞 手術あり	-	-	-	-

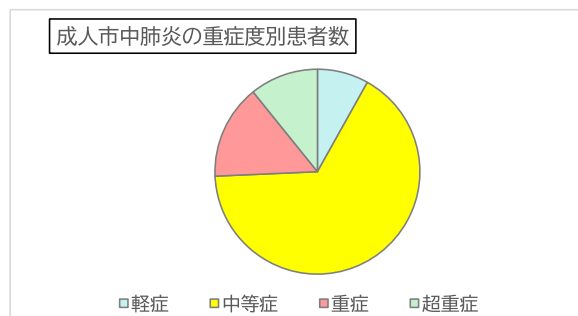
初発の5大癌のUICC病期分類並びに再発患者数

	初発						再発
	Stage I	Stage II	Stage III	Stage IV	潜伏癌	不明	
胃癌	30	4	12	19	0	0	47
大腸癌	6	12	34	11	0	7	154
乳癌	51	46	11	4	0	2	140
肺癌	1	0	0	4	3	0	11
肝癌	4	11	6	2	0	0	40



成人市中肺炎の重症度別患者数等

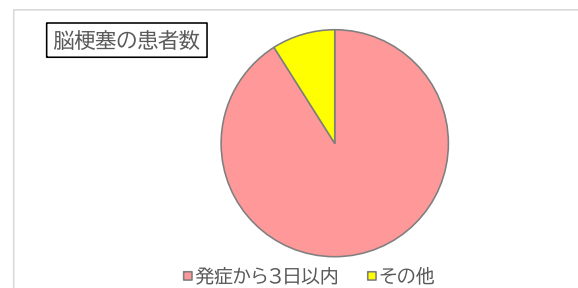
	件数	平均在院日数	平均年齢
軽症	6	11.00	54.83
中等症	49	19.82	79.43
重症	11	16.55	90.00
超重症	8	16.50	82.63



○市中肺炎の定義：入院契機病名、および最も医療資源を投入した傷病名が肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎（DPC 040080相当）でさらにその中でもICD-10コードがJ13～J18で始まるもの
 ※インフルエンザ等、ウイルス性肺炎（DPC 040070相当）、誤嚥性肺炎（DPC 040081）は除外
 また、市中肺炎であるので入院後発症の肺炎、一般病棟外からの転入、他院からの転院も除外

脳梗塞の患者数

発症から3日以内			
件数	平均在院日数	平均年齢	転院率
172	25.13	79.55	52.91%
その他			
件数	平均在院日数	平均年齢	転院率
17	19.82	72.23	3.17%



※最も医療資源を投入した病名が脳梗塞（ICD-10の上3桁）で集計

診療科別主要手術別患者数等(診療科別患者数上位5位まで)

○消化器内科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K688	内視鏡的胆道ステント留置術	70	2.31	13.07	8.6%	80.31
K7211	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術(直径2センチメートル未満)	37	1.16	3.38	0.0%	72.92
K6871	内視鏡的乳頭切開術(乳頭括約筋切開のみのもの)	27	4.04	8.04	7.4%	71.78
K654	内視鏡的消化管止血術	27	1.30	16.48	29.6%	74.22
K6532	内視鏡的胃、十二指腸ポリープ、粘膜切開術(早期悪性腫瘍胃粘膜下層剝離術)	23	1.35	6.35	0.0%	76.13

○循環器内科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K597-2	ペースメーカー交換術	10	1.00	11.20	10.0%	80.4
K5972	ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)	-	-	-	-	-
K386	気管切開術	-	-	-	-	-
K654	内視鏡的消化管止血術	-	-	-	-	-
K6151	血管塞栓術(頭部、胸腔、腹腔内血管等)(止血術)	-	-	-	-	-

○外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	68	0.74	5.68	2.9%	68.34
K634	腹腔鏡下鼠経ヘルニア手術(両側)	50	0.92	4.50	0.0%	72.68
K4763	乳腺悪性腫瘍手術(乳房切開術(腋窩部郭清を伴わないもの))	46	1.15	8.96	2.2%	66.2
K4762	乳腺悪性腫瘍手術(乳房部分切開術(腋窩部郭清を伴わないもの))	39	0.97	3.54	0.0%	60.15
K719-3	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	36	4.56	13.03	0.0%	76.83

○心臓血管外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K617-4	下肢静脈瘤血管内焼灼術	21	1.00	2.05	74.2%	84.02
K616	四肢の血管拡張術・血栓除去術	14	6.14	23.07	81.4%	81.5
K084	四肢切断術	10	37.20	59.40	7.4%	72.47
K56120	ステントグラフト内挿術(腹部大動脈)	-	-	-	-	-
K6082	動脈塞栓除去術(その他のもの(観血的なもの))	-	-	-	-	-

○整形外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K0461	骨折観血的手術(大腿、上腕、肩甲骨)	132	2.34	25.57	74.2%	84.02
K0811	人工骨頭挿入術(股)	70	2.93	27.03	81.4%	81.5
K0821	人工関節置換術(股・膝)	68	2.25	38.16	7.4%	72.47
K0462	骨折観血的手術(下腿、前腕)	32	4.31	34.88	3.1%	69.84
K1424	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術(多椎間又は多椎弓の場合を含む。)(前方後方同時固定)	30	7.43	47.87	53.3%	73.47

○脳神経外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K164-2	慢性硬膜下血腫洗浄・除去術(穿頭による)	21	2.76	18.48	42.9%	81.76
K6092	動脈血栓内膜摘出術(内頸動脈)	-	-	-	-	-
K1742	水頭症手術(シャント手術)	-	-	-	-	-
K1771	脳動脈瘤頸部クリッピング(1箇所)	-	-	-	-	-
K1692	頭蓋内腫瘍摘出術(その他のもの)	-	-	-	-	-

○泌尿器科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K80364	膀胱悪性腫瘍手術(経尿道的手術)(電解質溶液利用のもの)	49	1.80	6.45	4.1%	78.43
K783-2	経尿道的尿管ステント留置術	35	2.60	7.46	14.3%	77.6
K8411	経尿道的前立腺手術(電解質溶液利用のもの)	24	2.17	7.33	0.0%	74.96
K6113	抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用植込型カテーテル設置(頭頸部その他)	13	3.38	13.69	15.4%	79.08
K61214	末梢動脈瘻造設術(内シャント造設術)(単純なもの)	13	3.31	5.85	7.7%	75.54

○耳鼻咽喉科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K3772	口蓋扁桃手術(摘出)	25	1.00	9.16	0.0%	13.64
K309	鼓膜(排液、換気)チューブ挿入術	-	-	-	-	-
K4611	甲状腺腫摘出術(片葉のみの場合)	-	-	-	-	-
K368	扁桃周囲膿瘍切開術	-	-	-	-	-
K6261	リンパ節摘出術(長径3センチメートル未満)	-	-	-	-	-

● その他(DIC、敗血症、その他の真菌症および手術・術後の合併症の発生率)

DPC	傷病名	入院契機	症例数	発症率
130100	播種性血管内凝固症候群	同一	1	0.02%
		異なる	10	0.19%
180010	敗血症	同一	38	0.73%
		異なる	17	0.33%
180035	その他の真菌感染症	同一	1	0.02%
		異なる	0	0.00%
180040	手術・処置等の合併症	同一	17	0.33%
		異なる	0	0.00%

※発症率 = 患者数 / 全ての退院患者数



 *Section 3*

部門紹介

糖尿病・血液内科

スタッフ

役職 氏名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
副院長 鶴 政俊 (ツル マサトシ)	山口大学卒(平成4年)	日本内科学会認定医 日本血液学会専門医 総合内科専門医
糖尿病・血液内科医長 松井 久未子 (マツイ クミコ)	山口大学卒(平成15年)	日本糖尿病学会専門医 総合内科専門医
糖尿病・血液内科医師 周山 拓也 (スヤマ タクヤ)	筑波大学卒(平成22年)	日本内科学会認定医 総合内科専門医・指導医 日本血液学会専門医・指導医



概要

当科では糖尿病、甲状腺、血液疾患の専門診療を行っております。

糖尿病分野では1型糖尿病、2型糖尿病の治療を行います。高血糖や合併症による緊急性の高い治療から、将来の合併症予防のための内服治療、インスリン自己注射、栄養指導、必要時にはインスリンポンプによる治療も行っております。糖尿病教室はCOVID19の影響で一時中断しておりましたが、今後再開予定です。

甲状腺分野ではバセドウ病、橋本病を中心とした甲状腺機能亢進症、低下症の治療を行います。腫瘍性疾患の場合、耳鼻咽喉科と連携し、必要時には他院に紹介させていただきます。

血液分野では貧血、血小板減少、出血性疾患から血液悪性腫瘍まで幅広く血液疾患に対する診断、治療を行います。無菌病床は3床有しており治療強度の高い化学療法も安全に行えるようにしております。また本年より日本血液学会専門研修認定施設となっており、若手の医師に対して教育も積極的に行っております。

 実績(退院患者統計)

DPC6桁分類		
130030	非ホジキンリンパ腫	42
180030	その他の感染症(真菌は除く。)	27
040081	誤嚥性肺炎	27
10007x	2型糖尿病(糖尿病性ケトアシドーシスを除く。)	25
110310	腎臓又は尿路の感染症	21
130010	急性白血病	17
040080	肺炎等	17
130040	多発性骨髄腫、免疫系悪性新生物	15
100040	糖尿病性ケトアシドーシス、非ケトン昏睡	12
130060	骨髄異形成症候群	10
1480010	敗血症	8
050130	心不全	7
080010	膿皮症	6
100380	体液量減少症	6
161020	体温異常	5
130090	貧血(その他)	5
130110	出血性疾患(その他)	4
100210	低血糖症	4
110290	急性腎不全	3
161070	肺の悪性腫瘍	3
-	その他	71
総計		335

(周山 拓也)

総合診療

スタッフ

役職 氏名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
救急・総合診療部長 佐藤 稜 (サトウ ユタカ)	山口大学大学院修(昭和62年) ／感染症、血液、内科診断学	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会総合内科専門医・指導医 ・日本専門医機構 総合診療専門研修特任指導医 ・日本医療マネジメント学会評議員 ・ICLSディレクター



概要

総合診療科は、臓器別専門科だけでは対応できない患者さんをトータルに診療していく部門として、平成16年に県内に先駆けて開設されました。高齢化社会になってひとりひとりの患者さんが複数の慢性疾患を抱え、診療科が特定できない様々な症状を訴えて病院を受診されます。総合診療外来では、「ドクターG」として丁寧な医療面接と身体診察を行うことにより鑑別診断を行っていきます。そして病態の「緊急性」、「重要性」、「問題解決性」を考慮して治療を計画していきます。また総合診療科は研修医に「総合診療マインド」を習得させる役割を担っております。日々の外来、入院診療が研修医の修行の場となっています。

●対象疾患

総合外来には、発熱などの内科救急の患者さんや、どこの病院でも原因不明と言われて薬をもつかむ気持ちで受診される方もおられます。診断推論の技法を駆使することにより、このような患者さんの多くにおいて、その原因を突き止めることができました。そのような積み重ねが評価され、最近では不明熱や原因不明の不定愁訴の患者さんの精査目的で、地域の先生方から紹介される件数が増えてきました。

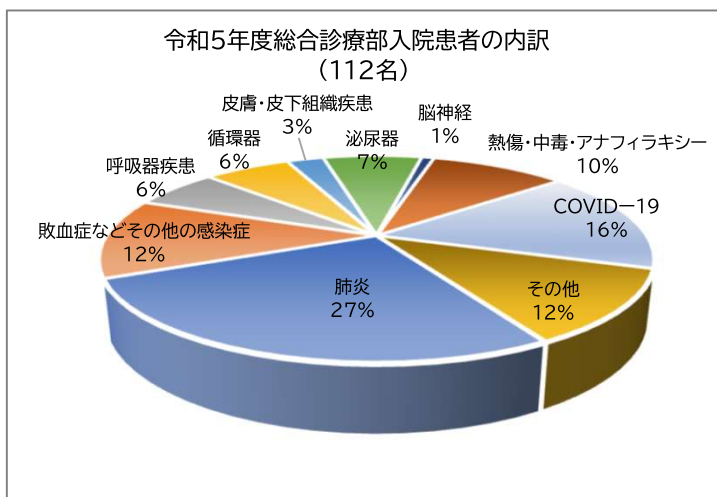
また当院は山口県のエイズ診療中核拠点病院に指定されており、診療科長の佐藤とHIV診療チームが外来および入院診療にあたっています。また2000年末から国内で流行し始めた新型コロナウイルス感染症(COVID-19)患者の外来診療および入院診療もすべて総合診療科が担当しています。

診療実績

総合外来には週あたり平均59.3名、年間3,103名の患者さんが受診されました。午前午後フル回転で、研修医とともに診療に当たっております。地域の先生方からの紹介も多く、その期待に応える責任を感じています。

また入院部門は総合外来からの入院に加えて、救命救急センターからの内科系救急疾患の患者さんの入院を担当しています。昨年1年間は計 名の患者さんの入院診療に当たってきました。図からもわかるように、疾患ジャンルは感染症を中心に多岐にわたっており、総合診療科をローテートする研修医は自らの臨床能力をフルに発揮させ、さらに関連する専門医とのコミュニケーション能力も求められます。総合診療科が卒後臨床研修の中心的役割を担っている理由がここにあります。

傷病名	
肺炎	30
敗血症などその他の感染症	14
呼吸器疾患	7
循環器	7
皮膚・皮下組織疾患	3
泌尿器	8
脳神経	1
熱傷・中毒・アナフィラキシー	11
COVID-19	18
その他	13
合計	112



お知らせ

診療科長の佐藤は2024年3月末で副院長職を定年となり、4月から救急・総合診療部長として勤務を続けます。これからもよろしくお願いいたします。

(佐藤 穰)

精神科

スタッフ

役職 氏名	出身大学 /専門分野	専門医 認定医
精神科医長 若林 祐介 (ワカバシ ユウスケ)	山口大学卒(平成14年) 山口大学大学院 単位取得退学(平成20年)	医学博士 精神保健指定医 日本精神神経学会 精神科専門医/指導医 精神腫瘍学の基本教育に関する指導者



概要

精神科では、うつ病、ストレス関連障害、パニック障害、不眠症、統合失調症、認知症などを診療対象としています。精神科を標榜する医療機関には、「大学病院の精神科」「精神科病院」「精神科クリニック」の他に、当科のような「総合病院精神科」があります。さまざまな精神疾患の診療をおこなうのは他の精神科医療機関と同じですが、総合病院精神科では体の病気を抱えた方の精神的不調に対して、内科・外科など他の診療科と密に連携しながら治療を受けやすいというメリットがあります。当科でも通常の外来診療、救急外来での急患対応と並んで、リエゾン精神医学と呼ばれる他科入院中の患者さんに対する関わりが診療の大きな柱となっています。

・リエゾン精神医学とは

「リエゾン(liaison)」とはフランス語で「連携」や「連絡」を意味する言葉です。「リエゾン精神医学」は、身体疾患に伴うさまざまな精神疾患や課題にチーム医療で取り組もうとする包括的な治療・ケアのことです。当院では精神科医と身体科の担当医だけでなく、臨床心理士、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーなどの多職種で密接な連携をとりながら患者さんの精神的不調・課題に対応しています。

実績
○外来

ICD-10分類		
F0	認知症、せん妄など	14
F1	アルコール依存症など	6
F2	統合失調症など	6
F3	うつ病、躁うつ病など	16
F4	神経症性障害、ストレス関連障害など	41
F5	摂食障害、不眠症など	6
F6	パーソナリティ障害など	11
F7	知的障害など	0
F8	広汎性発達障害など	4
F9	多動性障害、小児期の情緒障害など	0
その他	診断なし、てんかんなど	7
合計(人)		111
平均年齢(才)		53.7

○リエゾン(他科入院中の患者さんの精神科への紹介件数)

ICD-10分類		
F0	認知症、せん妄など	142
F1	アルコール依存症など	8
F2	統合失調症など	22
F3	うつ病、躁うつ病など	8
F4	神経症性障害、ストレス関連障害など	11
F5	摂食障害、不眠症など	9
F6	パーソナリティ障害など	2
F7	知的障害など	4
F8	広汎性発達障害など	0
F9	多動性障害、小児期の情緒障害など	1
その他	診断なし、てんかんなど	13
合計(人)		220
平均年齢(才)		76.2

(若林 祐介)

脳神経内科

スタッフ

役職 氏名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
脳神経内科医長 田中 信一郎 (タナカ シンイチロウ)	山口大学大学院修(平成11年) ／脳神経内科疾患全般、脳血管障害、 末梢神経障害、パーキンソン病	日本神経学会神経内科専門
脳神経内科医師 押部 奈美子 (オシバ ナミコ)	山口大学(平成30年) ／脳神経内科	
脳神経内科医師 池川 眞之 (イケガワ マサユキ)	産業医科大学(令和2年) ／脳神経内科	
脳神経内科医師 富田 周作 (トミタ シュウサク)	山口大学卒(令和3年) ／脳神経内科	



概要

内科の一部門で、循環器内科が心臓や血管を、消化器内科が胃腸や肝臓を、それぞれ主に診療の対象とするように脳と神経を診療の対象とします。脳神経外科と扱う疾患が重なりますが、薬物を使った治療が主体です。

多い病気としては脳梗塞、頭痛、パーキンソン病、てんかん、認知症、末梢神経障害などがあります。

稀ですが、重要な病気として筋萎縮性側索硬化症、脳炎・髄膜炎、クロイツフェルト・ヤコブ病、重症筋無力症、多発筋炎などがあります。自己免疫疾患、遺伝子疾患等、以前は限られた治療しかなかった病気も近年次々と新しい治療法が登場している分野でもあります。

実績(退院患者統計)

DPC6桁分類		
010060	脳梗塞	164
010230	てんかん	27
010160	パーキンソン病	25
010040	非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)	23
040081	誤嚥性肺炎	21
010061	一過性脳虚血発作	18
040080	肺炎等	17
010110	免疫介在性脳炎・炎症性ニューロパチー	15
040081	その他の感染症(真菌を除く。)	15
010170	基底核等の変性疾患	9
070560	重篤な臓器病変を伴う全身性自己免疫疾患	8
010260	ウェルニツク脳症	7
010080	脳脊髄の感染を伴う炎症	7
010155	運動ニューロン疾患等	6
010081	免疫介在性脳炎・脊髄炎	6
160100	頭蓋・頭蓋内損傷	5
010070	脳血管障害	4
11013x	下部尿路疾患	4
070341	脊柱管狭窄(脊椎症を含む。)頸部	4
010130	重症筋無力症	4
-	その他	113
総計		502

(田中 信一郎)

消化器内科

スタッフ

役職 氏名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
臨床研究部長 消化器内科医長 戒能 聖治 (カノウ セイジ)	山口大学卒(平成6年) 山口大学大学院修(平成12年) ／胆道・膵臓	日本内科学会 総合内科専門医 日本消化器病学会 指導医・専門医 日本消化器内視鏡学会 指導医・専門医 日本膵臓学会 認定指導医 日本胆道学会 認定指導医
消化器内科医長 坂口 栄樹 (サカグチ エイキ)	山口大学卒(平成8年) 山口大学大学院修(平成14年) ／肝臓	日本内科学会 認定医 日本消化器病学会 専門医 日本肝臓学会 専門医 日本消化器内視鏡学会 専門医
消化器内科医師 原野 恵 (ハラノ メグミ)	山口大学卒(平成14年) ／胆道・膵臓	日本内科学会 認定医 日本消化器病学会 専門医 日本消化器内視鏡学会 指導医・専門医 日本胆道病医学会 認定指導医
消化器内科医師 千原 大典 (チハラ ダイスケ)	福岡大学卒(平成22年) ／消化器全般	日本救急医学会認定ICLSコースディレクター
消化器内科医師 小川 亮 (オガワ リョウ)	山口大学卒(平成24年) ／消化器内視鏡	



概要

当科では消化管(食道・胃・十二指腸・小腸・大腸)、肝臓、胆道(胆管・胆嚢)、膵臓の病気の診断・治療を主に行っています。

消化管領域では腫瘍性病変の診断を行い、適応病変に対して内視鏡治療(内視鏡的粘膜切除術・内視鏡的粘膜下層剥離術)を積極的に行っています。また、消化管出血に対する内視鏡治療も行っています。近年増加傾向にある炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎・クローン病など)に対する診療も行っています。また、種々の腫瘍による消化管狭窄・閉塞に対して内視鏡的消化管ステント留置による治療に取り組んでいます。

肝臓領域では肝機能障害の診断や治療、B型・C型慢性肝炎に対する抗ウイルス治療を行っています。肝臓に対する経皮的治療(ラジオ波焼灼療法、エタノール注入療法)、経カテーテル治療(肝動脈化学塞栓療法、肝動脈塞栓療法)、化学療法(抗癌剤、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬)などを行っています。

胆道・膵臓領域では胆管結石に対する内視鏡治療、膵炎に対する薬物治療および内視鏡・超音波内視鏡的治療、閉塞性黄疸に対する内視鏡的治療(胆管ステント留置)、膵臓癌に対する超音波内視鏡下穿刺吸引組織診・細胞診(EUS-FNB、EUS-FNA)、胆道・膵臓領域がんに対する化学療法(抗癌剤、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬)などを行っています。

実績

DPC6桁分類		
060100	小腸大腸の良性疾患(良性腫瘍を含む。)	112
060340	胆管(肝内外)結石、胆管炎	45
06007X	膵臓、脾臓の腫瘍	38
060102	穿孔又は膿瘍を伴わない憩室性疾患	37
060350	急性膵炎、被包化壊死	32
060050	肝・肝内胆管の悪性腫瘍(続発性を含む。)	31
060020	胃の悪性腫瘍	27
040081	誤嚥性肺炎	27
060300	肝硬変(胆汁性肝硬変を含む。)	25
060140	胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄(穿孔を伴わないもの)	22
060190	虚血性腸炎	20
060210	ヘルニアの記載のない腸閉塞	20
110310	腎臓又は尿路の感染症	14
060060	胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍	14
060130	食道、胃、十二指腸、他腸の炎症(その他良性疾患)	13
180010	敗血症	12
060090	胃の良性腫瘍	11
180030	その他の感染症(真菌を除く。)	10
130090	貧血(その他)	9
040080	肺炎等	8
060335	胆嚢炎等	8
060010	食道の悪性腫瘍(頸部を含む。)	7
-	その他	137
合計		679

(戒能 聖治)

循環器内科

👤 スタッフ

役職氏名	出身大学	専門医認定医
循環器内科医長 早野 智子 (ハヤノ トモコ)	山口大学大学院修 (平成11年)	日本内科学会総合専門医・指導医 日本循環器学会専門医 女性総合診療 兼任
循環器内科医長 原田 耕志 (ハラダ コウジ)	愛媛大学卒(平成8年)	日本内科学会認定内科医 日本循環器学会専門医
循環器内科医師 濱田 頼臣 (ハマダ ヨリオミ)	和歌山県立医科大学卒(平成23年)	日本内科学会 認定内科医 日本循環器学会 循環器専門医 日本心血管インターベンション治療学会 認定医 SHC心エコー図認証医 周術期経食道心エコー認定医 心臓リハビリテーション指導医
循環器内科医師 竹中 仁 (タケナカ ヒトシ)	佐賀大学(平成25年)	日本内科学会認定内科医
循環器内科医師 大谷 望 (オオタニ ノゾム)	山口大学大学院修(平成元年)	日本内科学会総合専門医・指導医 日本循環器学会専門医



👤 概要

当科では高血圧、狭心症、心筋梗塞、慢性心不全、心筋症、肺塞栓症、深部静脈血栓症、心臓弁膜症、心房細動等を診療しています。

【診療活動】

昨年度の診療実績は表1のとおりです。

令和5年の1日平均外来患者数は27人、1日平均入院患者数は13人でした。

表1【診療実績】

心エコー	心臓カテーテル検査	冠動脈インターベンション	ペースメーカー
3,519	3	0	16

【外来】

外来は5名体制で行っております。待ち時間をなくすように予約制になっております。患者さまにわかりやすい説明を心がけています。

【主な検査】

- ・心電図
- ・動脈硬化の検査:脈波検査
- ・24時間心電図
- ・7日間ホルター心電図
- ・植え込み型心電図(ループレコーダー)
- ・心エコー
- ・血管エコー:頸動脈、腎動脈、下肢の静脈
- ・経食道心エコー
- ・心臓CT:冠動脈造影CT
- ・心臓MRI・心臓核医学検査
- ・心臓カテーテル検査・冠動脈エコー

狭心症の疑いで冠動脈CTの実施数と、深部静脈血栓症が増加し下肢静脈エコー検査数が増加しています。

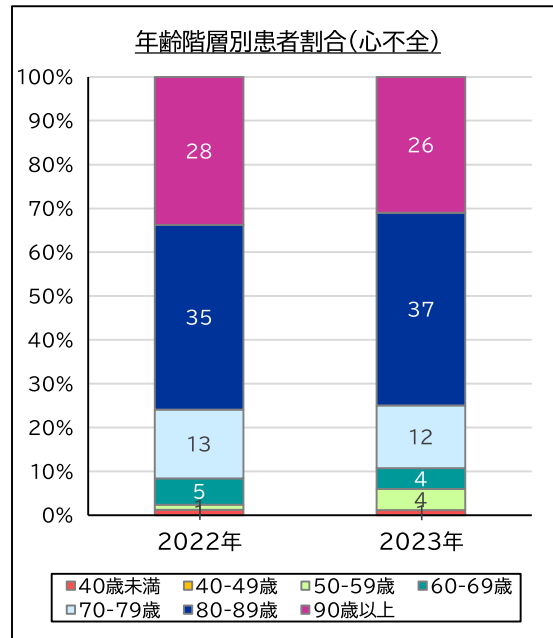
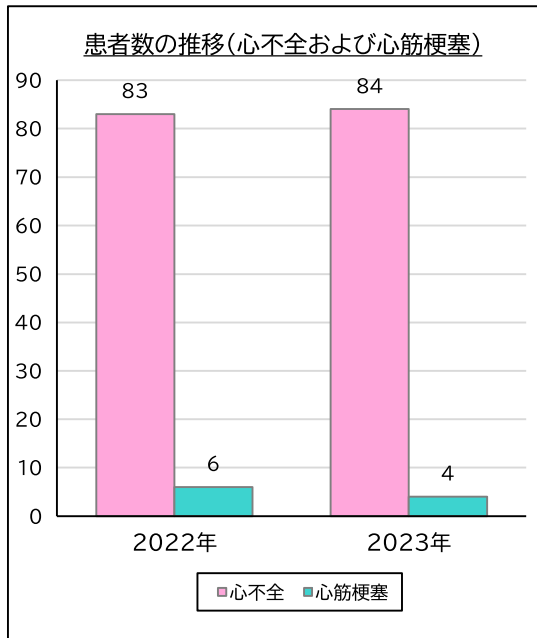
【入院】

超高齢化社会を背景に、ご高齢の方の心不全が数年前から著増しています。心不全の治療薬も進歩・増加しつつあり、個々人の全身状態(腎機能や心房細動の有無など)に応じて、投薬治療・調整が必要です。

【心臓リハビリテーション】

ご高齢の患者さまが、元の環境に安全に戻れるよう、多職種で対応し、リハビリを行っています。

実績



(早野 智子)

小児科

👤 スタッフ

役職氏名	出身大学	専門医認定医
小児科医長 牧 隆司 (マキ タカシ)	愛媛大学卒(昭和62年) ／新生児・小児科	日本小児科学会専門医

👤 概要

少子化の波の中で、次の世代を担う子供のために、国の医療機関の使命として成育医療という胎児・未熟児・新生児から乳幼児、学童、思春期までの一連の過程に関する診療をしています。

また、予防も小児科で大切な分野なので、乳幼児検診、予防接種、生活習慣病健診も積極的に行っています。

👤 診療実績(退院患者統計)

DPC6桁分類		
040090	急性気管支炎・急性細気管支炎・下気道感染症(その他)	47
040070	インフルエンザ・ウイルス性肺炎	25
060380	ウイルス性腸炎	24
180030	その他の感染症(真菌を除く。)	18
040100	喘息	13
040080	肺炎等	10
150040	熱性けいれん	9
140010	妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害	7
030270	上気道炎	7
150070	川崎病	6
010240	片頭痛、頭痛症候群(その他)	6
160100	頭蓋、頭蓋内損傷	5
110310	腎臓又は尿路の感染症	5
080270	食物アレルギー	5
030240	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎	4
170050	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	4
100210	低血糖症	4
060390	細菌性腸炎	3
100040	糖尿病性ケトアシドーシス、非ケトン昏睡	2
030430	滲出性中耳炎、耳管円、耳管閉塞	2
—	その他	29
総計		235



MEMO 

外科

スタッフ

役職 氏名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
病院長 吉野 茂文 (ヨシノ シゲフミ)	山口大学卒(昭和61年) 山口大学大学院修(平成3年) ／消化器外科・上部消化管外科	日本消化器外科学会 専門医・指導医・評議員 日本内視鏡外科学会 技術認定医(胃)・評議員 日本食道学会 食道科認定医・食道外科専門医 日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医・指導医
外科医長 矢原 昇 (ヤハラ ノボル)	山口大学卒(平成5年) 山口大学大学院修(平成15年) ／消化器外科・胆膵外科	日本外科学会 専門医 日本消化器外科学会 専門医・指導医 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医 検診マンモグラフィ読影 認定医
外科医長・乳腺センター長 長島 由紀子 (ナガシマ ユキコ)	山口大学卒(平成9年) 山口大学大学院修(平成30年) ／乳腺外科	日本外科学会 専門医・指導医 日本乳癌学会 乳腺専門医・指導医・評議員 日本乳癌検診学会 評議員 検診マンモグラフィ読影 認定医
外科医長 坂本 和彦 (サカモト カズヒコ)	山口大学卒(平成9年) 山口大学大学院修(平成19年) ／消化器外科・肝胆膵外科	日本外科学会 専門医・指導医 日本消化器外科学会 専門医・指導医 日本肝胆膵外科学会 高度技能専門医 日本肝臓学会 肝臓専門医
外科医長 吉田 晋 (ヨシダ シン)	山口大学卒(平成11年) 山口大学大学院修(平成20年) ／消化器外科・下部消化管外科	日本外科学会 専門医・指導医 日本消化器外科学会 専門医・指導医 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医
外科医師 山本 常則 (ヤマモト ツネノリ)	山口大学卒(平成22年) 山口大学大学院修(令和5年) ／消化器外科・上部消化管外科	日本外科学会 専門医 日本消化器外科学会 専門医・指導医 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医
外科医師 鈴木 有十夢 (スズキ アトム)	山口大学卒(平成30年) ／消化器外科	日本外科学会 専門医



概要

当科では消化器癌や消化器の良性疾患、乳癌を中心とした外科治療を行うとともに、これらの領域の癌の薬物療法も行っています。当院は、日本外科学会外科専門医制度修練指定施設、日本消化器外科学会専門医修練施設、日本食道学会食道外科専門医認定施設、日本胃癌学会認定施設A、腹腔鏡下肝切除術学会関連施設、日本外科感染症学会認定外科周術期感染管理教育施設、日本乳癌学会認定施設、マンモグラフィ検診施設画像認定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設に認定されており、また7名の外科学会専門医、5名の消化器外科学会専門医、2名の食道外科専門医、1名の内視鏡外科学会技術認定医、1名の肝胆膵外科学会高度技能専門医、1名の乳癌学会乳腺専門医、1名のがん薬物療法専門医を擁しており、患者さんへ質の高い外科治療やがん薬物療法を提供しています。また豊富な症例数と万全の指導体制で、将来を担う外科医の育成を行っています。

特筆すべきは、年間10例を超える食道癌手術を全例胸腔鏡下で行っており、胃癌、大腸癌の手術もほとんどの症例を腹腔鏡下で行っています。また肝切除術や膵切除術の高難度手術も増えてきており、年間30例近くの症例数があります。さらには年間約130例近い乳癌の手術も行っています。

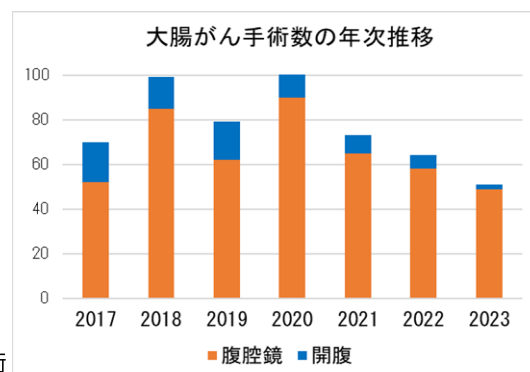
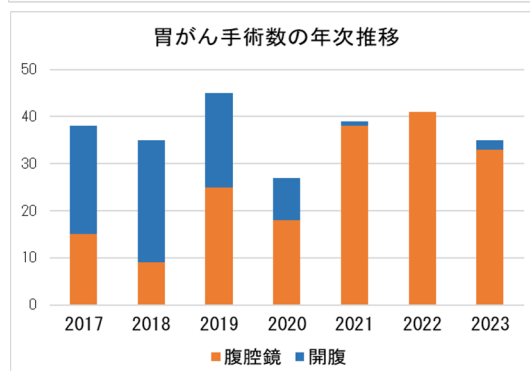
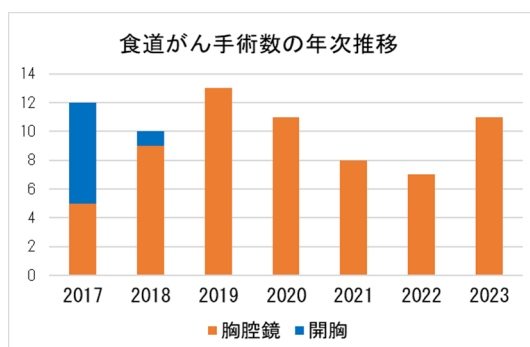
実績

○手術件数

術式	
食道切除術	11(11)
胃切除術	33(31)
幽門側胃切除術	22(22)
胃全摘術	9(7)
噴門側胃切除術	1(1)
胃部分切除術	1(1)
大腸切除術	64(62)
結腸切除術	49(47)
直腸切除術	15(15)
経肛門切除術	0
直腸固定術(直腸脱)	5(5)
肝切除術	21(15)
膵切除術	9(0)
乳腺切除術	126
胆嚢摘出術	68(68)
鼠径ヘルニア修復術	58(53)
大腿・閉鎖孔ヘルニア修復術	4(4)
ヘルニア修復術(その他)	8(2)
虫垂切除術	18(18)
腸閉塞解除術	28(19)
人工肛門造設術	12(9)
人工肛門閉鎖術	7(0)
消化管バイパス術	4(4)
肺切除術	4(4)
その他	59
合計	539

()は鏡視下手術

上記以外にCVポート造設術159件



(吉野 茂文)

心臓血管外科

スタッフ

役職 氏名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
心臓血管外科医長 村上 雅憲 (ムラカミマサノリ)	大分医科大学卒(平成12年) 山口大学大学院修(平成19年)	日本外科学会専門医・指導医 日本心臓血管外科学会専門医・修練指導者 腹部ステントグラフト実施医・指導医 下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施医・指導医



概要

当科では頭頸部を除く動脈疾患、静脈疾患を対象に診療を行っています。従来からの外科治療に加えて低侵襲の血管内治療(カテーテル治療)を積極的に取り入れ患者さんに適切な治療を提供し、地域医療施設との連携構築に努めてまいります。

治療については必ずしも手術をおすすめするわけではありません。できるだけ低侵襲な検査で診断し、運動療法や薬物療法、カテーテル治療、手術療法を選択肢に入れた適切な治療が実施されるように心がけます。

当院は関連10学会構成日本ステントグラフト実施基準管理委員会腹部ステントグラフト実施施設、四学会構成浅大腿動脈ステントグラフト実施施設、下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施施設の認定を取得しています。

実績

○手術件数

	件数
手術件数	101
動脈瘤	9
(ステントグラフト内挿術)	(6)
(瘤切除人工血管置換術)	(3)
(塞栓術)	-
末梢動脈疾患	36
	LEAD、急性動脈閉塞など
下肢静脈瘤	38
その他	17
	CVポート、切断など

(村上 雅憲)

MEMO 

整形外科

スタッフ

役 職 氏 名	出身大学 ／専門分野	専 門 医 認 定 医
整形外科医長 リウマチ科医長 峯 孝友 (ミネ タカトモ)	山口大学卒(昭和60年) 山口大学大学院卒(平成2年) ／膝関節外科、関節リウマチ、スポーツ医学	日本リウマチ学会指導医、評議員 日本整形外科学会 専門医 日本膝関節学会 評議員 山口大学医学部臨床教授
整形外科医長 篠原 道雄 (シノハラ ミチオ)	久留米大学卒(平成7年) ／脊椎外科	日本整形外科学会専門医 日本脊椎脊髄病学会指導医
リハビリテーション科長 栗山 龍太郎 (クリヤマ リュウタロウ)	山口大学卒(平成8年) ／外傷、手外科	日本整形外科学会専門医
整形外科医長 坪根 徹 (ツボネ テツ)	山口大学卒(平成9年) ／外傷・手外科・マイクロサージャリー	日本整形外科学会専門医 日本手外科学会専門医・指導医 日本マイクロサージャリー学会評議員
整形外科医師 米原 孝則 (ヨネハラ タカノリ)	山口大学卒(令和元年)	日本整形外科学会所属
伊原 公一郎 (イハラ コウイチロウ)	山口大学卒(昭和56年) 山口大学大学院修(平成2年) ／骨・軟部腫瘍、手外科、股関節外科	日本整形外科学会専門医 日本手外科学会専門医・指導医 日本リハビリテーション医学会専門医・臨床認定医



概要

整形外科とは、骨、関節、筋肉、靭帯、神経などの運動器の疾患・外傷を診療を行います。運動器疾患を対象とする整形外科医に求められるニーズは、高齢化社会や外傷やスポーツ障害の増加に伴い、増加の一途を辿っています。当院では、小児から高齢者までの年齢層における、外傷一般はもちろんのこと、膝関節・リウマチ疾患、手の外科、骨・軟部腫瘍、脊椎疾患、股関節疾患につきまして、それぞれの専門医を含む6名の整形外科医が日々診療を行っています。また、様々な外傷や変性疾患に対する手術を施行しているのはもちろんのこと、急性期のリハビリテーションおよび当院にて手術施行した症例につきまして回復期リハビリテーションを行っています。手術件数は年々増加傾向にあります。別表に昨年手術件数と、その主な内訳をお示しします。

また、日々の診療だけでなく、最新の整形外科領域の知見の獲得や難治症例の検討を目的とした学会活動や研究会も行っています。

実績

○手術件数

総数	人工関節置換術	手の外科・マイクロ(骨折を除く)	脊椎疾患	骨軟部腫瘍
1,279	159	82	149	41

(峯 孝友)

脳神経外科

スタッフ

役職 氏名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
脳神経外科医長 副島 慶輝 (ソエジマ ヨシテル)	産業医科大学卒(平成12年) ／脳卒中の外科・機能的脳神経外科	日本脳神経外科学会 専門医・認定医 日本脳卒中学会 専門医・指導医
関門医療センター顧問 山下 勝弘 (ヤマシタ カツヒロ)	山口大学卒(昭和57年) ／脳卒中の外科	日本脳神経外科学会 専門医・認定医 日本脳卒中学会 専門医・指導医 日本脳卒中の外科学会 技術指導医



診療・研究内容

脳神経外科では脳腫瘍、脳卒中、頭部外傷、機能的脳神経外科などの領域の疾患を対象とし、主に手術療法で治療しています。脳腫瘍には髄膜腫などの良性腫瘍と神経膠芽腫などの悪性腫瘍があり、良性腫瘍では開頭腫瘍摘出術を行い、悪性腫瘍では手術に加えて放射線治療や化学療法を併用します。脳卒中の中で外科治療の対象となる疾患は、脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血、高血圧性脳出血、脳梗塞の原因となる頸動脈狭窄症です。脳動脈瘤破裂の治療法には開頭クリッピング術と血管内治療による動脈瘤コイル塞栓術があり、症例ごとに治療法を選択しています。頸動脈狭窄症の治療法には直達手術の頸動脈血栓内膜剥離術と血管内治療によるステント留置術があります。直達手術を優先しますが、全身麻酔が困難な症例などではステント留置術を行います。頭部外傷の頭蓋内出血は急性硬膜下血腫などの急性出血と慢性硬膜下血腫に分類され、前者では開頭血種除去術を、後者では穿頭血種除去術を行います。機能的脳神経外科の対象となる症状は、三叉神経痛、顔面けいれん、脳卒中後の筋痙縮、パーキンソン病の振戦などです。三叉神経痛と顔面けいれんでは後頭下開頭による微小血管減圧術で治療します。筋痙縮では腹部にポンプを埋め込み、バクロフェンを脊髄腔に投与します。

脳神経外科では診療のみでなく、臨床研究にも力を入れています。新薬の臨床試験では、複数の第2相試験(*)が進行しています。

- * 経口FXIIa阻害薬BMS-986177による虚血性脳卒中の再発抑制効果を検討する国際共同第2相試験
- * 中枢神経系病変におけるMRI造影剤BAY 1747846単回静脈内投与の多施設共同試験



実績

○手術件数

	件数
脳腫瘍	10
破裂動脈瘤	8
未破裂動脈瘤	0
脳動静脈奇形	0
虚血性疾患	10
脳内出血	2
外傷	11
慢性硬膜下血腫	23
奇形・先天性疾患	0
水頭症	8
脊髄・脊椎	0
微小血管減圧術	1
てんかん	0
定位・機能外科	1
血管内手術	1
定位的放射線治療	0
その他	10
合計	85

(山下 勝弘)

泌尿器科

スタッフ

役職 氏名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
泌尿器科医長 鄭 泰秀 (テイ ヤスヒデ)	山口大学卒(平成3年) 山口大学大学院修(平成8年)	日本泌尿器科学会 専門医・指導医
泌尿器科医師 榊原 亜有美 (サカキバラ アユミ)	山口大学卒(令和元年)	

概要

当院泌尿器科では尿路(腎臓・尿管・膀胱・尿道)・男性性器(前立腺・精巣・精巣上体・陰茎)および内分泌臓器である副腎を対象とし、泌尿器科一般(尿路性器腫瘍・尿路感染症・尿路結石症・排尿障害・尿失禁など)の診療を行っています。

また、末期腎不全患者に対して血液透析による治療を行っています。

腎臓癌・膀胱癌・前立腺癌などの尿路性器腫瘍に対しては手術療法・放射線治療・化学療法とさまざまな治療を組み合わせて治療を行っています。膀胱癌に対しては2022年10月より光線力学診断を用いて、より確実に癌病変を切除するように努めています。2024年4月より当院において画像誘導型強度変調放射線治療装置が導入されました。腫瘍のみをできるだけ正確に照射できるため、周囲の正常組織のダメージを少なくすることができます。高齢者や心臓・呼吸器系の合併症を持った患者さんも多く、手術を行うことが難しいケースが増加しています。そのような患者さんに対して放射線治療を行う事を検討しています。また、限局性前立腺癌に対しては根治が期待できるので積極的に行っていく予定です。

進行性・転移性の腎臓癌や膀胱癌に対しては血管新生阻害剤や免疫チェックポイント阻害剤が使用されることが多く、これらは従来の抗癌剤とは異なる副作用も多く、他科の先生や薬剤師と連携して副作用の対策・管理に努めています。

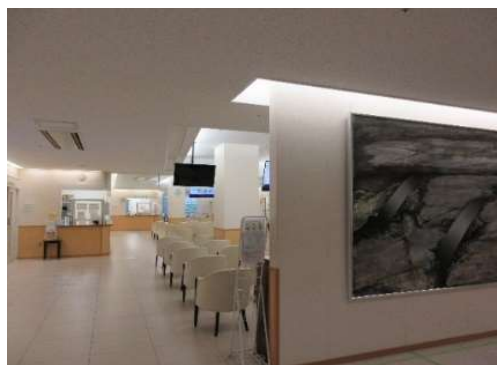
初期の転移のある前立腺癌あるいは去勢抵抗性前立腺癌では新規ホルモン剤・化学療法薬(抗癌剤)・分子標的薬・放射線医薬品の投与が可能となり、患者さんにとって治療選択のはばが広がっています。

現在抗癌剤治療を受けられる方は日常生活・仕事・趣味・副作用・医療費等不安なことがたくさんあると思います。患者さんには今後の治療について望むことを話していただき、納得して治療を行っていただくことを心がけています。

実績

○手術件数

	件数
腎腫瘍	2
尿管腫瘍・腎盂腫瘍	3
経尿道的膀胱腫瘍切除術	51
膀胱全摘	2
前立腺全摘除術	6
経尿道的前立腺切除術	26
内シャント造設術	22
前立腺生検	60



(鄭 泰秀)

MEMO 

産婦人科

スタッフ

役職 氏名	出身大学 /専門分野	専門医 認定医
産婦人科医長 林 公一 (ハヤシ キミカズ)	山口大学大学院修(昭和62年)	日本産科婦人科学会専門医 麻酔科標榜医 母体保護法指定医
非常勤医師 齋藤 剛 (サイトウ ツヨシ)	山口大学大学院修(平成元年)	日本産科婦人科学会専門医



概要

ほぼ常勤医一人での対応となるため多症例の診療には限度がありますが、他科の先生方の協力を得て、分娩、婦人科良性疾患、癌、不妊症(IVF-ET)、感染症(HIV/AIDSも含む)とすべてに渡り安心・安全を信条として対応させていただいています。研修医の先生方へは1ヶ月ごとのローテイトとなりますが、産婦人科診療に興味を持っていただけるような研修を心掛けています。また、診療での医学的視野が狭まらないように臨床研究や地域活動にも積極的に参加して最新医学情報の収集や地域貢献にも努めています。

臨床実績

*分娩件数：15件 (うち帝王切開：5件)

*婦人科手術：46件

- 子宮全摘 13件
- 子宮内膜搔爬 8件
- 付属器腫瘍摘出 5件
- 付属器悪性腫瘍手術 2件
- 子宮腔部円錐切除 7件
- 子宮悪性腫瘍手術 4件
- 流産手術 1件
- バルトリン腺嚢胞摘出 1件
- 子宮動脈塞栓術 1件

*抗癌剤による化学療法：15例

- 子宮内膜癌 6例
- 子宮頸管癌 1例
- 卵巣癌 4例
- 腹膜癌 4例

臨床研究

*厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業(2024~):研究協力

「HIV感染者の妊娠・出産・予後に関する疫学的・コホートの調査研究と情報の普及及び啓発法の開発ならびに診療体制の整備と均霑化に関する研究」

*文部科学研究費補助金精神神経科学関連事業(2020~2023):研究協力

「周産期メンタルヘルス調査とパートナーへの介入方法に関する研究」

*NHOエイズ共同研究(2021~2023):研究協力

「抗HIV療法中のプロウヒルスにおける薬剤耐性微小集団に関する研究観察」

*NHO成育共同研究:研究協力

1. 「人工知能を用いた分娩時大量出血症例における凝固障害の病態解明と新しい産科DICスコアの開発」(2022~)

*NHO・EBM共同研究(2017~);分担研究

「免疫抑制患者における13価蛋白結合型肺炎球菌ワクチンと23価莢膜多糖体型ワクチンの連続接種と23価莢膜多糖体型ワクチン単独接種の有効性の比較—二重盲検無作為化比較試験(CPI STUDY)」

学会発表

- * The28th Asia and Oceania Federation of Obstetrics and Gynecology Congress
(AFOG2024 : May16-20 2024 BEXCO, Busan, Korea)

「Acceptance and changes in medical staff's feelings toward HIV-Infected Pregnant women giving birth by vaginal delivery since the guideline approved (March 2018) vaginal delivery for HIV-Infected Pregnant women in Japan.」

Kimikazu Hayashi^{1,2}, Masashi Deguchi², Tunekazu Kita², et al²

¹: Kanmon Medical Center, NHO Japan, Department of Obstetrics and Gynecology

² National Cooperative Study Group on Prevention of Vertical Transmission of HIV-1 in Japan

令和5年度感染症予防事業・招聘講演企画

R5.11.13 防衛医大 産科婦人科学講座教授 高野政志
「最近、話題の性感染症いろいろ」

地域活動

1. 下関東ロータリークラブ: 青少年育成プログラム支援
「中・高生における性教育講座」(2010~)
2. 世界エイズデーイベント開催(2013~)

(林 公一)

眼科

👤 スタッフ

役 職 氏 名	出身大学 ／専門分野	専 門 医 認 定 医
眼科医師 播磨 希 (ハリマ ノゾミ)	福岡大学卒(平成21年)	日本眼科学会専門医
視能訓練士 山下 栄太郎 (ヤマシタ エイタロウ)		



👤 実績

○手術件数

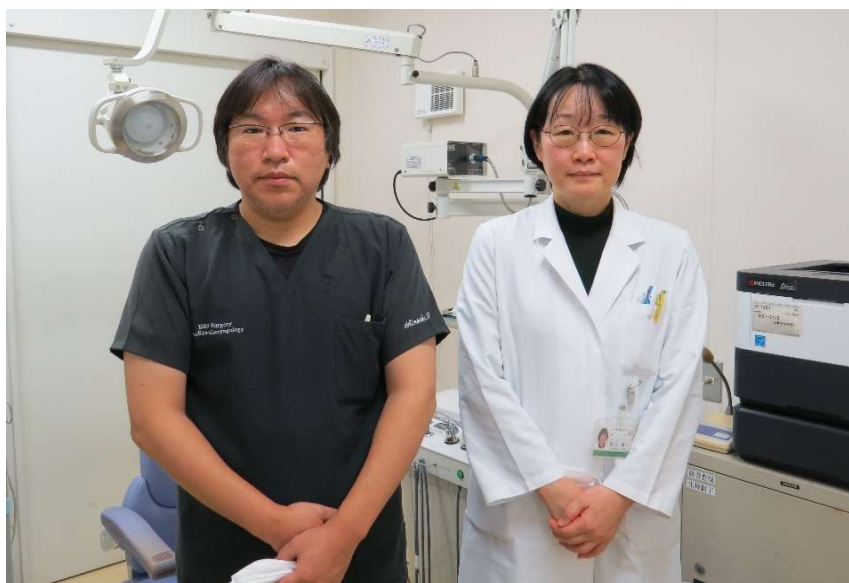
術式	件数
白内障手術	85
翼状片手術	2
網膜光凝固術	15
硝子体内注射	117
合計	219

MEMO 

耳鼻咽喉科

スタッフ

役職 氏名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
耳鼻咽喉科医長 村上 直子 (ムラカミ ナオコ)	山口大学卒(平成9年)	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医・指導医 補聴器相談医
耳鼻咽喉科医師 田原 晋作 (タハラ シンサク)	山口大学卒(平成20年) 山口大学大学院修(平成28年)	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医



概要

耳鼻咽喉科領域の各種疾患の検査、治療を行っています。

耳鼻咽喉科専門医制度の山口大学附属病院の専門研修連携施設となっています。

診療活動

突発性難聴、めまい、顔面神経麻痺、急性扁桃炎、急性喉頭蓋炎などでは入院を含む治療を行なっています。突発性難聴に対しては適応があれば、高気圧酸素治療が可能です。手術については、慢性扁桃炎や小児の睡眠時無呼吸、IgA腎症の症例に対する扁桃摘出術や気管切開術、内視鏡下副鼻腔手術などを行っています。

成人の睡眠時呼吸障害の検査では1泊入院での終夜睡眠ポリソムノグラフ検査を行っています。

専門性の高い手術を要する症例や集学的治療を要する頭頸部癌の症例に関しては、山口大学付属病院などへ紹介して手術や化学放射線治療を受けていただき、当院では必要な術前検査、術後のリハビリ、追加治療などを連携して行っています。

近年、脳梗塞後や加齢などで誤嚥を繰り返す入院患者が増え、嚥下内視鏡検査の件数が増加しています。

 実績

	件数
終夜睡眠ポリソムノグラフ	16
嚥下内視鏡検査	105
扁桃摘出術	26
小児OSA	(16)
IgA腎症	(7)
慢性扁桃炎	(3)
気管切開術	18
リンパ節生検	7
甲状腺手術	3

(村上 直子)

放射線診断科

スタッフ

役職 氏名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
放射線診断科医長 佃 利信 (ツクダ トシノブ)	山口大学卒(平成9年)	日本医学放射線学会 診断専門医
放射線診断科医師 田邊 雅也 (タナベ マサヤ)	山口大学卒(平成27年) 山口大学大学院修(令和5年)	日本医学放射線学会 診断専門医 日本核医学 専門医



概要

単純X線撮影から、CT、MR、核医学検査(SPECT及びPET)、血管造影装置があり、これらの画像の読影を行っている。一般診療時に撮影された画像から、検診時の画像も一括して読影を行い、日常診療に貢献している。当院の病院群輪番制病院担当日には、読影担当として急患に対応している。

出血や外傷などの急患別を含め、幅広く画像下治療(IVR)を行っている。このため、血管造影室には各種塞栓物質やステント(グラフト)を常備しており、複雑な症例にも対応できる準備が整っている。組織診が必要な症例や深部膿瘍例に対し、CTガイド下に生検やドレナージを行い、患者さんの心配や苦痛緩和に貢献している。

実績

読影 件数	CT	13,674
	MR	4,684
	核医学(SPECT)	991
	核医学(PET)	300
	CR(検診を含む)	2,311
	DR(検診を含む)	640
IVR 件数	生検	21
	ドレナージ	21
	血管造影	42

※核医学(PET)については2022年11月～2024年2月まで修理

(佃 利信)

MEMO 

放射線治療科

スタッフ

役職 氏名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
放射線治療科医長 河村 光俊 (カワムラ ミツシ)	山口大学卒(平成1年) 山口大学大学院修(平成7年) ／放射線治療	日本医学放射線学会、日本放射線腫瘍学会 共同認定専門医 日本医学放射線学会 指導医



概要

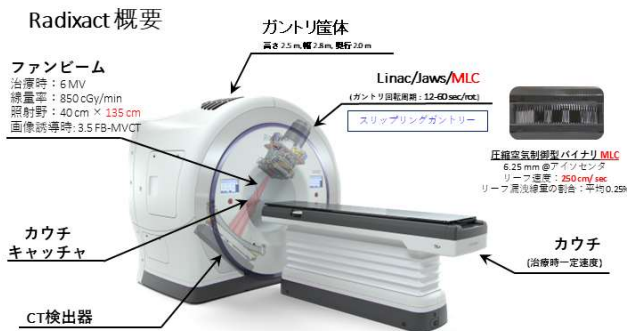
がん治療の主な治療法として放射線治療があります。その中で高エネルギーX線を用いた外部放射線治療を主体で行っています。治療部位は脳神経、頭頸部、消化器系を含めた胸腹部、骨盤部などを対象としています。他科と協力し抗がん剤と組み合わせた化学放射線療法にも取り組んでいます。現在休診中ですが、近日中に最新機器へ更新し再開する予定です。その際は下関地区で唯一、強度変調放射線治療(IMRT)可能な施設となるべく準備しています。放射線治療単独で通院可能な患者さんでは、当部門で受付し治療を受けられます。入院が必要な場合は他科入院担当の上、共同で診療にあたります。いずれも地域医療連携室で受付していますので御紹介の際はこちらにご連絡ください。

紹介

2024年3月よりラディザクト(アキュレー社)が稼働開始しました。ラディザクトは従来トモセラピーと呼ばれていた装置の最新型です。いわゆるIMRT(強度変調放射線治療)専用機で、診断用CTと似た筐体をもつことにより、治療ベッドを動かしつつ放射線を360度回転しながら照射することができます。さらに同様にCT撮影も行うことができるため、その場で画像取得し腫瘍の位置や体位のずれを修正しながら治療ができ、従来機器より精度の高い画像誘導放射線治療が可能になっています。

IMRT(強度変調放射線治療)は、高度なコンピュータ技術によって通常の放射線治療では不可能であった複雑な形状の線量分布を作り、病変部周囲の正常組織の線量を抑えつつ病巣に高線量を集中させることで、抗腫瘍効果の向上や合併症の軽減が期待される画期的な治療技術です。

従来法では各方向の放射線ビーム内の強さはほぼ均一でした。しかしIMRTでは、マルチリーフコリメータ(様々な形状を作成できる多重絞りを)照射中に出し入れさせ、照射形状を変化させることで照射野内のビーム強度に変化をつけます。変化をつけることにより、腫瘍部には強く、正常組織には弱くの相反する調整が可能になります。さらに近年ではIMRTの応用型で、回転照射に強度変調機能を加えた強度変調回転照射という技術も開発されました。回転しながらのIMRTはより自由度と線量集中度が高く、さらに治療時間の短縮も図れる新世代の技法です。その一種が今導入されたラディザクトになります。大きな呼吸性移動や体動があると線量分布が計画通りに入らない弱点がありますが、適切な部位選択と体を固定する道具を駆使しつつ治療法を選択しています。適応等でご不明な点がございましたら、気軽にお問い合わせください。



アキュレー社資料より引用

バイナリ MLC リーフ開口時間制御型 線量分布の“細かい制御”が得意



TomoTherapy®

一般的な MLC

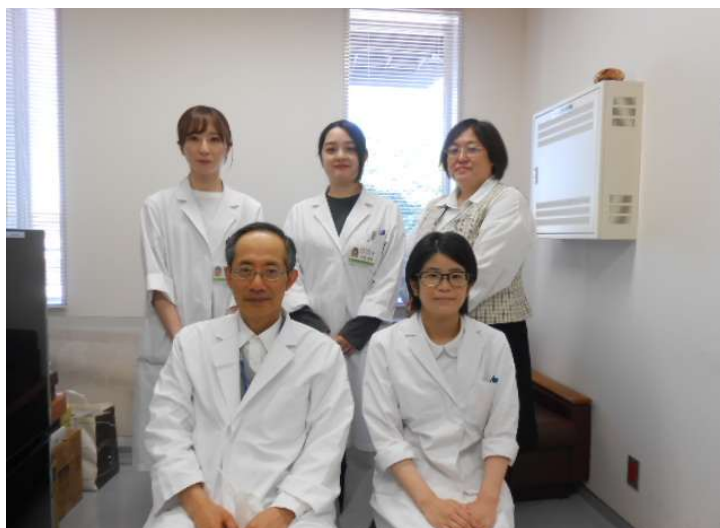
	TomoTherapy バイナリ MLC	一般的な MLC
リーフ動作	全開/全開のみ	全開/計画された領域
リーフ制御	圧縮空気	モーター
リーフ速度	250 cm/sec	約 2~6 cm/sec

(河村 光俊)

病理診断科

👤 スタッフ

役 職 氏 名	出身大学 ／専門分野	専 門 医 認 定 医
内科医長 村田 健一郎 (ムラタ ケンイチロウ)	長崎大学卒(昭和61年) 長崎大学大学院修(平成2年) ／病理診断	病理専門医 病理専門医研修指導医 細胞診専門医



👤 概要

病理診断科は、病理専門医1人、臨床検査技師3人(内、細胞診検査技師2人)とドクターズ・アシスタント1人で業務を行っています。病理組織検査の標本作成は、通常のHE染色標本と一般的な特殊染色標本のみ、院内で実施しており、免疫染色、パラフィン包埋標本による遺伝子検査およびコンパニオン診断等は外部検査機関に委託しております。臨床検査技師の夜間・休日等の交代勤務のため、外部検査機関との間の標本や検査結果の受け渡し等で、ドクターズ・アシスタントの存在が重要になっています。

👤 実績

病理組織診断(受付番号数)	2,467
内、術中迅速診断	138
細胞診断(受付番号数)	2,661
内、婦人科	1,195
病理解剖	1
CPC	0

(村田 健一郎)

MEMO 

救急科

👤 スタッフ

役職 氏名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
救命救急センター長 松本 泰幸 (マツモト ヒロユキ)	産業医科大学卒(平成21年) /救急科、集中治療	日本救急医学会 救急科専門医 日本集中治療医学会 集中治療専門医 日本内科学会 内科認定医 日本DMAT隊員、統括DMAT



👤 概要

当科では非常に多岐に渡る疾患を扱っており、心肺停止、多発外傷、中毒、特殊感染症、ショック、熱中症、低体温症、熱傷など救急科に専門性が求められる領域も複数担っております。下関・長門医療圏で唯一、救急科専門医、集中治療専門医が専従で救急部門に従事する病院として高度な重症疾患の治療を行っております。

ICUにおける重篤な患者においても、主治医の医師と連携して全身管理、呼吸/気道管理、循環管理、術後管理などを行う事で、救命するだけでなく元の生活に戻るまで回復させるといった全人的医療が提供できるようサポートを行っております。

また、消防局と連携した地域救急医療体制の整備や、初期臨床研修医・大学生・コメディカルスタッフの教育活動や看護師特定行為研修の実践など、教育活動も精力的に行っております。

👤 実績

○救急車受入件数

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2019	144	202	166	153	206	167	200	160	221	197	171	143	2,130
2020	134	157	120	178	158	157	151	173	174	186	154	143	1,885
2021	222	246	258	261	233	265	276	257	286	273	230	291	3,098
2022	232	256	251	304	346	285	301	285	300	375	240	291	3,466
2023	282	275	261	368	322	293	311	236	299	349	278	263	3,537

MEMO 

麻酔科・ペインクリニック

スタッフ

役職 氏名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
麻酔科医長 福井 健彦 (フクイ タケヒコ)	自治医科大学(平成19年)	日本麻酔科学会専門医
麻酔科医長 藤田 文彦 (フジタ フミヒコ)	山口大学卒(平成5年)	日本麻酔科学会指導医 日本専門医認定機構 専門医
内科医師 北 仁志 (キタ ヒトシ)	京都府立医科大学卒(平成10年)	日本麻酔科学会認定医



概要

現在当院麻酔科は常勤で3名、加えてそれぞれ週に1日ほど大学からの非常勤が2名、済生会豊浦病院から1名の応援を受けて、毎日の周術期管理をおこなっています。当科での問題点として昨年度に比べ常勤2名が減員となったことで、今までの麻酔科管理症例の手術件数を維持できず、本年度は昨年に比べ大幅に減ることが予想されます。少ない人員で制限されることが多々ありますが、現在の人員で可能な最大限の結果を出せるよう努めてまいります。

当院の特徴として、一般的な病院に比べ緊急手術の割合が予定手術に比べると多い点が挙げられます。当院は3次救急を標榜している病院であり、3日に1回の救急輪番があるためです。そのため通常業務に加え、緊急手術の対応を留意していきながら安全な麻酔管理をおこなえるよう今後も周術期管理を続けていきます。

実績

○麻酔件数

麻酔別	件数
全身麻酔+硬膜外麻酔	1,678
硬膜外麻酔+脊椎麻酔	93
局所麻酔	315
その他(静・局・伝含)	113
計	2,199

(福井 健彦)

歯科口腔外科

スタッフ

役職 氏名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
歯科口腔外科長 板敷 康隆 (イタシキ ヤスタカ)	徳島大学卒(平成19年)	日本口腔外科学会認定医 日本口腔科学会認定医 日本有病者歯科医療学会認定医・専門医 歯科医師臨床研修指導医
常勤	歯科衛生士 1名	
非常勤	歯科衛生士 1名 ドクターズ・アシスタント 1名	



概要

当科では歯・顎骨の硬組織と歯肉・頬粘膜・舌・口底・口唇の粘膜および顎下腺・舌下腺・耳下腺（腫瘍を除く）の大唾液腺組織を中心に歯科・口腔外科的領域の疾患について診断・加療を行っています。

下関医療圏の歯科医院からの紹介は以下の5つの多いです。①有病者の抜歯（抗血小板薬・抗凝固薬・BP製剤の内服中や内服既往）、②智歯抜歯や難抜歯、③口腔粘膜疾患、④骨吸収抑制薬関連顎骨壊死（BRONJ・ARONJなど）や顎骨骨髓炎、⑤頬部膿瘍や下顎骨周囲膿瘍などの重篤な歯性感染症

また、医科からの院内紹介は以下の5つが多いです。①周術期等口腔機能管理、②義歯調整、③口腔ケア、④口腔粘膜疾患、⑤補綴部の脱離

【専門領域】

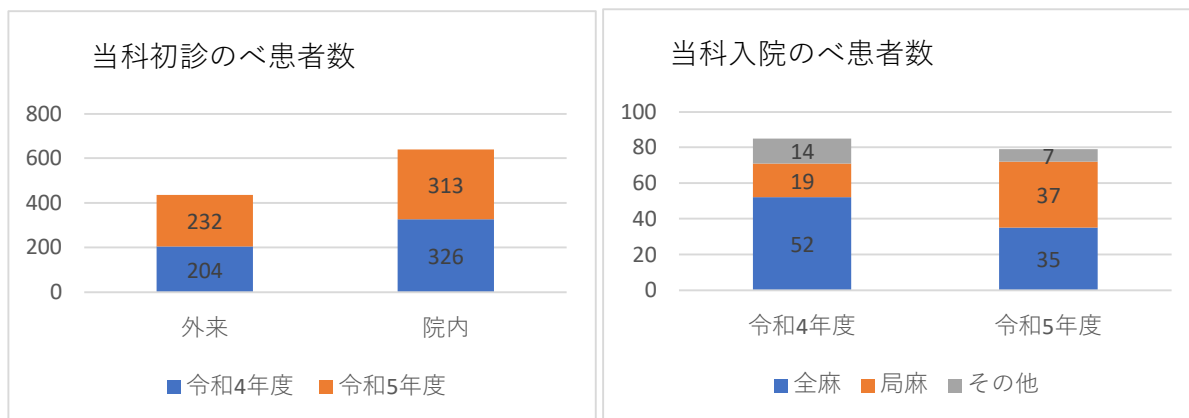
- ・有病者患者の観血的処置（抜歯や切開・排膿・ドレナージなど）
- ・口腔外科処置（智歯抜歯や嚢胞摘出など小～中手術：全身麻酔下、局所麻酔下での手術）
- ・周術期等口腔機能管理

【診療内容】

- ・山口県歯科医師会および下関歯科医師会の先生と連携を取りながら、歯科・口腔外科診療を行っています。
- ・周術期等口腔機能管理として、全身麻酔下での頭頸部・呼吸器・消化器・乳腺領域の悪性腫瘍手術、脳外科領域や人工股関節置換術等の整形外科領域の手術に対する手術前後の口腔ケアを行っています。さらに、がん等に係る放射線治療・化学療法を実施している患者様（予定している患者様を含む）・緩和ケアの患者様の口腔ケアにも取り組んでいます。
- ・骨吸収抑制薬関連顎骨壊死や顎骨骨髓炎に対し、外科的手術前後に、高気圧酸素療法＋抗菌薬の投与を積極的に行っています（症例によっては山口大学歯科口腔外科へ紹介する場合があります）。
- ・全身麻酔下での顎骨嚢胞摘出や智歯抜歯等も行っています。

【令和4年度・令和5年度の当科初診のべ患者数・入院のべ患者数】

- ①令和4年度・令和5年度の当科初診のべ患者数（外来・院内）は以下通り（図1）。
- ②令和4年度・令和5年度の当科入院のべ患者数（全身麻酔下手術：全麻、局所麻酔下手術：局麻、その他）は以下通り（図2）。



(図1)

(図2)

【感染予防対策】

- ・歯科診療時の感染予防対策として、入室時、すべての患者様にアルコールでの手指消毒を、スタンダードプリコーションとして患者様ごとに滅菌器具やディスポーザブル器具等を使用しています。
- さらに、歯科診療台等は患者様ごとに、清拭クロス等で消毒を、診療室内の唾液・血液等の飛沫軽減として、口腔外バキューム使用しています。
- ・加えて、診療室にHEPAフィルター＋紫外線殺菌装置搭載の空気清浄器を2台使用しています（2020年10月から）。夜間はオゾン発生装置を使用し室内全体の消毒を行っています（2021年2月から）。
- 2022年2月には、ストリーマ搭載の空気清浄器をX線照射室および歯科技工室にそれぞれ設置しました。
- 2023年3月に、新しい歯科診療台を設置（交換）しました。



歯科用滅菌器具



口腔外バキューム



新しい歯科診療台

【学会発表】

日本口腔外科学会・日本口腔科学会・日本有病者医療学会・国立病院総合医学会などでの発表を行っており、今後も積極的に行う予定です。

(板敷 康隆)

女性総合外来

スタッフ

役職氏名	分担	専門医認定医
医長 早野 智子 (ハヤノ トモコ)	担当医師	日本内科学会総合専門医・指導医 日本循環器学会専門医 日本女性医学会会員 日本性差医学・医療学会評議員
副看護師長 秋川 佑子 (アキガワ ユウコ)	事前の電話問診・予約対応	看護師
心理療法士 黒木 浩子 (クロキ ヒロコ)	カウンセリング・心理テスト等担当	公認心理師



概要

私どもの女性総合診療外来は、女性の一生を心と身体の両方から支えることを目標に、平成14年9月30日に開設されました。女性が自分の心と体の健康について理解し、社会の中、家庭の中で、自ら納得のゆく健康管理をしながら充実した人生を過ごせることが私たちの願いです。主婦、母、妻、キャリアウーマン、OL、シングル・レディ、etc…。女性の立場・呼び名は様々ですが、ひとりの女性の健康を守ることは、そのひとと関わる社会、家族の健康を守ることへとつながります。

診察活動

昨年の診療実績は下記のとおりです。

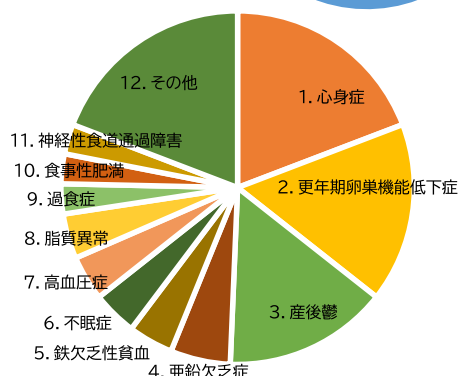
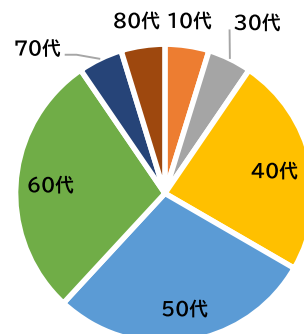
女性外来の診療実績

★女性外来受診の主な傷病名★

1	心身症	14
2	更年期卵巣機能低下症	12
3	産後鬱	11
4	亜鉛欠乏症	4
5	鉄欠乏性貧血	3
6	不眠症	3
7	高血圧症	3
8	脂質異常	3
9	過食症	2
10	食事性肥満	2
11	神経性食道通過障害	2
12	その他 逆流性食道炎、起立性低血圧、陳旧性脳梗塞、月経困難症、パセドワ病、肺結節、耐糖能異常、低カルシウム血症、洞性頻脈、副甲状腺機能障害、逆流性食道炎、下腿浮腫(廃用性)、頸肩腕症候群、アルコール中毒前状態	14

★年齢分布★

10代	0人
20代	1人
30代	1人
40代	5人
50代	6人
60代	6人
70代	1人
80代	1人
合計	21人



外来

外来は週に1回、月曜日の午後1時半より、おひとり30分間(初回は1時間)。待ち時間をなくすように完全予約制で行っております。

症状について、受診以前からの経過を詳しく伺い、その内容を鍵に検査・治療・他科専門医師への橋渡しに努めています。患者さまにわかりやすい説明を心がけています。

<例>「胸の痛み」の問診票

- ①症状の具体的な性状は？(皮膚の表面を針で刺すようなチクチクした痛み、みぞおちからのど元にかけて引き絞られるような鈍い痛み、深く息を吸ったときに生じる痛み、など)、
- ②症状が初めて生じた時期とその持続時間(期間)は？
- ③現在までの発症頻度は？(週または月に何回、徐々に頻度が増えているか)、
- ④症状が出やすい季節・時間帯は？(深夜・明け方、昼間の作業中、食後・飲酒後、など)、
- ⑤症状が起こる引き金となる動作の内容は？(階段を登る、夜布団に入った後、冷たいシャワーを浴びる、など)
- ⑥症状が現れる具体的な体の部位と範囲は？
- ⑦症状によるつらさの程度(生活への支障度)は？
- ⑧その方の住まれる社会環境や職種は？
- ⑨味の好みや生活習慣は？(脂ものや塩分の量、喫煙、運動不足、飲酒ほか)、
- ⑩家族歴とご本人の合併疾患は？(高血圧、脂質代謝異常、糖尿病、心筋梗塞、不整脈、大動脈瘤、脳卒中、気胸、肺炎、逆流性食道炎、十二指腸潰瘍、過換気症候群など)、
- ⑪これまで使用した治療薬の種類とその効果

※診療は、完全予約制となっております。恐れ入りますが、事前のご連絡をよろしくお願いいたします。

(早野 智子)

薬剤部

スタッフ

役職・氏名	
薬剤部長	尾崎 誠一
副薬剤部長	小山 朋子
主任薬剤師	3名
薬剤師	11名
薬剤助手	4名
治験看護師	1名
治験事務助手	2名



専門・認定資格	
日本病院薬剤師会 日本病院薬学認定薬剤師	尾崎 誠一、小山 朋子、綾田 翔、林 里佳、濱砂 恵理香
日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師	尾崎 誠一、小山 朋子、綾田 翔
日本薬剤師研修センター 研修認定薬剤師	小山 朋子、中村 良子、林 里佳、濱砂 恵理香
日本臨床栄養代謝学会 栄養サポートチーム(NST) 専門療法士	小山 朋子、林 里佳
栄養サポートチーム加算に係る40時間以上の研修	小山 朋子、中村 良子、林 里佳
日本老年薬学会 認定薬剤師	小山 朋子
日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師	吉藤 直久
日本糖尿病療養指導士認定機構 日本糖尿病療養指導士(CDEJ)	小山 朋子、林 里佳、濱砂 恵理香
日本くすりと糖尿病学会 糖尿病薬物療法准認定薬剤師	小山 朋子
日本アンチドーピング機構 スポーツファーマシスト	濱砂 恵理香

概要

◆薬剤部について◆

薬剤部では、治療の一分野である薬物治療に使用する「お薬」に関わるお仕事を主な業務としています。患者さんの治療に際し、処方せんに基づき正確に調剤することは当然ですが、「お薬」は単なる物ではなく、その背景には数多くの情報(有効な疾患、副作用、相互作用＝飲み合わせ等)を持っています。当センターに入院されました患者さんには医師の治療計画に従って、薬剤師が病棟に赴きベッドサイドにて患者さんに処方されたお薬について説明させていただいております。また、有害な副作用の発見にも努めており、薬剤師が薬のスペシャリストとして医療の質と患者さんのQOLの向上に貢献し、真の医療人として社会から信頼されるよう薬剤部一同研鑽を重ねております。

また、薬剤師はチーム医療推進(ICT、NST等)のため様々なチームに参加しており、薬剤師としての職能を生かした薬学的支援を行っています。

薬剤部は医薬品の購入・供給・管理、医薬情報の収集・提供、一般製剤・特殊製剤、入院・外来患者の調剤、化学療法注射剤の混合調製、病棟活動等、それぞれにおいてお薬に関する重要な役割を担っています。

◆調剤業務◆

治療のために、医師が処方したお薬を素早く取りそろえ、患者さんに手渡すだけでは十分とはいえません。取りそろえただけのお薬はそのままでは単なる物ですが、そのものがお薬として適切に服用や使用されるために、我々スタッフが患者さんごとにお薬の使い方や使用量、併用しているお薬や食べ物との飲み合わせ、アレルギーや副作用などについて確認したうえでお薬をお渡ししています。

◆製剤業務◆

製薬会社が作っていない医薬品や、まだ開発段階にあるもの、病院独自の薬剤を医師の依頼に基づいて調製することが主な仕事です。

◆注射薬調剤業務◆

注射薬は、一般に効果が強く血管内に直接投与されます。特に注射薬は急性期に使用されるので、病状に応じて処方内容が細かく変化します。

薬剤部では、注射薬についてもその都度処方せんによって調剤を行い、配合変化や相互作用、薬剤の分量、用法、投与速度、投与ルート、投与間隔などを確認し、特に翌日分の注射薬はアンプルピッカーを使用して1施用毎(1回分)の注射薬セットを行っています。

◆抗がん剤無菌調製◆

抗がん剤は、がん細胞の増殖を阻止する作用を持つ薬物で、増殖に必要な核酸やタンパク質の合成を直接阻害することで作用を発揮する薬剤です。その一方で、抗がん剤は旺盛に増殖する正常細胞(骨髄・消化管上皮・毛根など)にも影響を及ぼす薬剤でもあり、細胞毒性、変異原性(遺伝子に変異を与える可能性がある)あるいは発がん性を有するものが多く、抗がん剤を取り扱う医療従事者は薬剤の曝露(被曝)による健康上の危険性がついてまわります。医療従事者の曝露を回避するため、注射用抗がん剤は、薬剤部にて無菌的に調製を行ったあとで、病棟あるいは外来化学療法センターへ薬剤を供給しています。

抗がん剤の投与(薬物療法)は、効果や副作用など、いろいろな不安や疑問点があると思います。患者さんが安全に安心して治療を受けていただけるように、医師・看護師とともに薬剤師も尽力いたします。

◆医薬品情報◆

お薬に関する最新の情報を収集したり整理したりして、医師や患者さん、医療スタッフにその情報を提供することも重要な仕事の1つです。特に医薬品に関する重要な情報はその都度お知らせし、院内で決まった医薬品や薬の副作用情報などは定期的に医療スタッフに提供しています。

◆入院患者さんへの服薬指導◆

医師・看護師等と連携を取りながら、入院中の患者さんのベッドサイドで薬の説明を行い、質問や相談に応じています。薬の効き目や、飲み合わせ、副作用についてもチェックをし、患者さんが安心して服薬してもらえるよう取り組んでいます。

◆治験業務◆

GCPに基づき治験を実施するチームの一員として、プロトコルに従い、治験責任医師・分担医師の業務を支援し、治験薬を適正に保管・管理しながら治験薬が適正に投与されているかを確認する業務を担っています。

 実績

		1ヶ月平均
薬剤管理指導料	対象患者数	679.8
	年度計画上の指導件数	700.0
	実施患者数	400.7
	請求患者数	398.8
	請求件数内訳1. ハイリスク薬管理	224.8
	請求件数内訳2. 1以外	310.8
	*請求件数(上記内訳の合計)	535.6
	(麻薬加算件数)	18.0
	実施薬剤師数	11.5
	*薬剤師1人当請求数	46.6
病棟薬剤業務	病棟薬剤業務実施加算1件数	1,227.5
	病棟薬剤業務実施加算2件数	218.4
	持参薬確認数(算定病棟)	307.3
	持参薬確認に要する業務時間(算定病棟)	102.4
	処方支援・診療支援数(算定病棟)	69.1
	薬剤師のレジメンチェックによる処方変更件数(算定病棟)	0.6
	一週間当たりの平均病棟薬剤業務時間(非算定病棟)	0.0
	持参薬確認数(非算定病棟)	19.7
	持参薬確認に要する業務時間(非算定病棟)	6.6
	無菌製剤処理科	無菌製剤処理科1 総実施件数
イ 閉鎖式接続器具を使用した場合 請求件数		26.0
ロ イ以外の場合 請求件数		392.0
無菌製剤処理科1にかかる時間(時間数)		103.6
無菌製剤処理科2 総実施件数		8.7
無菌製剤処理科2 請求件数		8.7
無菌製剤処理科2にかかる時間(時間数)		2.2
薬剤師が行った提供件数		232.8
請求件数	230.8	
外来化学療法加算	外来化学療法加算1 A:15歳以上 請求件数	2.3
外来腫瘍化学療法診療科	外来腫瘍化学療法診療科1	209.2

(小山 朋子)

放射線科

スタッフ

役職・氏名	
放射線科医師(治療・診断)	3名
診療放射線技師	16名
診療放射線技師長	1名
副診療放射線技師長	1名
主任診療放射線技師	4名
診療放射線技師	10名
放射線科助手	1名

診療放射線技師資格・認定取得者	
国家資格	
第1種放射線取扱主任者	2名
認定機構資格	
放射線治療専門放射線技師	2名
放射線治療品質管理士	1名
医学物理士	1名
検診マンモグラフィ撮影認定技師	5名
PET研修セミナー	6名
CT認定技師	2名
肺がんCT検診認定技師	1名
塩化ストロンチウム治療安全取扱	2名
I-131による残存甲状腺破壊の外来治療	1名
塩化ラジウム(Ra-232)注射液を用いた RI内用療法における適正使用	2名
放射線医薬品取扱ガイドライン	5名
放射線技師会資格	
放射線機器管理士	1名
放射線管理士	2名
医療情報技師	1名
画像等手術支援認定技師	2名

施設認定
マンモグラフィ検診施設画像認定

保有機器	
一般撮影 4台	歯科撮影装置 2台
ポータブル撮影装置 6台	CT 2台
透視撮影装置 2台	MRI 1台
骨密度測定装置 1台	ガンマカメラ 1台
乳房撮影装置 1台	PET-CT 1台
血管撮影装置(汎用型) 1台	放射線治療装置 1台
外科用イメージ 3台	治療計画装置 2台

主な検査・治療	
一般撮影	CT検査
マンモグラフィ	MRI検査
骨塩定量測定	RI検査
透視撮影	PET検査
血管造影	放射線治療



放射線科について

放射線科の業務には、画像診断・核医学検査・放射線治療があります。

画像診断領域では、一般撮影・X線透視・CT・MRI・血管造影などがあります。核医学検査では、脳血流検査・心機能検査なども行っています。2024年2～3月で一般撮影室4部屋の発生装置と全FPD化の更新を行いました。

放射線治療領域では、高エネルギー放射線治療装置を使用し、頭頸部・食道・乳腺・前立腺等へ放射線治療を行っています。なお、放射線治療装置は2023年度に更新されました。

当センターでは、放射性同位元素内用療法として、ゼヴァリンによるRI標識抗体療法、塩化ラジウム²²³の去勢抵抗性前立腺がんの骨転移治療なども行っています。

また、乳房撮影装置の更新に伴い、マンモグラフィ検診施設・画像認定を取得しております。

実績

	2022年度	2023年度
単純撮影	24,714	27,841
(マンモグラフィ)	687	679
(ポータブル)	4,813	4,972
(造影検査)	1,955	1,839
(骨塩定量測定)	1,135	1,183
(時間外撮影人数)	5,434	5,565
血管造影	148	201
RI	1,069	987
PET-CT	421	300
CT	13,964	13,674
(CT紹介)	503	499
MRI	4,481	4,684
(MRI紹介)	424	537
3次元画像解析	615	1,416
放射線治療	1,583	145
放射線度同位元素内用療法	0	0

放射線治療の2022年度は4月から12月までの件数
放射線治療は2024年3月から再開のため3月のみの件数
PET-CTは2023年11月16日から2024年2月4日まで修理のため検査中止

* ()は再掲

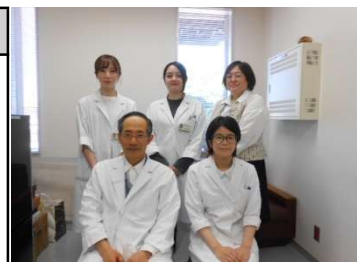
臨床検査科

スタッフ

役職・氏名	
臨床検査科長	長島 由紀子
臨床検査技師長	笠井 昇
副臨床検査技師長	宮崎 純子
主任臨床検査師	5名
臨床検査技師	14名
臨床検査助手	1名
事務助手	1名



資格・認定取得者	
【国家資格】	
特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者 5名	
有機溶剤作業主任者 4名	
日本乳がん検診精度管理中央機構主催 乳房超音波試験A判定 1名	
【認定資格】	
認定輸血検査技師	1名
細胞検査士	3名
認定病理検査技師	1名
認定一般検査技師	1名
日本糖尿病療養指導士	1名
認定サイトメトリー技術者	2名
緊急臨床検査士	4名
血管診療技師	1名
超音波検査士(消化器)	3名
超音波検査士(循環器)	3名
超音波検査士(泌尿器)	1名
超音波検査士(体表臓器)	1名
JHRS 認定心電図専門士	1名



診療活動

2023年度の検体検査総件数は前年度と比較して3,755件減少していた(表1)。唯一生化学検査だけが997件と僅かではあるが増加した。

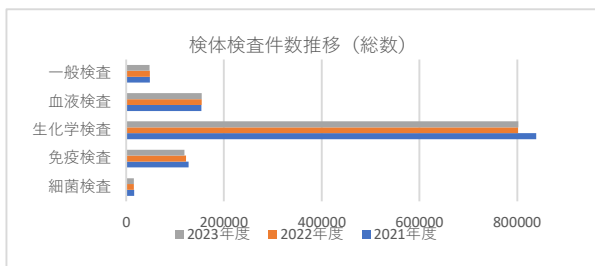
外来では前年度と比較すると59,601件の増加で中でも免疫検査が54,870件増加していた(表2)。臨床支援では、新規項目でZn、一日食塩摂取量を追加した。

生理検査エコーの総件数は、前年度と比較すると433件の増加で、心エコーの件数が460件増加していた(表3)。外来では、前年度と比較すると260件増加し、心エコーが358件増加し、頸部エコーでは120件減少していた(表4)。

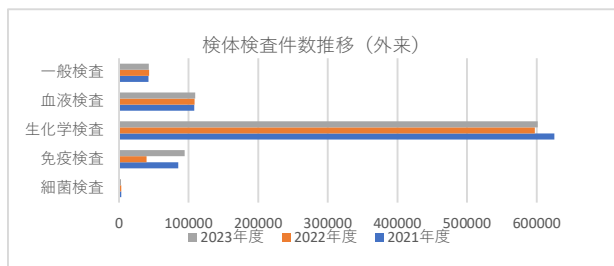
電子カルテの更新に伴ってかねてより念願だった生理検査室にシステムが導入された。脳波結果の閲覧(10カ所限定)、生理検査室内心電図結果、ホルター解析結果が自動でPDF化されて電子カルテに反映可能となった。また、令和6年度4月1日から健康診断の腹部エコーの対象年齢が広がったため月・水・金に限り一枠増やした。

令和5年度の新型コロナウイルス感染症は、5月8日に2類相当から5類感染症に変わった。新型コロナウイルス感染症の患者を水際で食い止めるには、症状のある患者に抗原検査を実施することが必要不可欠で実際、外来件数では前年に比べて増加し、陽性件数も増加していた(表5)。逆に入院では前年度と比較して陰性件数、陽性件数共に減少していた(表6)。

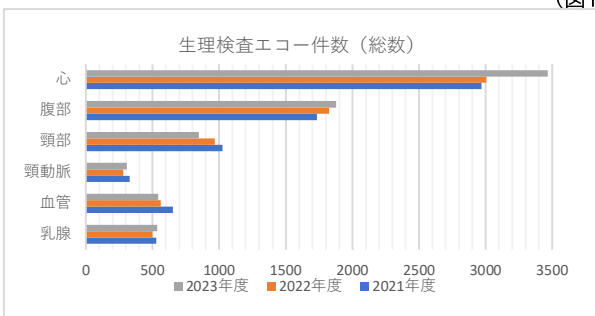
PCRの依頼件数は、前年度と比較して外来の陰性件数と陽性件数は減少していた(表7)。入院も同様の結果となった(表8)。また、TRCの依頼件数は令和5年8月以降は0件。現在は、GeneXpertのみが稼働している。輸血検査2023年の血液製剤の使用状況は、FFP/RBC比が0.54未満、アルブミン/RBC比が2未満で輸血適正使用加算Iの取得条件を満たしていた(表9~12)。



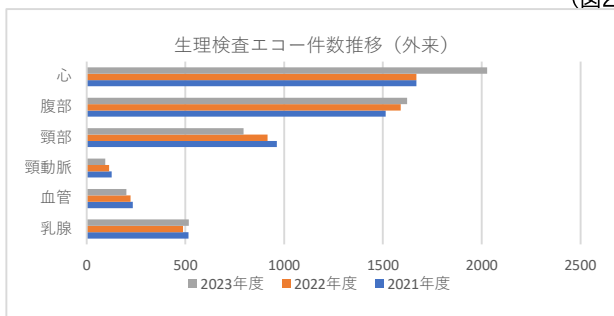
(図1)



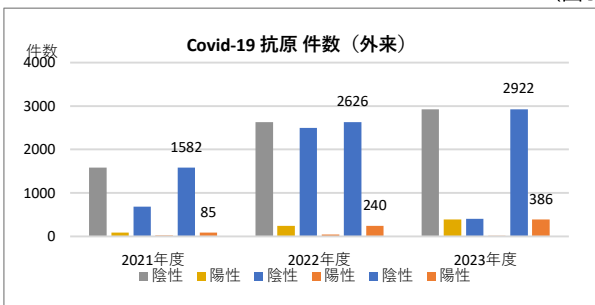
(図2)



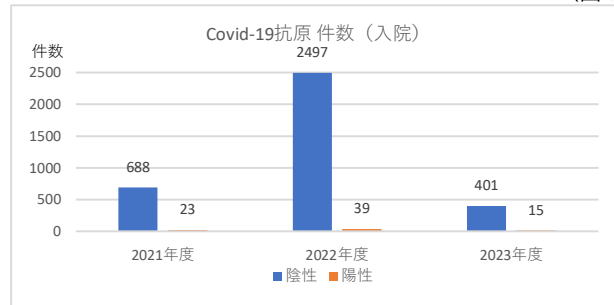
(図3)



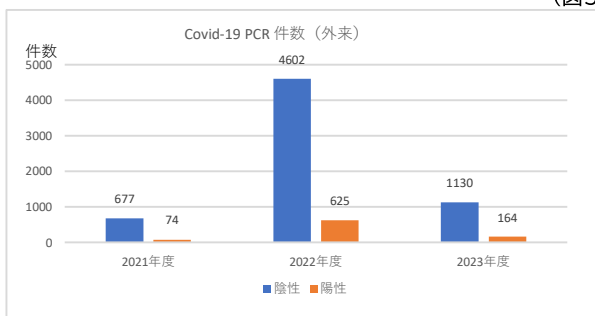
(図4)



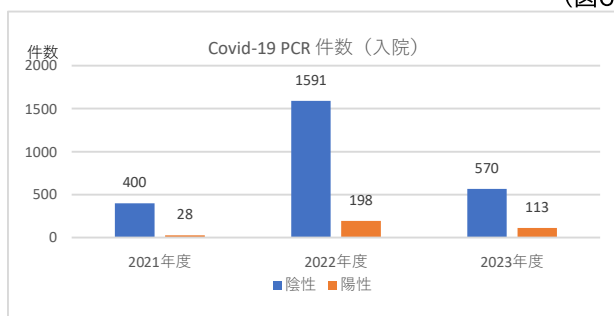
(図5)



(図6)



(図7)



(図8)

血液製剤使用状況

【照射赤血球 LR】 (表9)

	2022年度	2023年度
使用 (単位)	3,012	2,954
廃棄 (単位)	6	4
廃棄率%	0	0

【濃厚血小板 (10単位)】 (表11)

	2022年度	2023年度
使用 (単位)	4090	3,030
廃棄 (単位)	0	10
廃棄率%	0.00	0.33

【新鮮凍結血漿 LR】 (表10)

	2022年度	2023年度
使用 (単位)	476	306
廃棄 (単位)	6	6
廃棄率%	1.24	1.92

【アルブミン分画製剤 (12.5 g)】 (表12)

	2022年度	2023年度
使用 (単位)	713	1056
廃棄 (単位)	1	0
廃棄率%	0.14	0

(笠井 昇)

栄養管理室

スタッフ

役職・氏名		専門・認定資格
栄養管理室担当医	鶴 政俊	管理栄養士 6名
栄養管理室長	揚村 和英	栄養サポートチーム(NST)専門療法士 3名
主任栄養士	後藤 由佳	栄養管理に関する40時間研修終了 2名
管理栄養士	4名	山口県肝疾患コーディネーター 1名
調理師	2名	糖尿療養指導士 1名
委託会社職員	30名	



概要

◆栄養管理業務◆

【概要】

1, 栄養管理業務

①栄養管理計画書: 栄養管理計画書は、主治医が入院診療計画書で「特別な栄養管理の必要性がある」と判断した患者について、多職種が協力して作成します。入院時および再評価時にスクリーニングとアセスメントを実施し、栄養状態に課題があるか、または栄養不良のリスクが高い患者について、提供栄養量の検討や食事変更の提案を行います。入院時に栄養状態が良好であっても、入院中に体重減少や食事摂取量が減少する患者も多く見られるため、すべての入院患者に対して栄養管理計画書を作成し、入院中に一週間ごとに再評価を行っています。管理栄養士は病棟担当制で業務を運営しており、担当病棟の病室を訪問し、患者への聞き取りや食事の様子を観察を行っています。また、医師、看護師、各種メディカルスタッフと情報を共有しながら、患者個々に最適な栄養サポートプランを計画・実施できるよう努めています。

②個人栄養食事指導: 入院患者および外来患者に対して、個別栄養食事指導を提供しています。患者の日ごろの食生活などを丁寧に聞き取り、患者が主体的に食事療法に取り組めるよう、オーダーメイドの指導を行い、QOLやADLの向上に繋がることを目標としています。

③集団栄養食事指導: 入院患者を中心に、毎月2回の糖尿病教室を開催しています。担当スタッフによる知識の啓蒙と患者同士の会話に重点をおいた運営を心がけています。

※新型コロナウイルス感染症の影響により、一時的に活動中止しています。

④チーム医療: 栄養サポートチーム(NST)をはじめ、褥瘡ケアチーム、緩和ケアチームのラウンドなど、各委員会に積極的に参加しています。また、令和元年からはICUでの栄養管理業務を強化し、令和2年度からは早期栄養介入管理加算を算定。令和5年度からは救命救急病棟にも拡大し、医師、看護師、薬剤師、リハビリ等と密接に連携しながら、患者様の早期回復をサポートしています。

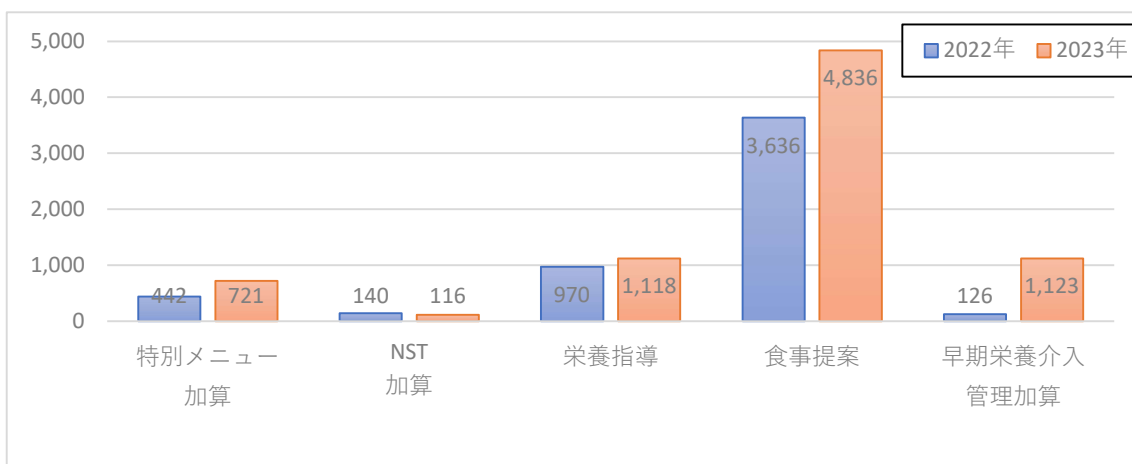
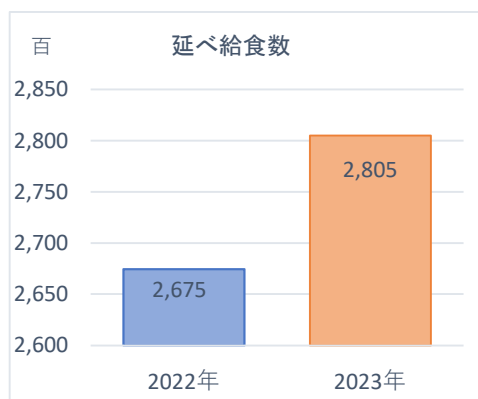
◆給食管理(通常の患者食調理は、全面委託)◆

2, 給食管理

①特別メニュー: 2007年から始まった特別メニューは、現在1ヶ月に10回ほど実施しています。病院給食では提供が難しいものや、患者様が自宅に帰ったような懐かしさを感じられるメニューなどを取り入れています。(写真)

②献立作成: 献立作成は、5週間のサイクルメニューになっていますが、定期的に新メニューや旬の食材を取り入れ、行事食にはカードを添えるなど、入院生活であっても移りゆく季節を感じられる食事提供を目指しています。

内容	2022年	2023年
延べ給食数	267,455	280,516
特別メニュー加算件数	442	721
NST加算件数	140	116
栄養指導件数	970	1,118
食事提案件数	3,636	4,836
早期栄養介入管理加算件数	126	1,123



(写真:特別メニュー ふぐちり鍋)



(写真:特別メニュー 海老天ぷらそば)

(揚村 和英)

リハビリテーション科

スタッフ

役職・氏名	
理学療法士長	安川 達哉
理学療法主任	山内 菜緒
理学療法主任	井上 和裕
作業療法主任	石丸 眞
作業療法主任	渡邊 沙耶香
理学療法士	12名
作業療法士	9名
言語聴覚士	2名
診療業務助手	2名
計 30名	

専門・認定資格
3学会合同呼吸療法認定士
呼吸ケア指導士
福祉住環境コーディネーター
臨床実習指導者講習修了
がんのリハビリテーション研修修了
心不全療養指導士
呼吸認定理学療法士
心臓リハビリテーション指導士
理学療法士協会指定管理者



概要

◆診療活動◆

発症後早期より積極的に患者様の心身機能や生活能力回復に取り組んでいます。救命・集中治療室に専従のスタッフを配置して重症患者様の早期リハビリテーションに対応しつつ、急性期病棟や地域支援病棟でのリハビリも充実させられるように体制を整えております。365日リハビリ体制のため、一人の患者様に対して、急性期から在宅復帰まで複数のスタッフに関わる点が特徴です。診療管理面では、事故予防や治療手技の均てん化を課題としつつも、患者様のニーズを複数職員で把握して議論したり、先輩も後輩もお互いに経験を共有できたりといった、良い点が活かされるよう、今後も運営したいと考えています。(士長)

◆チームアプローチ◆

毎週各診療科において、医師・看護師・ソーシャルワーカーなど多職種合同でのカンファレンスを実施しております。リハビリは身体・精神機能について生活の視点を持ち、退院先の方針決定などに活かせる情報を、適時適切に報告できるように努めています。また、地域社会の高齢化の中、在宅での介護が困難になるケースも増えていますが、患者様の希望にできるだけ添えるよう、多職種で協議しつつ医療サービスを提供しています。

◆教育体制◆

臨床教育にも力を入れており、毎年7～8校、10名程度の臨床実習生を受け入れています。また、若手は急性期と包括をローテーションしながら、段階的に経験を積むためのラダー制度を導入しています。

実績

疾患別(件数)	職種	2022年度	2023年度
脳血管疾患リハビリテーション I	PT	4,571	5,911
	OT	4,937	7,573
	ST	2,263	3,506
	合計	11,771	16,990
運動器疾患リハビリテーション I	PT	17,483	30,266
	OT	7,003	15,707
	合計	24,486	45,973
廃用症候群リハビリテーション I	PT	4,574	7,516
	OT	6,088	7,586
	ST	54	3
	合計	10,716	15,105
呼吸器リハビリテーション I	PT	2,646	2,096
	OT	1,234	1,997
	ST	57	24
	合計	3,937	4,117
心大血管リハビリテーション I	PT	901	0
	OT	50	0
	合計	951	0
がんのリハビリテーション	PT	365	722
	OT	955	1,089
	ST	0	9
	合計	1,320	1,820
リハビリテーション総合実施計画書		3,239	3,728
退院時指導		0	8

(河野 明彦)

医療機器管理室

👤 スタッフ

役職・氏名	
臨床工学技士長	三代 英紀
主任臨床工学技士	石田 朋行
臨床工学技士	5名

専門・認定資格
3学会合同呼吸療法認定士 2名
高気圧酸素治療専門技師 1名
第2種ME技術者 5名
日本DMAT隊員 1名



👤 概要

◆医療機器管理業務◆

医療機器管理業務では病院内で使用している人工呼吸器や輸液ポンプなど約20機種・700台の医療機器を中央管理として安全に使用できるように保守点検業務を行っています。保守点検業務では、使用が終了した機器の終了時点検や定期的に行われる点検の年間計画を策定し実施しています。また、教育業務にも力を入れており、看護スタッフに向けて人工呼吸器や新しく入ってきた機器の取り扱い等の勉強会を行っています。

◆集中治療室業務・手術室業務◆

集中治療室では、人工呼吸器の使用時に起こったトラブルの対応やCHDF(緩徐血液透析濾過法)などの生命維持管理装置に対する技術支援を行っています。

手術室では、術中神経モニタリング(MEP / SEP)や脳ナビゲーションによる手術の支援、下肢静脈瘤血管内焼灼術におけるレーザー装置の操作などを行っています。

◆透析センター業務◆

透析センターでは腎臓の働きの代わりにする血液透析(HD)や血液透析濾過(HDF)を行っており、臨床工学技士はそれらの治療を行う装置の操作、保守点検を行っています。また、透析を行うにあたって必要となる透析液の水質検査やダイアライザーの管理も行っています。

◆高気圧酸素治療室業務◆

高気圧酸素治療は、様々な疾患に対して治療を行っています。治療の計画から装置の操作、保守点検を臨床工学技士が担っています。

 実績

業務領域		症例内容	件数
血液浄化	透析センター	血液透析(回数)	5,347
		血症交換療法(件数)	6
		血液吸着(件数)	6
	集中治療室	持続血液濾過透析療法(件数)	10
		エンドトキシン吸着療法(件数)	0
		血症交換療法(件数)	6
ME室	腹水濾過濃縮再静注療法	59	
高気圧酸素治療		高気圧酸素治療(新規患者数)	181
		高気圧酸素治療(治療回数)	2,420
臨床業務立ち合い	脳神経外科	手術ナビゲーション(脳外科)立ち合い(件数)	10
		術中モニタリング(SEP)(件数)	10
		INVOSセッティング(件数)	6
	消化器内科	RFA(ラジオ波焼灼療法)立ち合い(件数)	0
	神経内科	新規導入 NPPV (件数)	3
		新規導入 TPPV (件数)	0
	整形外科	術中神経モニタリング(MEP)	125
	心臓血管外科	下肢EVT(ALI)+ 麻酔器	27
		下肢EVT(CLI)	3
		下肢静脈瘤血管内焼灼術	26
		その他	2
	麻酔科	全科共通 麻酔器準備 (件数)	35

心理療法士

スタッフ

役職・氏名・専門資格		
主任心理療法士	白井 麻子	(公認心理師・臨床心理士)
心理療法士	黒木 浩子	(公認心理師)
心理療法士	佐村 さや香	(公認心理師・臨床心理士)



概要

◆心理的援助◆

カウンセリングや心理療法といった心理面接を通しての心理的援助を実施しています。対象となるのは当院に通院されている外来患者・入院患者であり、またご本人のみではなく、ご家族のご相談もお受けしています。様々な科から面接依頼を頂き内容に応じて主治医・看護師など多職種と連携しながら心理的支援を実施しています。それぞれの相談内容に合わせて、健康な側面の成長促進を目的とした援助や問題に対する解決方法を一緒に考えていくという援助等、様々な心理的援助アプローチを行っています。ご家族に対しては2番目の患者さんという視点に立ち、積極的に支援できるようスタッフと連携しながら様々な工夫をしています。

◆心理検査◆

心理学的援助を実践するにあたっては心理アセスメントが重要になります。

そのアセスメントの方法の1つに心理検査があります。

言語・視覚認知・記憶・注意・実行機能などの認知機能の諸機能を測定する神経心理学的検査や知能検査、パーソナリティ傾向や抑うつや不安を測定する自己記入式の質問紙検査などを実施しています。

◆チーム活動・カンファレンス参加◆

心理療法士もチームの一員として多職種チームやカンファレンスに参加しています。

- ・精神科リエゾンチーム
- ・緩和ケアチーム
- ・認知症ケアサポートチーム
- ・HIV診療チーム 等

 実績

	2022年度	2023年度
〈心理面接〉	892	897
〈心理検査〉		
MMSE	236	310
HDS-R	427	444
ADAS-cog	262	286
時計描画	0	55
FAB	83	27
WMS-R	78	15
WAIS-Ⅲ&WAIS-Ⅳ	12	1
WISC-Ⅲ	3	27
その他の心理検査	33	9

(白井 麻子)

地域医療連携室

👤 スタッフ

役職・氏名	専門・認定資格
医療社会事業専門職 沖本 慎一郎	社会福祉士・介護支援専門員
医療社会事業専門員 古永 智子	社会福祉士・介護支援専門員
医療社会事業専門員 大羽 智也	社会福祉士・介護支援専門員
医療社会事業専門員 河本 香織	社会福祉士・介護支援専門員
医療社会事業専門員 内田 恵梨	社会福祉士



👤 概要

保健医療機関において、社会福祉の立場から患者さんやその家族の方々の抱える経済的・心理的・社会的問題の解決、調整を援助し、社会復帰の促進を図る業務を行います。主な業務内容は

1. 療養中の心理的・社会的問題の解決、調整援助
2. 退院援助
3. 社会復帰援助
4. 受診・受療援助
5. 経済的問題の解決、調整援助
6. 地域活動 などを中心に活動しています。

実績

○相談活動内容

		件数
診療科別	内科	967
	消化器科	718
	循環器科	357
	脳神経外科	249
	整形外科	1,858
	脳神経内科	1,142
	外科	1,079
	救急科	63
	精神科	228
	産婦人科	21
	耳鼻咽喉科	37
	皮膚科	3
	泌尿器科	209
	小児科	6
その他	44	
病棟別	外来	1,447
	救命救急	95
	ICU	12
	4C	535
	5B	956
	5C	795
	6B	930
	6C	690
	7B	1,054
	7C	451
新規別	新規	2,219
	継続	4,598
相談内容	経済的問題	626
	心理社会的問題	682
	受診・受療問題	3,340
	退院援助	4,526
	社会復帰	27

○入退院支援加算算定状況

		件数
件数		1,263件
スクリーニング実績		1.1日
カンファレンス実績		5.5日
計画書作成実績		5.5日
退院先	自宅	162件
	施設	130件
	老健	20件
	転院	951件
地連パス	脳卒中	129件
	大腿骨	153件
男女別	男性	529件
	女性	734件
平均年齢	男性	79.5才
	女性	83.8才

(沖本 慎一郎)

看護部

スタッフ

役職・氏名	
看護部長	小林 奈々
副看護部長	服部 有希・小林 里美
看護師長	13名
副看護師長	24名
看護師	359名

専門・認定資格	
【認定看護師】	13名
感染管理認定看護師	2名
救急看護認定看護師	1名
クリティカルケア	3名
がん化学療法認定看護師	2名
皮膚排泄ケア認定看護師	1名
認定看護管理者	4名
【診療看護師】	1名
【特定行為看護師】	7名
(うち認定看護師4名)	



看護部の理念・基本方針

看護部の理念

- 1 患者さんの思いを大切に共に歩む看護を目指します
- 2 患者さんに納得と信頼を得る看護を目指します
- 3 看護者としての責務を誠実に実践します

看護部の基本方針

- 1 生命の尊厳と、人としての尊厳および権利を尊重します
- 2 安全で効果的な看護実践を目指し、患者さんご家族と共に考えることを基本とし、親切で配慮ある看護を提供します
- 3 看護職員としての気品と誇りをもち、他部門との信頼関係を保持します
- 4 組織の一員として積極的に病院経営に参画します
- 5 最良の看護実践のため、自己研鑽につとめます
- 6 医療・看護を学ぶ人々によりよい教育環境を提供します

看護部の取り組み

3月	ICカードを利用した新たな勤務時間管理システム導入
4月	特定行為看護師 1名配置

🏠 研修の実績

○ラダーレベル研修

内容		参加人数
ラダーレベルⅠ	フィジカルアセスメント	20
	メンバーシップ研修	18
	多重課題	17
	看護倫理Ⅰ	16
	リフレクション導入研修	16
	リフレクション研修	16
ラダーレベルⅡ	KYT	22
	急変シミュレーション	22
	看護倫理Ⅱ	21
	リフレクション研修	19
ラダーレベルⅢ	後輩支援研修Ⅰ-①	10
	後輩支援研修Ⅰ-②6か月フォローアップ研修	17
	後輩支援研修Ⅰ-③12か月フォローアップ研修	15
	退院支援	13
	ケーススタディ導入	10
	ケーススタディ発表会	13
ラダーレベルⅣ	リーダーシップ研修	7
	経営参画Ⅰ	9
	看護倫理Ⅳ	7
	キャリア形成	9

○新人看護師研修

内容		参加人数
新人看護師研修	新採用者オリエンテーション	19
	看護技術	20
	インフォメーション研修	19
	3ヶ月の振り返りリフレッシュ研修	18
	6か月の振り返りリフレッシュ研修	17

○全体研修 役割別研修

内容		参加人数
全体研修	看護を語る会	79
	重症度、医療・看護必要度	302
	院内留学	5
看護研究	看護研究計画書指導	17
	分析、統計	20
	看護研究のまとめ	11
	看護研究発表会	55
役割別研修	固定チームリーダー研修	27
	固定チーム取り組み発表会	86
	チューター看護師6か月フォローアップ研修	18
	チューター看護師12か月フォローアップ研修	15
	次年度チューター看護師、実地指導責任者導入研修	26

○スキルアップ研修

内容		参加人数
スキルアップ研修	急変対応～初級編～	42
	急変対応～リーダー編～	33
	人工呼吸器装着中の看護	20

○教育研修

内容		参加人数
教育研修	実習指導者講習会伝達研修	25

○看護補助者研修

内容		参加人数
看護補助者研修	感染予防	32
	守秘義務、個人情報保護	30
	日常生活援助	35
	診療に関わる補助業務	32

○院内認定専門領域看護師育成研修

内容		参加人数
院内認定専門領域看護師育成研修	院内認定呼吸ケア看護	10

○看護研究発表

テーマ		所属
院内看護研究発表	当院における糖尿病に対するスティグマの実態調査	4C
	アンガーマネジメント能力と看護職員の怒りの感情との関係性に関する実態調査	5C
	上肢骨折をした独居高齢者が抱く退院後の生活上の困難感	7C
	抗EGFR阻害剤による皮膚障害予防のための指導の効果～PRO-CTCAE評価を用いて～	外来

○院外看護研究発表

テーマ		所属
第77回国立病院総合医学会	COVID-19クラスターを経験した病棟看護師の感染予防に関する現状調査	4C
	消化器内科病棟でのスキンテア発生患者の実態調査～スキンテアリスク因子の実態を明らかにする～	6B
	入退院センター新設から4年目の課題～病棟看護師のアンケート結果から～	外来
第19回中国四国地区国立病院機構 国立病院療養所看護研究学会	育児時間・育児短時間休業利用者の精度利用に対する思い～インタビュー調査結果から必要な支援を考える～	看護部
第19回中国地区消化器内視鏡技師研究会	内視鏡検査、血管撮影検査におけるタイムアウトの導入	外来
第43回日本看護科学学会学術集会	局所麻酔下における頸部温電法のリラクゼーション効果の検証	手術室

E1【救命救急センター】

看護師長 柳楽 憲子

- 1 病床数 12床
- 2 看護方針
 - 1)救命救命としての役割を十分に発揮し、専門知識、技術を提供します。
 - 2)チーム医療を実践し、患者さん・ご家族に対し安心・安全な医療を提供します。
 - 3)救命救命センターとして人材育成に力を注ぎ専門性の高い看護を提供します。



E2【ICU】

看護師長 柳楽 憲子

- 1 病床数 4床
- 2 看護方針
 - 1)ICUとしての役割を發揮し、専門知識・技術を提供します。
 - 2)チーム医療を実践し、患者さん・ご家族に対し安心・安全な医療を提供します。
 - 3)専門性の高い分野として人材育成に努め専門性の高い看護を提供します。



4C病棟

看護師長 東 直美

- 1 病床数 54床
- 2 主な診療科:産婦人科・小児科・総合診療科・泌尿器科
- 3 看護方針
 - 1)患者さん・ご家族にとっての最善を、チームで検討し看護実践していきます。
 - 2)受け持ち看護師を主体に、患者さん・ご家族の意向を取り入れた看護を提供していきます。
 - 3)専門的知識と技術のある看護実践を行います。



5B病棟

看護師長 田中 栄治

- 1 病床数 52床
- 2 主な診療科:脳神経外科・神経内科・循環器内科
- 3 看護方針
 - 1)循環器内科・脳神経内科・脳神経外科疾患患者さんに対する質の高い急性期医療を提供します。
 - 2)患者さん・ご家族の目線に立ったチーム医療を実践します。
 - 3)事故防止に努め、安心安全な医療を提供します。
 - 4)地域および他の医療機関との連携を強化し、患者さん・ご家族を支援します。



6B病棟

看護師長 鵜原 智美

- 1 病床数 54床
- 2 主な診療科:消化器内科・口腔外科
- 3 看護方針
 - 1)がん、消化器をはじめとした急性期内科疾患に対する質の高い医療を提供します。
 - 2)患者さん、ご家族、多職種間で共に考え、健康の回復を目指す医療を展開していきます。
 - 3)患者さんや、ご家族の意思決定場に立ち会い、意思決定支援のサポートを行っています。
 - 4)退院支援カンファレンスにて、退院調整が必要となる患者さんへの早期介入や転院調整、緩和ケアアラウンドなど、多職種カンファレンスを定期的で開催し、チーム医療を提供しています。



6C病棟

看護師長 曾根 真弓

- 1 病床数 53床
- 2 主な診療科:消化器外科・乳腺外科
- 3 看護方針
 - 1)消化器外科、乳腺外科、心臓血管外科、がん患者さんへ質の高い医療を提供します。
 - 2)意思決定支援を行い、患者様とご家族の希望に沿った医療・看護を提供します。
 - 3)患者さんが安心して治療を受けられる環境を提供します。
 - 4)手術の前後から退院後の生活について、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士がチームとなって支えます。



7B病棟

看護師長 橋本 史香

- 1 病床数 54床
- 2 主な診療科:整形外科・小児科・耳鼻科・皮膚科
- 3 看護方針
 - 1)質の高い急性期医療を提供します。
 - 2)インフォームドコンセントに基づき、信頼される医療を展開していきます。
 - 3)リハビリやMSW等の他部門と協力し早期離床に努めることでQOLの向上を目指します。



7C病棟

看護師長 田中 雅美

- 1 病床数 52床
- 2 主な診療科:地域支援病棟
- 3 看護方針
 - 1)医師・看護師・リハビリスタッフ・ソーシャルワーカー等と連携し患者さんの治療や支援を行っています。
 - 2)地域や関連する施設との連携を大切に、病院から在宅への「架け橋」の役割を果たします。
 - 3)患者が安全・安心できる療養生活を送ることができるよう看護提供します。



～休棟病棟～

5C病棟

- 1 病床数 51床
- 2 主な診療科:地域支援病棟
- 3 看護方針
 - 1)自宅復帰に向けて、医療・看護・退院支援を行います。
 - 2)多職種と連携し、チームで退院支援に対応します。
 - 3)安全・安楽な療養環境を提供します。

手術・中央材料室

看護師長 西田 茂雄

- 1 手術室数 6室
- 2 看護の方針
 - 1)受け持ち看護師として手術を受ける患者さんの入室から退室まで責任をもって対応に努めます。
 - 2)専門的知識・技術をもとに、安全でより質の高い医療・看護を提供します。

表1 診療科別手術件数

診療科	件数
外科	553
心臓血管外科	80
脳神経外科	79
整形外科	1,139
産婦人科	31
泌尿器科	143
眼科	89
耳鼻咽喉科	55
歯科口腔外科	34
その他	1
総手術件数	2,204

表2 麻酔件数

麻酔区分	件数
全麻	1685
腰硬麻	94
局麻	316
その他	113



ビーンズ訪問看護ステーション

看護師長 加藤 かおり



- 1 看護方針
 - 1)退院後やご自宅での生活に不安がある方に、看護師が訪問してケアを提供します。住み慣れた自宅で生活しながら、安心・安全に療養できるよう、ビーンズ訪問看護ステーションは、ご本人・ご家族をママ(豆)な心くばりで支援していきます。



表1:訪問看護ステーション運営状況

利用 件数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		介護保険	173	165	178	160	184	142	155	149	149	146	137
医療保険	57	57	73	95	82	81	70	68	84	65	57	59	
計		230	222	251	255	266	223	225	217	233	211	194	205

地域連携室

看護師長 小林 陽子

- 1 看護方針
 - 1)地域医療連携室では、かかりつけの医師からの診察・検査やセカンドオピニオンの予約調整を行います。
 - 2)外来通院中や退院後も安心して在宅治療継続することができるよう、退院のお手伝いや訪問看護・医療相談を行っています。



外来

看護師長 岡田 愛

1 診療科:34 特殊外来:15

救急外来・内視鏡センター・透析センター・化学療法センター・健診センター

2 看護方針

1)患者さんが安心・安全に受診できるよう、患者さん中心の看護を提供します。

2)健康に不安をもつ患者さんに寄り添い地域、病棟と連携し安心して治療を行い、地域で過ごせるよう支援します。

3 外来患者状況

表1 1日平均外来患者数

診療科名	患者数
内科	66.7
精神科	17.7
脳神経内科	35.6
呼吸器内科	7.9
消化器内科	42.6
循環器内科	27.4
小児科	16.8
外科	43.1
整形外科	63
リハビリ科	11.6
脳神経外科	7.1
心臓血管外科	4.6
形成外科	3.2
皮膚科	8.4
泌尿器科	71.5
産婦人科	11.2
眼科	10.4
耳鼻咽喉科	16.7
放射線科	5.1
麻酔科	4.1
救急科	20.4
歯科口腔外科	15.4
計	510.5

表2 救急来院患者数状況

	救急患者 来院件数	来院方法別		他医療機関転送 (再掲)	
		救急車 搬送総数	救急車以外 搬送総数		
総数	入院	2,464	1,816	648	152
	外来	4,865	1,721	3,144	111
診療時間内	入院	971	778	193	318
	外来	697	547	150	65
診療時間外	入院	1,493	1,038	455	107
	外来	4,168	1,174	2,994	96
深夜(再掲)	入院	230	163	67	3
	外来	708	257	451	5

表3 人工透析患者状況
(入院・外来含む)

	計	月平均
患者数	229	19.0
延回数	4538	453.2

表4 特殊検査件数

検査内容		計	月平均
内視鏡	胃・十二指腸ファイバー	2062	171.8
	大腸ファイバー(ポリバク)	867	72.3
	気管支ファイバー	21	1.8
	ERCP	202	16.8
放射線関係	血管造影	139	11.6
	心臓カテーテル	3	0.3
	ミエログラフィー	35	2.9
	ペースメーカー	21	1.8



MEMO 

事務部(企画課・管理課)

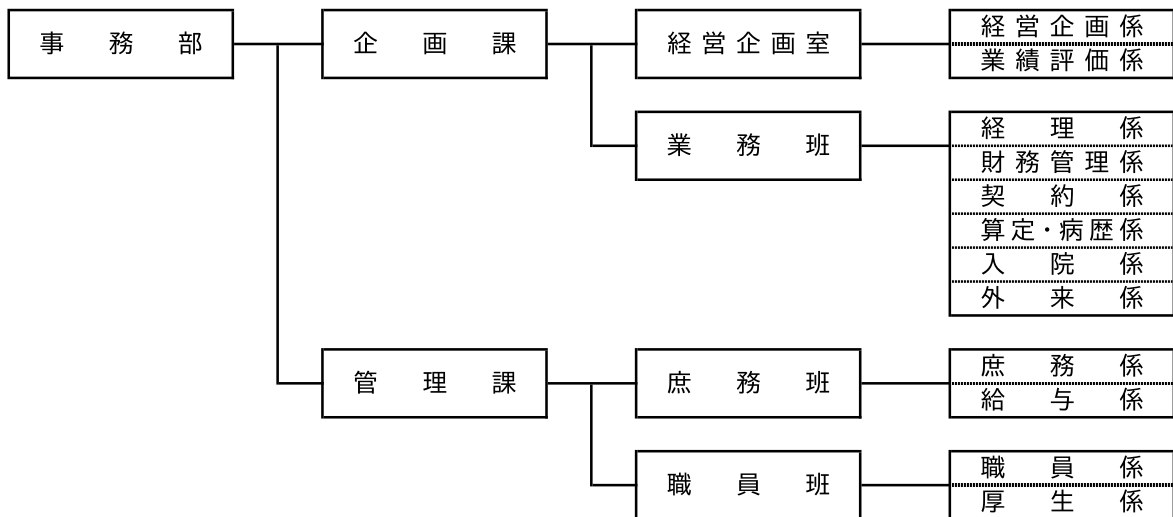
1. 事務部職員数(令和5年4月1日現在)

職 群	定 数	現 員
部長	1	1
課長・室長	3	3
班長・専門職	4	2
係長	8	5
一般職員	6	10
計	22	21

※現員は休職者を含む

※欠員は経営面を考慮し、固定費削減方策として補充していない。

2. 組織



3. トピックス

2023年(令和5年)5月8日、3年にわたる新型コロナウイルス感染症(COVID-19)への対応は、感染症法上の5類移行に伴い、大きく転換した。また、地域医療構想の進展もあり、「変革年」となった今年度における事務部のトピックスについて、報告する。

①地域医療構想調整会議(令和05年度)

R5年3月の地域医療構想調整会議において、第2次中間報告が取りまとめられ、まずは、4病院体制から3病院体制への再編・統合に係る検討を早急に進めていく必要があるとされ、市民病院とJCHO下関医療センターの2病院の統合の可能性の検討が始まった。

そして、R5年12月に新下関市立病院基本構想検討委員会が市民公開のもと開催され、下関市立市民病院及び下関医療センターの2病院の統合を基本的な方針とし、新病院は下関市が建築、建設候補地は下関市が保有する「幡生(はたが)駅操車場跡地」を選定することが打ち出され、R6年1月第2回検討委員会が市民公開で開催、「新下関市立病院基本構想」が了承された。

さらにR6年2月に市民公開のもと開催された同調整会議にて、R6年4～5月にパブリックコメントを求め、R6年6月「新下関市立病院基本構想」が文教厚生委員会に報告後、公表予定の旨、説明がなされている。(→パプコメは、3月23日実施となった)

②医師の働き方改革への対応

国立病院機構では、客観的な記録に基づく新たな勤務時間管理方法を実施するため、ICカード等を利用した勤務時間システムの導入を行う方針を掲げ、当院でも令和5年度の稼働に向けて事務部を中心に取り組み、令和4年度末月に既存の勤務表作成システムを拡張する形でシステムの導入を行った。

この取り組みにより、職員の勤務時間をより適切に把握できるようになり、「働き方改革」の柱である長時間労働削減に向けた重要な取り組みの一つとなり得るものである。

引き続き、タスクシフト・シェアも併せて推進して行きたいと考えている。

(中村 一弥)

診療情報管理室

👤 スタッフ

役職・氏名	
室長	鶴 政俊
診療情報管理士	太田 恭司
	島 且大
	宮添 夏生
	枝松 希
	藤本 泰生
	ほか1名

専門・認定資格	
診療情報管理士	5名
医療情報技師	1名
がん登録実務初級者	4名
医療クオリティ マネジャー	1名



👤 概要

◆診療情報管理業務◆

診療情報の適切な保管・管理を行っています。

また、診療記録に不整合がないかを点検し、診療情報管理システムの構築を行い、精度管理に努めています。

◆疾病統計、分析業務◆

入院患者について国際疾病分類(ICD)による疾病統計を行っています。

疾病統計の作成、臨床評価指標の作成等に役立っています。

◆DPC管理業務◆

退院前に、診療報酬の請求担当者とは別の視点で診療情報管理の一貫としてのDPCコーディングの適正化を行っています。

◆がん登録業務◆

がん登録等の推進に関する法律、および院内がん登録の実施に係る指針に基づき、がん登録を実施しています。

実績

◆疾病統計◆

大分類	ICD	性別	
01:感染症及び寄生虫症	(A00-B99)	男	67
		女	80
02:新生物	(C00-D48)	男	908
		女	817
03:血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	(D50-D89)	男	20
		女	29
04:内分泌、栄養および代謝疾患	(E00-E90)	男	77
		女	79
05:精神および行動の障害	(F00-F99)	男	12
		女	17
06:神経系の疾患	(G00-G99)	男	141
		女	137
07:眼および付属器の疾患	(H00-H59)	男	43
		女	42
08:耳および乳様突起の疾患	(H60-H95)	男	35
		女	38
09:循環器系の疾患	(I00-I99)	男	287
		女	264
10:呼吸器系の疾患	(J00-J99)	男	285
		女	170
11:消化器系の疾患	(K00-K93)	男	443
		女	333
12:皮膚および皮下組織の疾患	(L00-L99)	男	34
		女	36
13:筋骨格系および結合組織の疾患	(M00-M99)	男	167
		女	170
14:腎尿路生殖器系の疾患	(N00-N99)	男	151
		女	109
15:妊娠、分娩および産じょく<褥>	(O00-O99)	男	
		女	18
16:周産期に発生した病態	(P00-P96)	男	2
		女	7
17:先天奇形、変形および染色体異常	(Q00-Q99)	男	1
		女	7
18:症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	(R00-R99)	男	7
		女	10
19:損傷、中毒およびその他の外因の影響	(S00-T98)	男	386
		女	544
20:傷病および死亡の外因	(V01-Y98)	男	
		女	
21:健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	(Z00-Z99)	男	
		女	
22:特殊目的用コード	(U00-U89)	男	36
		女	41
???.分類不明	※NEC	男	
		女	
合計		男	3,102
		女	2,948

※NEC:国際疾病分類”not elsewhere classified”の略で、他のいずれの項目にも分類されないもの

◆がん登録統計◆

男	女	計
318	331	649

(島 且大)



 *Section 4*

研究実績

原著論文、総説、著書(英文)

No.	タイトル	雑誌名	巻 号 ページ		
	著者		年月		
1	Epstein-Barr virus detection in endoscopic submucosal dissection-proven early gastric cancer with mixed-type histology	Cancer Rep (Hoboken)	6		
	Hideo Yanai, Daisuke Chihara, Megumi Harano, Eiki Sakaguchi, Seiji Kaino, Tomoyuki Murakami, Jun Nishikawa		2023年5月		
2	Neutrophil-, Monocyte- and Platelet-to-Lymphocyte Ratios, and Absolute Lymphocyte Count for Diagnosis of Malignant Soft-tissue Tumors	Anticancer Res	43	7	3349-3357
	Mihara A, Iwanaga R, Yukata K, Fujii K, Muramatsu K, Ihara K, Sakai T		2023年7月		
3	Lung iodine mapping images of acute postpartum dyspnea without pulmonary thromboembolism using dual-energy CT	Acta Radiol	64	8	2401-2408
	Okada M, Nomura T, Kunihiro Y, Takegami K, Uehara T, Tokurei S		2023年8月		
4	Endoscopic Diagnosis and Therapy for Epstein-Barr Virus-Associated Gastric Cancer	Microorganisms	11	11	
	Yanai H, Fujiwara J, Toyama E, Okuda H, Miura O, Kaino S, Nishikawa J		2023年11月		
5	Follicular lymphoma with secondary central nervous system relapse: a case report and literature review.	Oxf Med Case Reports.			
	Tsuboi Y, Shimizu M, Kuroda A, Suyama T, Seki M, Shinagawa A.		2023年11月		
6	Cooperation between artificial intelligence and endoscopists for diagnosing invasion depth of early gastric cancer	Gastric Cancer	26	1	116-122
	Atsushi Goto, Naoto Kubota, Jun Nishikawa, Ryo Ogawa, Koichi Hamabe, Shinichi Hashimoto, Hiroyuki Ogihara, Yoshihiko Hamamoto, Hideo Yanai, Osamu Miura, Taro Takami		2024年1月		
7	Female and preserved platelet count subgroups of myelodysplastic syndrome patients benefit from standard-dose azacitidine.	Cancer Rep (Hoboken)			
	Ogawa S, Sakamoto T, Matsuoka R, Ishitsuka K, Ogino Y, Sootome A, Makishima K, Yoshida C, Ito Y, Shimizu S, Suyama T, Shinagawa A, Ito T, Obara N, Kusakabe M, Sakata-Yanagimoto M, Miyazaki Y, Nannya Y, Chiba S.		2024年1月		
8	Effects of Extended Fixation on Advanced Gastric Cancer HER2 Status Assessment Using IHC and FISH	Anticancer Res	44	2	621-630
	Kondo J, Yoshino S, Iida M, Takeda S, Nakashima C, Watanabe Y, Nishiyama M, Tokumitsu Y, Shindo Y, Nishimura T, Suzuki N, Hoshii Y, Itoh H, Nagano H		2024年2月		
9	Isolated Central Nervous System Involvement after Brentuximab Vedotin Treatment for HIV-Positive ALK-Negative Anaplastic Large Cell Lymphoma	Case Rep Hematol			
	Suyama T, Matsui K, Makihara K, Tsuru M		2024年2月		

No.	タイトル	雑誌名	巻	号	ページ
	著者		年月		
10	Compression therapy using surgical gloves is ineffective for the prevention of vincristine-induced neuropathy in patients with malignant lymphoma	Support Care Cancer	32	3	
	Suyama T, Tsuboi Y, Shimizu M, Kuroda A, Seki M, Shinagawa A			2024年3月	
11	The combination of hydrogen gas and hydrogen-rich solution does not protect against ischemic spinal cord injury in rabbits	J Anesth			
	Yamashita A, Fukui T, Yamashita S, Ishida K, Matsumoto M			2024年3月	
12	Multicenter Prospective Cohort Study of Neoadjuvant Chemotherapy for Borderline Resectable Pancreatic Cancer (YPB-001)	Pancreas			
	Matsui H, Ioka T, Takahashi T, Kawaoka T, Maeda Y, Yahara N, Kubo H, Nishimura T, Inokuchi T, Harada E, Shindo Y, Tokumitsu Y, Nakajima M, Takami T, Ito K, Tanaka H, Hamano K, Nagano H.			2024年3月	

原著論文、総説、著書(和文)

No.	タイトル	雑誌名	巻 号		ページ
	著者		年月		
1	術前に心房細動があり、心拡大を伴う患者の術中術後合併症発症頻度、及び合併症発症患者における関連因子について	臨床麻酔	47	4	554-559
	田和 聖子、北 仁志、内本 亮吾、藤田 文彦、福井 健彦		2023年4月		
2	特発性血小板減少性紫斑病を合併した後天性第V因子欠乏症	日立医学会誌	57	1	17-22
	周山 拓也、坪井 宥璃、清水 美咲代、黒田 章博、関 正則、中島 修平、品川 篤司		2023年7月		
3	形質細胞増多を伴う多量胸水貯留を認めた血管免疫芽球性T細胞リンパ腫	日立医学会誌	57	1	11-16
	永井 和志、周山 拓也、清水 美咲代、黒田 章博、関 正則、品川 篤司		2023年7月		
4	古典的ホジキンリンパ腫とびまん性大細胞型B細胞リンパ腫の複合リンパ腫	日立医学会誌	57	1	23-28
	清水 美咲代、坪井 宥璃、黒田 章博、周山 拓也、関 正則、品川 篤司		2023年7月		
5	慢性貧血に対する赤血球輸血後に可逆性後頭葉白質脳症を発症した1例	日立医学会誌	57	1	60-66
	坪井 宥璃、清水 美咲代、黒田 章博、周山 拓也、関 正則、品川 篤司		2023年7月		
6	当院のクリティカルケア(救急・集中治療)部門において経口挿管管理下に発生した医療関連機器圧迫損傷(MDRPU)について 第1報-2016年度から4年間の検討-	高知医療センター医学雑誌	11		1-6
	立本行宏、福留麗実、板敷康隆、廣末優子、中島桂子、矢野奈々、竹崎陽子、浜町美咲、高屋笑美、本山舞		2023年12月		
7	巨大境界悪性葉状腫瘍に浸潤性乳管癌が併存した1例	癌と化学療法	50	13	1618-1620
	前田 訓子、尤 曉琳、鍋屋 まり、周山 理紗、鈴木 伸明、武田 茂、為佐 路子、長島 由紀子、久保 秀文、山本 滋、永野 浩昭		2023年12月		
8	進行胃癌に対するニボルマブ+SOX療法にて多彩なirAEを呈した1症例	癌と化学療法	50	13	1804-1806
	木原 ひまわり、吉野 茂文、北原 正博、坂本 和彦、長島 由紀子、矢原 昇、林 弘人		2023年12月		
9	肩関節脱臼として治療を開始し診断が遅れたDISHを伴う頸椎脱臼骨折の1例	中部日本整形外科災害外科学会雑誌	67	1	27-28
	篠原 道雄、峯 孝友		2024年1月		
10	標準的治療後の局所進行再発乳癌に対する動注塞栓療法	日本インターベンショナルラジオロジー学会雑誌	38	3	228
	岡田 宗政、佃 利信、長島 由紀子		2024年1月		
11	育児時間・育児短時間休業利用者の制度利用に対する思いインタビュー調査結果から必要な支援を考える	中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会誌	19		9-12
	岡 美樹、越智 希、田中 雅美、中島 美恵、藤津 京子		2024年1月		
12	骨盤輪骨折におけるextravasationの予測に関する検討	骨折	46	2	348-351
	米原 孝則、関 寿大、今釜 崇、岡崎 朋也、金岡 丈裕		2024年3月		

国際学会発表

No.	発表年月日	発表学会	演題名等	職名	演者氏名
1	R5.6.15	The 15th International Gastric Cancer Congress	Clinical evaluation of nivolumab in combination with S-1 plus oxaliplatin as a 1st line treatment for the patients with advanced gastric cancer	院長	吉野 茂文
2	R5.10.4	The 14th Asia Pacific Musculoskeletal Society Meeting	Gouty involvement of the digit mimicking aggressive neoplasm:Report of two cases	特別顧問	伊原 公一郎
3	R6.3.5	The 14th Asia Pacific Musculoskeletal Society Meeting	Preoperative Electrocardiogram J Wave and QT Prolongation during General Anesthesia:A Case Report	麻酔科医長	田和 聖子

国内学会発表

No.	発表年月日	発表学会	演題名等	職名	演者氏名
1	R5.4.13	第82回 日本医学放射線学会総会	急性膵炎に伴う仮性腹腔動脈瘤の1例	臨床研究部長	戒能 聖治
2	R5.4.13	第83回 日本医学放射線学会総会	異所性静脈瘤に対する血管内治療	放射線診断科医長	岡田 宗政
3	R5.5.18	第52回 日本IVR学会総会	経頸静脈及び経脾的dual-balloon閉塞下に硬化療法が施行された巨大十二指腸静脈瘤の1例(Transjugular and transsplenic dual-balloon occluded sclerotherapy for huge duodenal varices)	放射線診断科医長	岡田 宗政
4	R5.5.19	第52回 日本IVR学会総会	下肢静脈奇形再発例に対するIMPEDE-FX補助下硬化療法(IMPEDE-FX assisted sclerotherapy for recurrent lower extremity venous malformation)	放射線診断科医長	岡田 宗政
5	R5.5.20	第52回 日本IVR学会総会	各種末梢損傷に対するステンドグラフトを用いた血管内治療	放射線診断科医長	岡田 宗政
6	R5.6.2	第45回 日本癌局所療法研究会	進行胃癌に対するニボルマブ+SOX療法にて複数のirAEを呈した一例	外科医師	木原 ひまわり
7	R5.6.4	第81回 山口臨床外科学会総会	当院における閉鎖孔ヘルニアに対する治療戦略	外科医師	酒井 豊吾
8	R5.6.4	第81回 山口臨床外科学会総会	当院における体内内吻合を用いた腹腔鏡下結腸切除術の導入と短期治療成績	外科医師	佐伯 晋吾
9	R5.6.24	第119回 日本消化器病学会中国支部例会	mFOLFIRINOX療法により切除可能となった切除不能局所進行膵頭部癌の一例	臨床研究部長	戒能 聖治
10	R5.6.24	第138回 日本医学放射線学会中国・四国地方会	伏臥位心臓CTの機械学習再構成を用いた体位変換仰臥位CT画像とoriginal仰臥位心臓CTの比較	研修医	山崎 孝太
11	R5.6.29	第77回 日本食道学会学術集会	当院における超高齢者食道癌治療の現状	整形外科医師	北原 正博
12	R5.6.29	第49回 日本骨折治療学会	足関節脱臼後、化膿性足関節炎に対して段階的な治療にて足関節固定術を行った1例	リハビリテーション科医長	栗山 龍太郎
13	R5.6.30	第49回 日本骨折治療学会	骨盤輪骨折におけるextravasationの予測に関する検討	整形外科医師	米原 孝則
14	R5.7.1	第60回 日本リハビリテーション医学会学術集会	凍結処理骨付き膝蓋腱を用いた左膝部悪性軟部腫瘍切除後の伸展機構再建術後の機能回復と社会復帰	特別顧問	伊原 公一郎
15	R5.7.1	第60回 日本リハビリテーション医学会学術集会	WM GAIT CHECKERによる歩行分析を行ったパーキンソン病患者の一症例	理学療法士長	安川 達哉
16	R5.7.6	第60回 日本外科代謝栄養学会学術集会	消化器がん患者の手術前後における部位別骨格筋量と身体機能の推移	理学療法士	佐藤 晟也
17	R5.7.9	第130回 日本消化器内視鏡学会中国支部例会	ステント機能不全に対するreinterventionにZeronose papillotomeが有用であった一例	臨床研究部長	戒能 聖治
18	R5.7.12	第78回 日本消化器外科学会総会	食道癌手術における空腸瘻造設に起因する腸閉塞回避を目的とした経肝門索胃管瘻造設	研修医	中野 紗季

No.	発表年月日	発表学会	演題名等	職名	演者氏名
19	R5.7.12	第78回 日本消化器外科学会総会	当院における切除不能進行胃癌に対するSOX+ニボルマブ療法の治療成績	外科医師	北原 正博
20	R5.7.13	第78回 日本消化器外科学会総会	大腸癌肝転移切除後の治療成績と予後因子	外科医長	坂本 和彦
21	R5.7.15	第28回 山口県関節外科研究会	小児大腿骨折に対してCCSにて骨接合を施行した1例	整形外科医師	米原 孝則
22	R5.7.15	第28回 山口県関節外科研究会	蜂窩織炎を起因としたと思われる脛骨膝蓋腱付着部近傍の亜急性骨髄炎	研修医	中村 桃子
23	R5.7.15	日本集中治療学会第7回九州支部学術集会	多職種連携-私たちが支えるICU-	救命救急センター医師	松本 泰幸
24	R5.7.28	第26回 日本臨床救急医学会総会・学術集会	当院に搬送されたフグ中毒5例の検討	研修医	金子 真也
25	R5.7.29	九州大学応用力学研究所研究集会	有限要素法による足根骨骨折発生機序の理解と予防医学への応用	整形外科医長	坪根 徹
26	R5.7.30	日本集中治療学会第7回中国・四国支部学術集会	学術集会でこまですの！?リアルカンファレンスを体験する	栄養管理室長	揚村 和英
27	R5.9.1	第98回 中国四国外科学会総会	盲腸捻転で生じた閉塞性イレウスの一例	外科医師	酒井 豊吾
28	R5.9.9	第34回 日本抹消神経学会学術集会	手指軟部腫瘍切除後に生じた指神経障害の検討	特別顧問	伊原 公一郎
29	R5.9.9	第10回 巖流整形外科フォーラム	COVID-19感染により待機手術を余儀なくされた症例の検討-整形外科領域における待機可能手術とは-	整形外科医師	米原 孝則
30	R5.9.9	第19回 中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会	育児時間・育児短時間休業利用者の制度利用に対する思い～インタビュー調査結果から必要な支援を考える～	看護師長	岡 美樹
31	R5.9.10	第19回 中国地区消化器内視鏡技師研究会	内視鏡検査、血管撮影検査におけるタイムアウトの導入	看護師	山田 房江
32	R5.9.14	第59回 日本胆道学会学術集会	内視鏡的経乳頭的胆嚢ステント留置後に胆嚢穿孔をきたした一例	臨床研究部長	戒能 聖治
33	R5.9.23	第20回 日本乳癌学会中国四国地方会	当院におけるTriple Negative早期乳癌に対する術前・術後薬物療法としてのPambrolizumabの使用経験	外科医長	長島 由紀子
34	R5.9.23	第57回 日本高気圧環境・潜水医学会 学術総会	当院の第1種高気圧酸素療法運用に対する取り組み	心臓血管外科医長	村上 雅憲
35	R5.9.30	第25回 日本骨粗鬆症学会	当院におけるロモソズマブの使用経験	リハビリテーション科医長	栗山 龍太郎
36	R5.9.30	第4回 山口足の外科研究会	初期対応に難渋した足背創部を伴うリスフラン関節脱臼骨折の一例	整形外科医師	米原 孝則
37	R5.10.1	第25回 日本骨粗鬆症学会	二次性骨折予防継続管理料算定における連携パスの運用-圏域共通のパス策定への取り組み-	MSW	大羽 智也
38	R5.10.6	第141回 中部日本整形外科災害外科学会・学術集会	肩関節脱臼として治療を開始し診断が遅れたDISHを伴う頸椎脱臼骨折の1例	整形外科医長	篠原 道雄

No.	発表年月日	発表学会	演題名等	職名	演者氏名
39	R5.10.7	第36回 中国四国IVR研究会	標準的治療後の局所進行再発乳癌に対する動注塞栓療法	放射線診断科医長	岡田 宗正
40	R5.10.15	第85回 日本血液学会学術集会	(R-)CHOP療法に伴う高血糖に対するデュラグルチドの安全性と有用性の検討	糖尿病・血液内科医師	周山 拓也
41	R5.10.20	第77回 国立病院総合医学会	胆管挿管困難例におけるSeeking Tome"ZERO"の使用経験	臨床研究部長	戒能 聖治
42	R5.10.20	第77回 国立病院総合医学会	当院で経験したH.pylori陽性小児十二指腸潰瘍の一種	臨床検査技師	津田 理香子
43	R5.10.20	第77回 国立病院総合医学会	消化器内科病棟でのスキンテア発生患者の実態調査～スキンテアリスク因子の実態を明らかにする～	看護師	内田 範子
44	R5.10.20	第77回 国立病院総合医学会	COVID-19クラスターを経験した病棟看護師の感染予防に関する現状調査	看護師	若嶋 幸絵
45	R5.10.20	第77回 国立病院総合医学会	80列CTを用いたBBI解析への試み	放射線技師	上杉 尚行
46	R5.10.21	第77回 国立病院総合医学会	二次性骨折予防に向けたリエゾンサービスと管理栄養士の関わり	栄養管理士	鵜野 くるみ
47	R5.10.21	第77回 国立病院総合医学会	当院の第1種高気圧酸素療法運用に対する取り組み	心臓血管外科医長	村上 雅憲
48	R5.10.21	第77回 国立病院総合医学会	当院での大腿骨近位部骨折後の二次骨折予防への取り組みと問題点	リハビリテーション科医長	栗山 龍太郎
49	R5.10.21	第77回 国立病院総合医学会	二次性骨折予防継続管理料算定における連携バスの運用-圏域共通のバス策定への取り組み-	MSW	大羽 智也
50	R5.10.21	第77回 国立病院総合医学会	入退院センター新設から4年目の課題-病棟看護師のアンケート結果から-	看護師	多々良 絢子
51	R5.10.21	第77回 国立病院総合医学会	冠動脈CTにおける遅延造影撮影の必要性の判断について	診療放射線技師	松下 敦彦
52	R5.10.21	第77回 国立病院総合医学会	変形性膝関節症に対する人工膝関節全置換術前後の下肢筋力を含めた体幹動揺の検討	理学療法士	山成 考寛
53	R5.10.21	第77回 国立病院総合医学会	フットチェックにおけるレーザ血流計の有用性評価	臨床工学技士	藤野 唯依加
54	R5.10.21	第77回 国立病院総合医学会	医療の質向上に向けた診療記録の質的点検の取り組み 電子カルテ質的監査 適時調査での指摘事項への改善取り組み	診療情報管理室	太田 恭司
55	R5.10.26	第64回 日本脈管学会学術総会	流体構造連成解析を用いた嚢状腹部大動脈瘤に対するステント留置術の力学的評価—ステントサイズに関する検討—	心臓血管外科医長	村上 雅憲
56	R5.10.27	日本糖尿病学会中国四国地方会第61回総会	ほぼ同時期に抗GAD抗体関連脳症を合併した急性発症1型糖尿病の1例	研修医	片岡 広明
57	R5.11.4	第146回 西日本整形災害学会学術集会	骨粗鬆症椎体骨折後の遅発性神経麻痺に対して椎体置換術とshort fusionの期待	研修医	久我 茂誠
58	R5.11.18	第19回 中四国放射線医療技術フォーラム	チルトスキャンによるBHC補正の影響についての基礎知識	診療放射線技師	上杉 尚行

No.	発表年月日	発表学会	演題名等	職名	演者氏名
59	R5.11.19	第120回 日本消化器病学会中国支部例会	膵神経内分泌腫瘍と胃消化管間質系腫瘍を同時に認めた1例	臨床研究部長	戒能 聖治
60	R5.11.19	第131回 日本消化器内視鏡学会中国支部例会	成因不明の小腸閉塞として入院後にアニサキス症と診断された1例	臨床研究部長	千原 大典
61	R5.11.30	第51回 日本救急医学会・学術集会	迅速クレアチニン測定装置使用による造影CT検査までの時間短縮効果と有効性の検討	救急科医師	松本 泰幸
62	R5.12.1	第34回 日本リウマチ学会中国・四国支部学術集会	関節リウマチの発症を契機に発作性心房細動の悪化・蔓延を来した症例の検討	整形外科医長 研修医	峯 孝友 岩倉 直希
63	R5.12.1	第33回 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会	ALS患者に対するLICトレーニングの制限因子の検討	理学療法士	山成 考寛
64	R5.12.8	日本臨床麻酔学会 第43回大会学術集会・総会	術前心電図上J波を有し、全身麻酔中にQTc延長を呈した1症例	麻酔科医長	田和 聖子
65	R5.12.8	第50回 日本マイクロサージャリー学会学術集会	脊髄損傷を伴った粉碎の高度な両下腿開放骨折に対して有茎血管柄付腓骨移植による足関節固定を行なった1例	整形外科医長	坪根 徹
66	R5.12.8	第139回 日本医学放射線学会中国・四国地方会	Adamkiewicz動脈と共通幹をなす脊髄動脈静脈瘻に対して塞栓術にて加療し得た1例	放射線診断科医長	岡田 宗正
67	R5.12.8	第1回 日本膝関節学会	蜂窩織炎を起因としたと思われる脛骨膝蓋腱付着部近傍の亜急性骨髄炎	研修医	井浦 直人
68	R5.12.9	第43回 日本看護科学学会学術集会	局所麻酔下における頸部温電法のリラクセーション効果の検証	看護師	廣田 千佳子
69	R6.1.27	第41回 中部日本手外科学会	高齢者の手指結晶沈着性関節症に対する手術治療	特別顧問	伊原 公一郎
70	R6.1.27	第17回 日本性差医学・医療学会学術集会	当院5年間における若年女性の急性冠症候群・急性脳卒中の発症状況	循環器内科医長	早野 智子
71	R6.2.3	第15回 WCT骨接合ベシック研究会	四肢に対する創外固定Lecture/骨盤の創外固定Hands on	リハビリテーション科医長	栗山 龍太郎
72	R6.2.10	第26回 救急整形外科シンポジウム(EOTS)	化膿性足関節脱臼の1例	リハビリテーション科医長	栗山 龍太郎
73	R6.2.17	第36回 日本軟骨代謝学会	若年者の比較的広範囲膝関節軟骨損傷に対する治療	研修医	中野 すず (共同:峯 孝友)
74	R6.2.22	第21回 日本臨床腫瘍学会学術集会	当院における切除不能・再発胃癌に対するSOX+ニボルマブ療法の臨床的検討	院長	吉野 茂文
75	R6.2.28	第96回 日本胃癌学会総会	アニサキス症による好酸球性肉芽腫を合併した多発リンパ節腫大を伴うstageI胃癌の1例	外科医師	北原 正博
76	R6.2.28	第96回 日本胃癌学会総会	Clinical assessment of nivolumab plus SOX treatment for advanced gastric cancer in our institute	院長	吉野 茂文
77	R6.3.2	第11回 日本脆弱性骨折ネットワーク学術集会	当院での大腿骨近位部骨折後の二次骨折予防への取り組みと問題点	リハビリテーション科医長	栗山 龍太郎
78	R6.3.16	第63回 日本血液学会中国四国地方会	多発性骨髄腫においてRDWが独立した予後因子となるかの研究:単一施設の後方視的解析	研修医	宮崎 芽輝 (共同:周山拓也)

No.	発表年月日	発表学会	演題名等	職名	演者氏名
79	R6.3.16	第63回 日本血液学会中国四国地方会	ブレンツキシマブ投与後に中枢神経再発を来したHIV陽性ALCL	研修医	重本 航輝 (共同:周山拓也)
80	R6.3.16	第63回 日本血液学会中国四国地方会	M蛋白に関連した腎臓Thrombotic microangiopathyに対して化学療法を施行し改善を得た一例	研修医	岩倉 直希 (共同:周山拓也)
81	R6.3.22	第37回 日本四肢再建・創外固定学会学術集会	骨・軟部腫瘍切除後の四肢再建術:マイクロサージャリーによる一期的再建術の有用性	特別顧問	伊原 公一郎

 MEMO
~~~~~





独立行政法人国立病院機構関門医療センター  
令和5年度 年報



---

|       |                      |
|-------|----------------------|
| 発行年月日 | 令和6年11月              |
| 発行者   | 独立行政法人国立病院機構関門医療センター |
| 所在地   | 山口県下関市長府外浦町1-1       |
| 発行責任者 | 吉野 茂文                |
| 印刷所   | 株式会社 アートネクスト         |

---



